

**令和4年度
第4次日高市地域福祉計画策定に向けた
市民意識調査
市民ワークショップ
地域懇談会
報告書**

**令和5年3月
日高市**

目 次

1. 市民意識調査報告書

(1) 調査概要	1
(2) 調査結果	2
あなたとご家族について	2
問1 (1) 性別	2
問1 (2) 年齢	2
問1 (3) 職業	3
問1 (4) 世帯の状況	3
問1 (5) 同居家族の状況	4
問1 (6) 居住地区	5
問1 (7) 住居形態	5
問1 (8) 居住年数	6
お住まいの地域について	7
問2 「自分の地域」と感じる範囲	7
問3 地域の住みやすさについて	8
問4 地域や周辺の環境について	9
問5 どのような近所づきあいをしているか	15
付問1 近所づきあいをしていない理由	17
問6 地域の行事や活動などに参加しているか	18
問7 地域活動や行事を活発にするために大切なこと	20
日常生活や福祉の課題について	22
問8 親しい人が身近にいると感じるか	22
問9 どのようなことに悩みや不安を感じるか	23
問10 悩みや不安なことの相談先	25
問11 日常生活を送る上で必要な手助け	27
問12 高齢者や障がい者、子育てをしている人が支援を受けるために必要なこと	29
問13 健康や福祉に関する情報で役に立っているもの	31
問14 「ケアラー」という言葉を知っているか	33
問15 「ヤングケアラー」という言葉を知っているか	34
地域福祉を進めるための取り組みについて	35
問16 福祉との関わり方について	35
付問1 福祉活動をする理由	37
付問2 福祉活動をしていない理由	38
問17 身近な地域での住民同士の支え合いは必要か	39
付問1 身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なこと	40
付問2 手助けできると思う地域での支え合い活動	42
付問3 地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件	44
問18 身の回りで起こる福祉の課題に対してどのように思うか	46

(3) 調査結果に基づく分析（クロス集計）	49
問 11「日常生活を送る上で必要な手助け」と問 17 付問 2「手助けできると思う地域での支え合い活動」のクロス集計	49
問 16 付問 2「福祉活動をしていない理由」と問 17 付問 3「地域での支え合い活動を活発にするために必要な条件」のクロス集計	52
問 16「福祉との関わり方」と問 17 付問 1「身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なこと」とのクロス集計	55
問 16「福祉との関わり方」と問 17 付問 3「地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件」とのクロス集計	56
(4) 総 括	57
(5) 新たな地域福祉計画の策定に向けたアンケート調査票	60
2. 地域福祉に関する市民ワークショップ報告書	
(1) ワークショップ実施概要	71
(2) ワークショップ実施結果	72
第 1 回-意見交換の要約	72
第 2 回-意見交換の要約	74
第 3 回-意見交換の要約	76
第 4 回-意見交換の要約	78
第 5 回-意見交換の要約	80
(3) 総 括	83
3. 地域懇談会報告書	
(1) 地域懇談会の概要	87
(2) 各学校区の内容	88
○高萩学校区	88
○高麗学校区	90
○高根学校区	92
○武蔵台学校区	94
○高麗川学校区	96
○高萩北学校区	98
(3) 総 括	100

1.市民意識調査報告書

(1) 調査概要

調査の目的

本市では、「第4次日高市地域福祉計画」の策定に当たり、地域を取り巻く環境や地域福祉に対する意見などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的とした市民意識調査を実施しました。

調査の方法

- 調査対象：市内在住の18歳以上の方1,500名（無作為抽出）
- 調査期間：令和4年9月8日～9月26日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 配布・回収状況：

	配布数	回収数	回収率
住民対象	1,500票	671票	44.7%

この報告書の見方

この報告書の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、全て小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位までを表記します。このため、全ての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が100%を超えることがあります。

(2) 調査結果

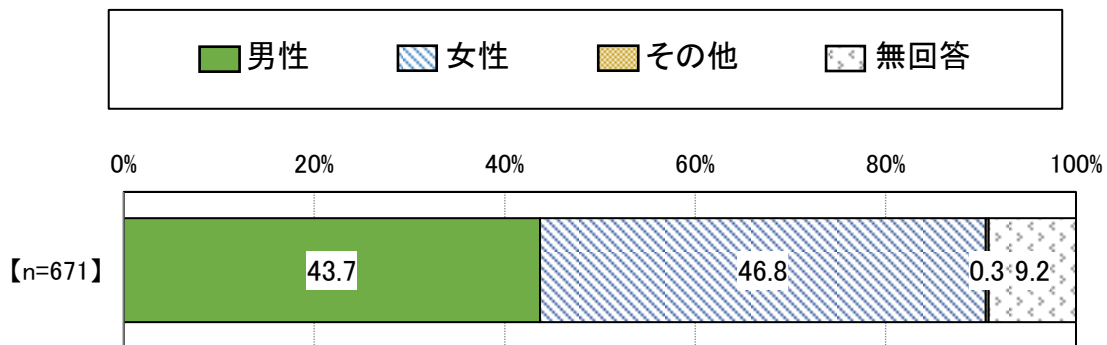
あなたとご家族について

問1 あなたとご家族についてお答えください。(それぞれ当てはまるものに○)

問1 (1) 性別

性別は、「男性」が43.7%、「女性」が46.8%、「その他」が0.3%となっています。

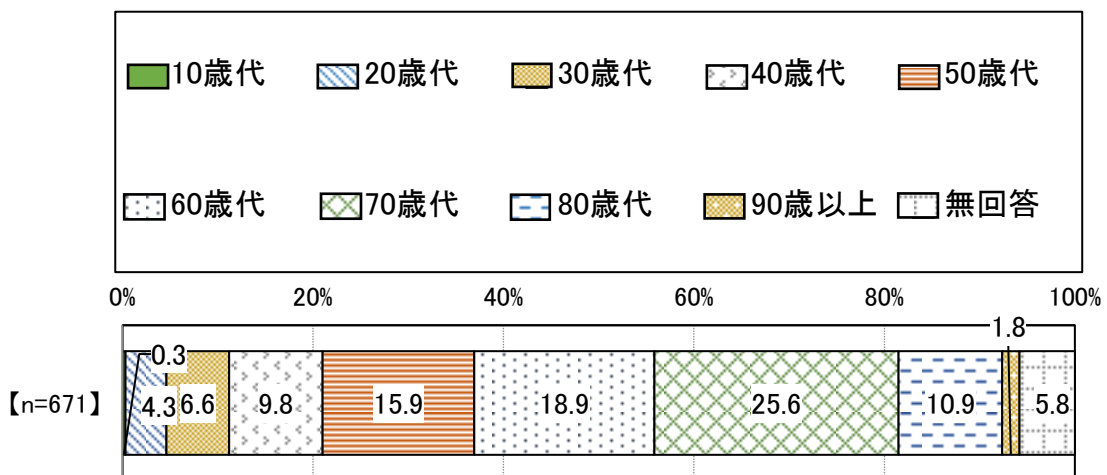
【性別】



問1 (2) 年齢

年齢は、「70歳代」が25.6%で最も多く、以下、「60歳代」が18.9%、「50歳代」が15.9%、「80歳代」が10.9%、「40歳代」が9.8%、「30歳代」が6.6%、「20歳代」が4.3%、「90歳以上」が1.8%、「10歳代」が0.3%となっています。

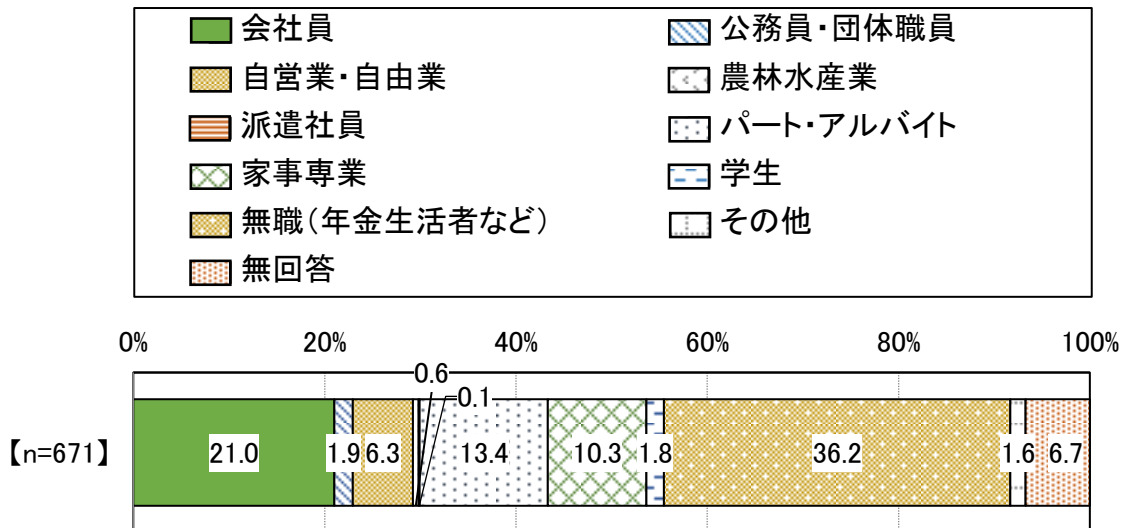
【年齢】



問1 (3) 職業

職業は、「無職（年金生活者など）」が36.2%で最も多く、以下、「会社員」が21.0%、「パート・アルバイト」が13.4%、「家事専業」が10.3%、「自営業・自由業」が6.3%、「公務員・団体職員」が1.9%、「学生」が1.8%、「農林水産業」が0.6%、「派遣社員」が0.1%となっています。

【職業】



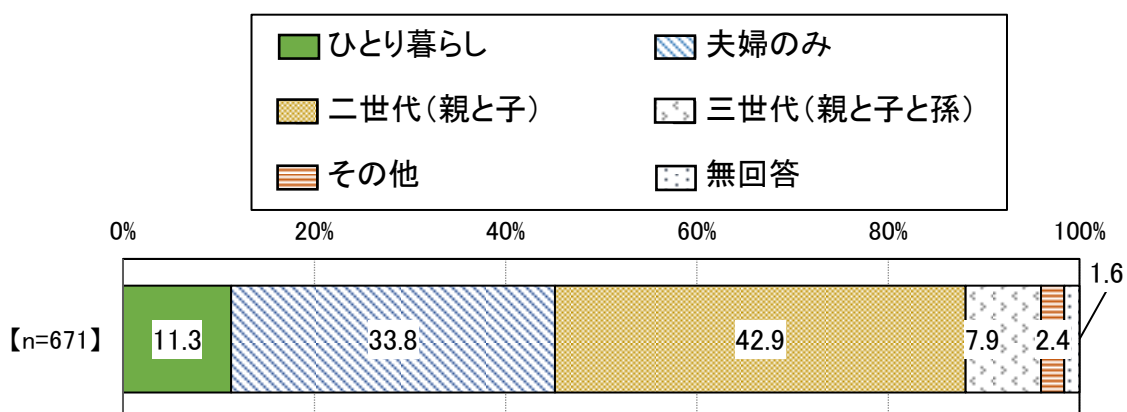
問1 (4) 世帯の状況

世帯の状況は、「二世帯（親と子）」が42.9%で最も多く、以下、「夫婦のみ」が33.8%、「ひとり暮らし」が11.3%、「三世帯（親と子と孫）」が7.9%となっています。

【その他】

兄弟と暮らしている／別棟に子と孫 など

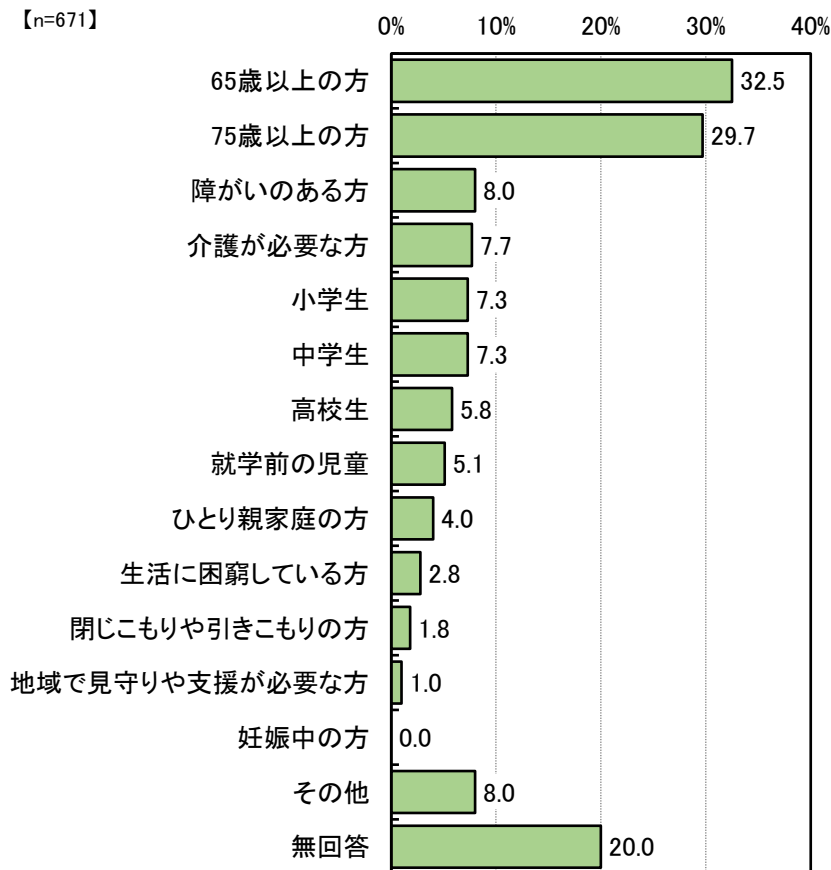
【世帯の状況】



問1 (5) 同居家族の状況 (ご自身も含み、当てはまるもの全てに○)

同居家族の状況は、「65歳以上の方」が32.5%で最も多く、以下、「75歳以上の方」が29.7%、「障がいのある方」が8.0%、「介護が必要な方」が7.7%「小学生」、「中学生」がともに7.3%、「高校生」5.8%、「就学前の児童」5.1%、「ひとり親家庭の方」4.0%、「生活に困窮している方」2.8%、「閉じこもりや引きこもりの方」1.8%、「地域で見守りや支援が必要な方」1.0%となっています。

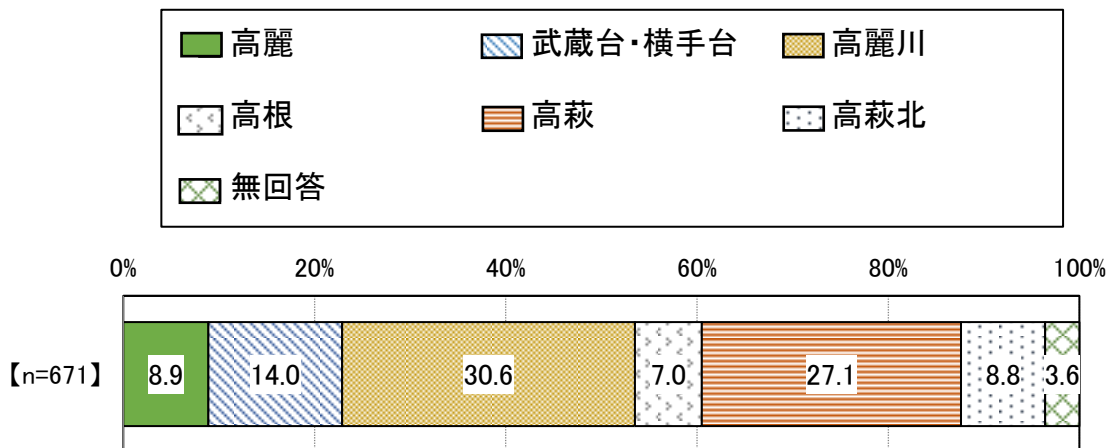
【同居家族の状況】



問1 (6) 居住地区

居住地区は、「高麗川」が30.6%で最も多く、以下、「高萩」が27.1%、「武蔵台・横手台」が14.0%、「高麗」が8.9%、「高麗北」が8.8%、「高根」が7.0%となっています。

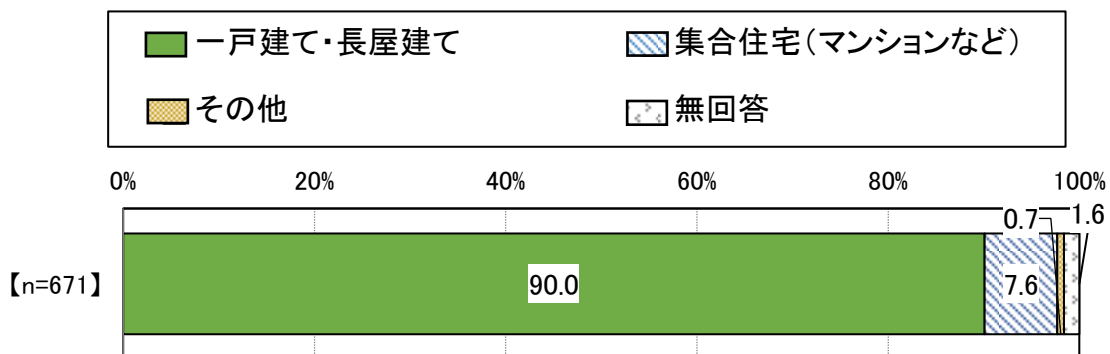
【居住地区】



問1 (7) 住居形態

住居形態は、「一戸建て・長屋建て」が90.0%、「集合住宅（マンションなど）」が7.6%となっています。

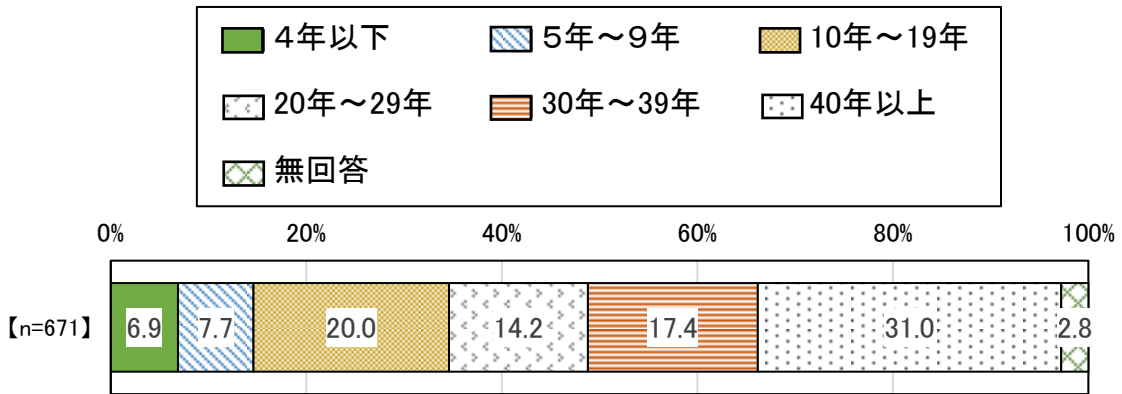
【住居形態】



問1 (8) 居住年数

居住年数は、「40年以上」が31.0%で最も多く、以下、「10年～19年」が20.0%、「30年～39年」が17.4%、「20年～29年」が14.2%、「5年～9年」が7.7%、「4年以下」が6.9%となっています。

【居住年数】



お住まいの地域について

問2 あなたにとって「自分の地域」と感じるのはどれくらいの範囲ですか。(〇は1つ)
 ～「自治会・町内会の範囲」が3割、「自宅周辺の近隣」が2割超～

「自分の地域」と感じる範囲は、「自治会・町内会の範囲」が33.8%で最も多く、以下、「自宅周辺の近隣」が27.6%、「日高市全域」が19.7%、「学区の範囲」が14.8%などとなっています。

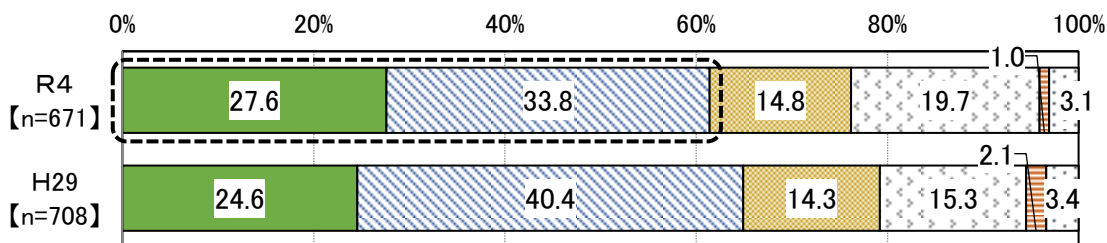
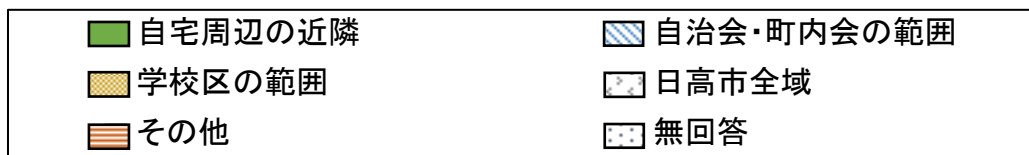
居住区別でみると、「武蔵台・横手台」では、「自治会・町内会の範囲」の割合が他の居住地区よりも多い傾向があります。

平成29年調査との経年比較では、「自治会・町内会の範囲」の割合が減り、「日高市全域」の割合が増えています。

【その他】

近隣市位まで など

【「自分の地域」と感じる範囲】



		自宅周辺の近隣	自治会・町内会の範囲	学区の範囲	日高市全域	その他	無回答
性別	男性【n=293】	24.2	35.8	12.3	24.6	1.4	1.7
	女性【n=314】	29.9	32.5	16.9	16.6	0.6	3.5
	その他【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	20.7	10.3	44.8	20.7	0.0	3.4
	30歳代【n=44】	38.6	13.6	25.0	22.7	0.0	0.0
	40歳代【n=66】	22.7	25.8	24.2	22.7	1.5	3.0
	50歳代【n=107】	19.6	34.6	15.9	28.0	0.9	0.9
	60歳代【n=127】	22.0	45.7	11.8	18.9	1.6	0.0
	70歳代【n=172】	25.0	39.0	10.5	19.8	0.6	5.2
	80歳代【n=73】	42.5	30.1	6.8	13.7	0.0	6.8
	90歳以上【n=12】	41.7	50.0	0.0	0.0	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	30.0	23.3	26.7	11.7	1.7	6.7
	武蔵台・横手台【n=94】	20.2	47.9	9.6	17.0	2.1	3.2
	高麗川【n=205】	31.7	30.2	14.1	22.0	0.5	1.5
	高根【n=47】	25.5	27.7	12.8	27.7	2.1	4.3
	高萩【n=182】	28.0	37.9	10.4	19.8	1.1	2.7
	高萩北【n=59】	16.9	32.2	28.8	18.6	0.0	3.4

問3 自分の地域の住みやすさについて総合的にどう感じますか。(〇は1つ)

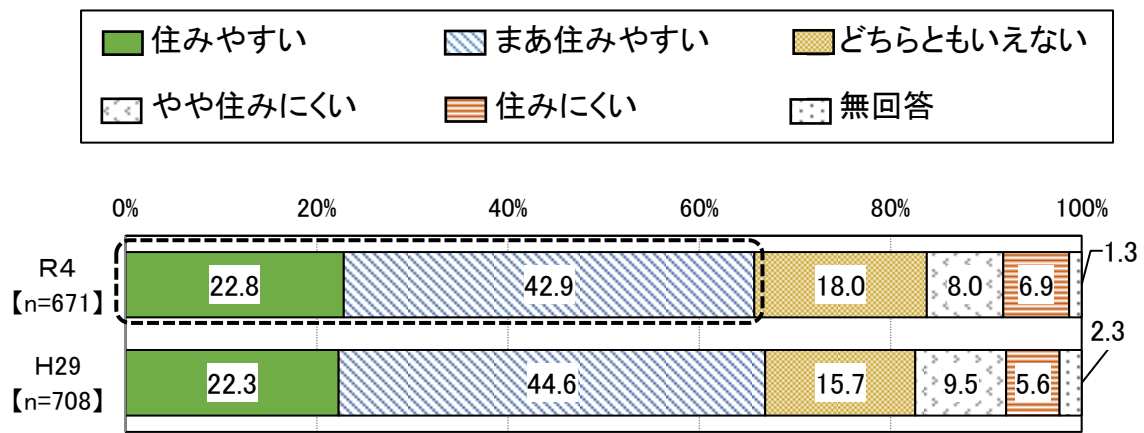
～「住みやすい」と「まあ住みやすい」の合計は6割超～

地域の住みやすさは、「まあ住みやすい」が42.9%で最も多く、以下、「住みやすい」が22.8%、「どちらともいえない」が18.0%、「やや住みにくい」が8.0%、「住みにくい」が6.9%となっています。

居住地区別で「住みやすい」と「まあ住みやすい」の合計をみると、「高麗」が78.3%と最も多く、最も少ない「武蔵台・横手台」とは17.7ポイントの差があります。

平成29年調査との経年比較では、「まあ住みやすい」と「やや住みにくい」の割合が減り、「どちらともいえない」の割合が増えています。

【地域の住みやすさについて】



		住みやすい	まあ住みやすい	どちらともいえない	やや住みにくい	住みにくい	無回答
性別	男性【n=293】	27.0	43.7	14.3	9.2	5.1	0.7
	女性【n=314】	21.0	43.6	19.4	7.3	7.0	1.6
	その他【n=2】	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	20.7	44.8	27.6	0.0	3.4	3.4
	30歳代【n=44】	13.6	45.5	11.4	15.9	13.6	0.0
	40歳代【n=66】	21.2	51.5	16.7	6.1	1.5	3.0
	50歳代【n=107】	25.2	39.3	19.6	12.1	3.7	0.0
	60歳代【n=127】	21.3	46.5	18.9	6.3	6.3	0.8
	70歳代【n=172】	23.8	44.8	15.7	8.1	5.8	1.7
	80歳代【n=73】	28.8	35.6	17.8	8.2	9.6	0.0
	90歳以上【n=12】	50.0	25.0	16.7	0.0	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	33.3	45.0	6.7	5.0	8.3	1.7
	武蔵台・横手台【n=94】	17.0	43.6	18.1	12.8	6.4	2.1
	高麗川【n=205】	29.8	37.6	20.5	4.9	6.8	0.5
	高根【n=47】	14.9	53.2	19.1	8.5	4.3	0.0
	高萩【n=182】	18.1	46.2	15.9	10.4	8.2	1.1
	高萩北【n=59】	22.0	42.4	23.7	8.5	1.7	1.7

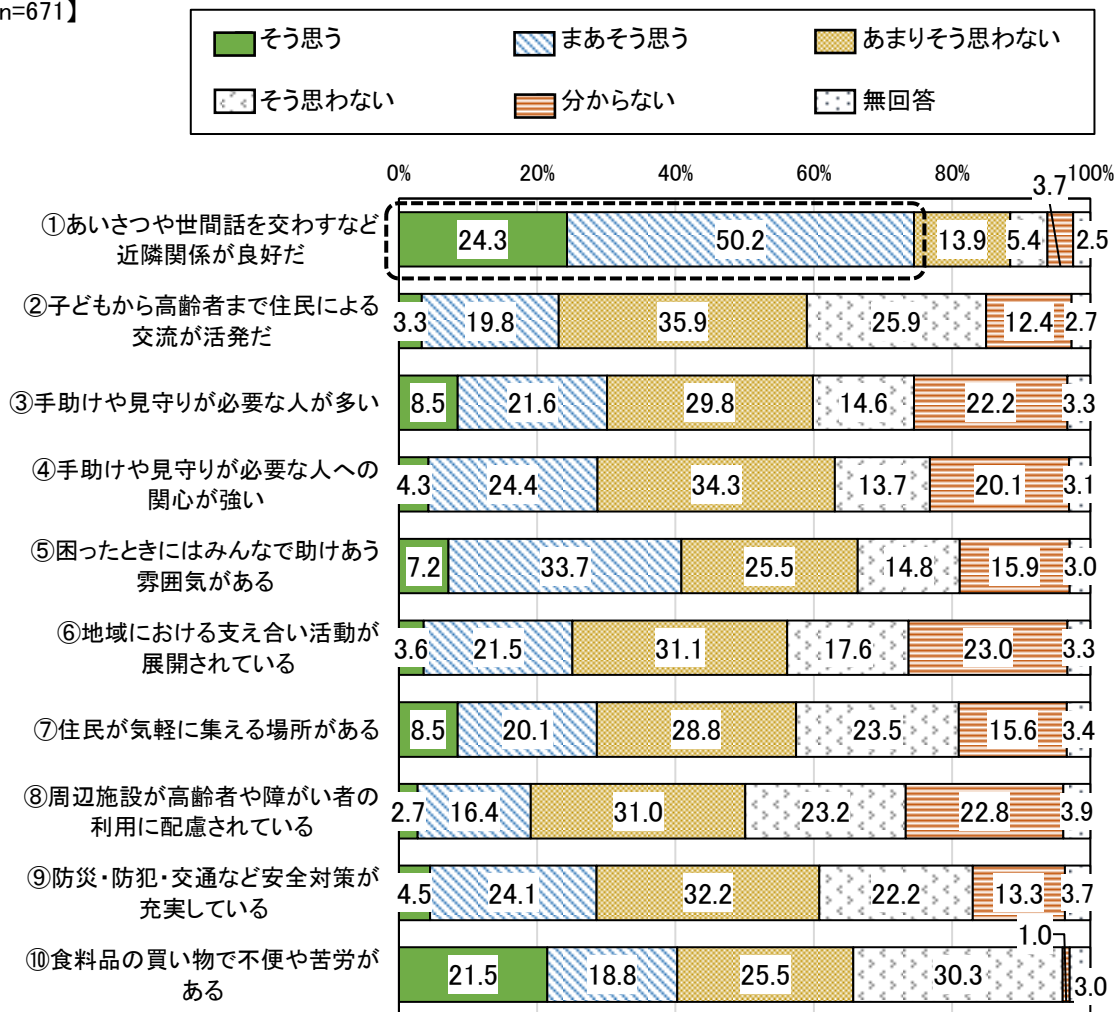
問4 自分の地域や周辺の環境についてどう思いますか。(それぞれ当てはまるものに○)
 ~「①あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ」は

「そう思う」と「まあそう思う」の合計が7割超~

地域や周辺の環境については、「①あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ」、「⑤困ったときにはみんなで助けあう雰囲気がある」では「まあそう思う」の割合が最も多くなっています。「⑩食料品の買い物で不便や苦労がある」では「そう思わない」の割合が最も多くなっています。そのほかの設問では、「あまりそう思わない」の割合が最も多くなっています。

【地域や周辺の環境について】

【n=671】



①あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を居住地区別で見ると、「高萩」で8割となっていますが、「高根」では5割と差がみられます。
年齢別では、すべての年代で6割以上となっています。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からな い	無回答
性別	男性【n=293】	24.9	48.8	14.7	5.1	4.4	2.0
	女性【n=314】	24.8	52.2	13.1	5.1	2.5	2.2
	その他【n=2】	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	10.3	62.1	20.7	3.4	3.4	0.0
	30歳代【n=44】	20.5	47.7	13.6	13.6	4.5	0.0
	40歳代【n=66】	24.2	54.5	15.2	0.0	4.5	1.5
	50歳代【n=107】	22.4	52.3	14.0	7.5	0.9	2.8
	60歳代【n=127】	18.1	55.1	14.2	6.3	3.9	2.4
	70歳代【n=172】	31.4	47.7	12.2	2.9	2.9	2.9
	80歳代【n=73】	32.9	39.7	11.0	5.5	6.8	4.1
	90歳以上【n=12】	25.0	50.0	0.0	8.3	16.7	0.0
居住地区	高麗【n=60】	21.7	56.7	15.0	3.3	3.3	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	22.3	50.0	13.8	6.4	3.2	4.3
	高麗川【n=205】	23.4	48.3	14.6	5.9	5.4	2.4
	高根【n=47】	23.4	29.8	29.8	10.6	4.3	2.1
	高萩【n=182】	28.0	54.9	9.9	3.3	1.6	2.2
	高萩北【n=59】	22.0	54.2	13.6	3.4	5.1	1.7

②子どもから高齢者まで住民による交流が活発だ

性別、年齢、居住地区のいずれの区分でも「そう思う」、「まあそう思う」の合計よりも「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計の方が多くなっています。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からな い	無回答
性別	男性【n=293】	4.4	22.5	36.5	23.2	10.9	2.4
	女性【n=314】	2.2	17.5	37.3	27.7	13.1	2.2
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	20.7	34.5	24.1	13.8	0.0
	30歳代【n=44】	4.5	15.9	43.2	9.1	27.3	0.0
	40歳代【n=66】	4.5	24.2	37.9	18.2	13.6	1.5
	50歳代【n=107】	3.7	25.2	34.6	28.0	5.6	2.8
	60歳代【n=127】	2.4	18.1	34.6	30.7	12.6	1.6
	70歳代【n=172】	2.3	19.2	39.5	25.6	10.5	2.9
	80歳代【n=73】	4.1	15.1	32.9	30.1	12.3	5.5
	90歳以上【n=12】	0.0	16.7	8.3	33.3	33.3	8.3
居住地区	高麗【n=60】	8.3	15.0	45.0	26.7	5.0	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	2.1	12.8	37.2	27.7	14.9	5.3
	高麗川【n=205】	3.4	26.3	35.6	22.0	10.2	2.4
	高根【n=47】	2.1	8.5	38.3	40.4	10.6	0.0
	高萩【n=182】	3.3	21.4	31.3	27.5	13.7	2.7
	高萩北【n=59】	1.7	16.9	40.7	23.7	15.3	1.7

③手助けや見守りが必要な人が多い

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を年齢別で見ると、20歳代、30歳代で多くなっていますが、40歳代、60歳代以上では「そう思わない」、「あまりそう思わない」を合計した割合のほうが多くなっています。50歳代では、「そう思う」と「まあそう思う」の合計と「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計の差が一番小さくなっています。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	9.9	22.2	31.1	15.0	18.8	3.1
	女性【n=314】	7.0	22.0	30.3	14.3	23.9	2.5
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	17.2	27.6	24.1	13.8	17.2	0.0
	30歳代【n=44】	18.2	13.6	18.2	6.8	43.2	0.0
	40歳代【n=66】	7.6	13.6	31.8	18.2	27.3	1.5
	50歳代【n=107】	13.1	28.0	35.5	4.7	16.8	1.9
	60歳代【n=127】	4.7	22.0	30.7	21.3	18.9	2.4
	70歳代【n=172】	4.1	24.4	33.1	15.1	19.2	4.1
	80歳代【n=73】	8.2	17.8	23.3	19.2	24.7	6.8
	90歳以上【n=12】	16.7	8.3	16.7	16.7	33.3	8.3
居住地区	高麗【n=60】	3.3	25.0	41.7	20.0	10.0	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	11.7	31.9	22.3	8.5	20.2	5.3
	高麗川【n=205】	6.3	15.6	32.7	17.1	25.4	2.9
	高根【n=47】	14.9	34.0	25.5	10.6	14.9	0.0
	高萩【n=182】	8.2	23.6	28.0	12.1	24.2	3.8
	高萩北【n=59】	10.2	11.9	30.5	20.3	23.7	3.4

④手助けや見守りが必要な人への関心が強い

性別、年齢、居住地区のいずれの区分でも「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計の方が多くなっています。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	3.8	23.9	35.5	15.7	18.4	2.7
	女性【n=314】	5.7	24.5	34.7	12.4	20.4	2.2
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	3.4	31.0	24.1	24.1	17.2	0.0
	30歳代【n=44】	4.5	9.1	36.4	13.6	36.4	0.0
	40歳代【n=66】	3.0	12.1	40.9	13.6	27.3	3.0
	50歳代【n=107】	3.7	27.1	42.1	13.1	12.1	1.9
	60歳代【n=127】	3.9	25.2	34.6	14.2	19.7	2.4
	70歳代【n=172】	7.0	29.7	27.3	14.0	19.2	2.9
	80歳代【n=73】	1.4	24.7	37.0	12.3	17.8	6.8
	90歳以上【n=12】	8.3	8.3	33.3	0.0	41.7	8.3
居住地区	高麗【n=60】	5.0	35.0	35.0	11.7	13.3	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	1.1	31.9	33.0	9.6	19.1	5.3
	高麗川【n=205】	4.9	21.5	35.1	14.1	22.0	2.4
	高根【n=47】	4.3	21.3	36.2	21.3	17.0	0.0
	高萩【n=182】	5.5	24.2	32.4	14.3	19.8	3.8
	高萩北【n=59】	3.4	16.9	37.3	15.3	23.7	3.4

⑤困ったときにはみんなで助けあう雰囲気がある

「そう思う」と「まあそう思う」の合計は、年齢別では、20歳代で5割台と割合が最も多くなっています。その一方で、30歳代は3割弱と少なくなっています。

居住地区別では、「高麗」が5割と最も多く、「高麗川」、「高萩北」が4割台、ほかの居住地区では3割台と差がみられました。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からな い	無回答
性別	男性【n=293】	7.8	36.5	22.2	16.7	14.0	2.7
	女性【n=314】	6.4	32.8	29.3	12.7	16.2	2.5
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	51.7	13.8	13.8	13.8	0.0
	30歳代【n=44】	4.5	25.0	25.0	20.5	25.0	0.0
	40歳代【n=66】	4.5	43.9	21.2	10.6	16.7	3.0
	50歳代【n=107】	6.5	34.6	29.0	15.9	12.1	1.9
	60歳代【n=127】	7.9	33.1	25.2	16.5	15.7	1.6
	70歳代【n=172】	6.4	34.3	25.6	11.6	16.9	5.2
	80歳代【n=73】	8.2	27.4	31.5	16.4	11.0	5.5
	90歳以上【n=12】	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0
居住地区	高麗【n=60】	11.7	40.0	26.7	10.0	11.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	5.3	30.9	30.9	10.6	17.0	5.3
	高麗川【n=205】	9.3	33.2	23.4	15.1	16.1	2.9
	高根【n=47】	4.3	31.9	34.0	19.1	10.6	0.0
	高萩【n=182】	6.0	33.5	25.3	15.4	16.5	3.3
	高萩北【n=59】	5.1	37.3	18.6	18.6	18.6	1.7

⑥地域における支え合い活動が展開されている

性別、年齢、居住地区のいずれの区分でも「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計の方が多い傾向がみられました。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からな い	無回答
性別	男性【n=293】	3.8	21.2	35.2	19.1	17.7	3.1
	女性【n=314】	2.9	21.3	29.6	16.9	26.8	2.5
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	24.1	20.7	17.2	31.0	0.0
	30歳代【n=44】	2.3	20.5	20.5	20.5	36.4	0.0
	40歳代【n=66】	3.0	19.7	37.9	7.6	28.8	3.0
	50歳代【n=107】	2.8	25.2	30.8	15.0	24.3	1.9
	60歳代【n=127】	2.4	22.0	36.2	17.3	20.5	1.6
	70歳代【n=172】	4.7	22.1	32.6	18.6	18.0	4.1
	80歳代【n=73】	2.7	13.7	28.8	28.8	17.8	8.2
	90歳以上【n=12】	8.3	8.3	41.7	8.3	25.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	5.0	25.0	38.3	23.3	8.3	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	5.3	29.8	25.5	12.8	19.1	7.4
	高麗川【n=205】	3.4	19.0	27.8	16.6	30.7	2.4
	高根【n=47】	0.0	21.3	42.6	23.4	12.8	0.0
	高萩【n=182】	2.7	21.4	32.4	17.6	22.0	3.8
	高萩北【n=59】	5.1	15.3	32.2	15.3	30.5	1.7

⑦住民が気軽に集える場所がある

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を年齢別で見ると、80歳代が最も多く、30歳代が最も少なくなっています。

居住地区別では、「高萩北」が最も少なくなっており、相対的に「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が最も多くなっています。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	8.5	23.2	27.6	23.5	13.3	3.8
	女性【n=314】	7.6	16.9	32.8	23.6	16.6	2.5
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	20.7	31.0	20.7	20.7	0.0
	30歳代【n=44】	0.0	15.9	31.8	18.2	34.1	0.0
	40歳代【n=66】	3.0	19.7	31.8	19.7	21.2	4.5
	50歳代【n=107】	5.6	22.4	34.6	21.5	14.0	1.9
	60歳代【n=127】	7.9	24.4	29.1	25.2	11.8	1.6
	70歳代【n=172】	11.0	17.4	29.7	25.6	11.6	4.7
	80歳代【n=73】	20.5	17.8	16.4	28.8	9.6	6.8
	90歳以上【n=12】	8.3	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3
居住地区	高麗【n=60】	15.0	20.0	33.3	25.0	6.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	5.3	26.6	27.7	19.1	16.0	5.3
	高麗川【n=205】	10.7	20.0	25.9	23.4	16.6	3.4
	高根【n=47】	4.3	27.7	25.5	34.0	6.4	2.1
	高萩【n=182】	8.8	17.0	29.1	23.1	18.7	3.3
	高萩北【n=59】	1.7	15.3	42.4	18.6	18.6	3.4

⑧周辺施設が高齢者や障がい者の利用に配慮されている

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を年齢別で見ると、60歳代と30歳代の割合が多い傾向がみられます。

居住地区別では、「高麗川」、「武蔵台・横手台」、「高麗」で割合が多い傾向がみられました。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	2.0	21.2	30.7	22.2	21.2	2.7
	女性【n=314】	3.2	13.7	32.5	23.9	22.6	4.1
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	13.8	41.4	10.3	27.6	0.0
	30歳代【n=44】	0.0	25.0	18.2	18.2	38.6	0.0
	40歳代【n=66】	1.5	16.7	40.9	22.7	15.2	3.0
	50歳代【n=107】	1.9	19.6	35.5	19.6	20.6	2.8
	60歳代【n=127】	3.1	22.8	26.0	24.4	21.3	2.4
	70歳代【n=172】	2.3	13.4	33.1	25.0	20.9	5.2
	80歳代【n=73】	4.1	11.0	24.7	30.1	21.9	8.2
	90歳以上【n=12】	16.7	0.0	8.3	41.7	25.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	6.7	15.0	38.3	26.7	11.7	1.7
	武蔵台・横手台【n=94】	1.1	22.3	26.6	21.3	22.3	6.4
	高麗川【n=205】	5.4	18.0	24.4	18.0	29.8	4.4
	高根【n=47】	0.0	14.9	44.7	29.8	10.6	0.0
	高萩【n=182】	1.1	12.1	31.3	27.5	24.2	3.8
	高萩北【n=59】	0.0	18.6	42.4	20.3	16.9	1.7

⑨防災・防犯・交通など安全対策が充実している

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を年齢別で見ると、20歳代が最も多くなっています。その一方で、30歳代が最も少なく、相対的に「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が多くなっています。

居住地区別では、「高萩北」が最も多くなっています。その一方で、「高根」が最も少なくなっています。また、「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が最も多いのが、「高根」でした。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	2.7	26.3	36.9	19.1	12.3	2.7
	女性【n=314】	5.7	22.9	30.6	23.9	12.7	4.1
	その他【n=2】	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	31.0	41.4	3.4	17.2	0.0
	30歳代【n=44】	2.3	18.2	34.1	27.3	18.2	0.0
	40歳代【n=66】	1.5	30.3	28.8	27.3	7.6	4.5
	50歳代【n=107】	2.8	22.4	34.6	22.4	15.9	1.9
	60歳代【n=127】	3.9	26.8	33.9	22.0	10.2	3.1
	70歳代【n=172】	4.7	22.7	36.6	20.9	9.9	5.2
	80歳代【n=73】	8.2	20.5	23.3	30.1	13.7	4.1
	90歳以上【n=12】	16.7	16.7	16.7	16.7	25.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	3.3	20.0	40.0	25.0	10.0	1.7
	武蔵台・横手台【n=94】	4.3	26.6	35.1	13.8	11.7	8.5
	高麗川【n=205】	6.3	25.4	29.8	20.5	14.1	3.9
	高根【n=47】	2.1	23.4	38.3	29.8	6.4	0.0
	高萩【n=182】	4.9	22.5	28.0	26.4	15.4	2.7
	高萩北【n=59】	1.7	30.5	37.3	16.9	11.9	1.7

⑩食料品の買い物で不便や苦労がある

「そう思う」と「まあそう思う」の合計を年齢別で見ると、4割台の年齢階級と3割台の年齢階級の二極化の様相がみられます。

居住地区別で見ると、「高麗」、「武蔵台・横手台」で6割となっていますが、「高麗川」、「高萩北」で2割と大きな差がみられます。

		そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	17.4	17.4	22.9	38.6	1.0	2.7
	女性【n=314】	23.9	17.8	29.3	25.5	1.0	2.5
	その他【n=2】	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	17.2	24.1	13.8	44.8	0.0	0.0
	30歳代【n=44】	22.7	11.4	29.5	34.1	2.3	0.0
	40歳代【n=66】	16.7	18.2	16.7	43.9	1.5	3.0
	50歳代【n=107】	20.6	18.7	26.2	30.8	1.9	1.9
	60歳代【n=127】	15.0	22.8	29.9	29.9	0.0	2.4
	70歳代【n=172】	20.9	20.9	25.6	27.9	0.6	4.1
	80歳代【n=73】	31.5	12.3	30.1	21.9	0.0	4.1
	90歳以上【n=12】	33.3	0.0	33.3	25.0	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	38.3	23.3	23.3	13.3	1.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	26.6	38.3	13.8	14.9	2.1	4.3
	高麗川【n=205】	15.1	5.9	26.8	47.3	0.5	4.4
	高根【n=47】	19.1	38.3	23.4	19.1	0.0	0.0
	高萩【n=182】	23.1	18.7	32.4	22.0	1.6	2.2
	高萩北【n=59】	11.9	10.2	25.4	50.8	0.0	1.7

問5 どのような近所づきあいをしていますか。(○は1つ)

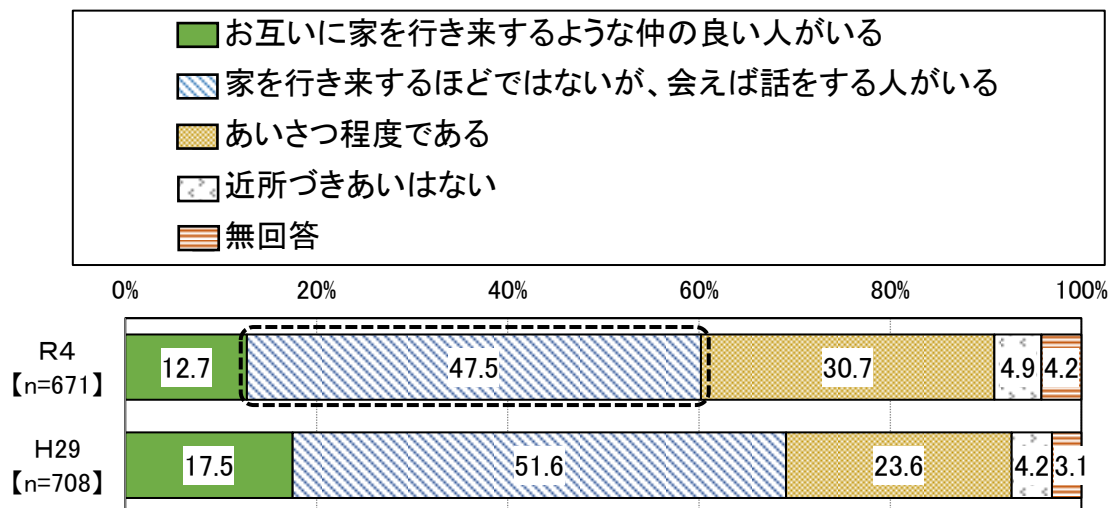
～「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」が5割弱～

どのような近所づきあいをしているかは、「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」が47.5%で最も多く、以下、「あいさつ程度である」が30.7%、「お互いに家を行き来するような仲の良い人がいる」が12.7%、「近所づきあいはない」が4.9%となっています。

年齢別でみると、40歳代までは「あいさつ程度である」の割合が多く、50歳代以降では「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」の割合が多くなるなど、二極化している様子が見えます。

平成29年調査との経年比較では、「お互いに家を行き来するような仲の良い人がいる」と「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」の割合が減り、「あいさつ程度である」の割合が増えています。

【どのような近所づきあいをしているか】



		お互いに 家を行き 来するよ うな仲の良 い人がい る	家を行き 来するほ どではな いが、会 えば話を する人が いる	あいさつ 程度であ る	近所づき あいはな い	無回答
性別	男性【n=293】	9.6	50.5	31.1	6.5	2.4
	女性【n=314】	14.6	46.2	31.8	3.5	3.8
	その他【n=2】	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	0.0	13.8	72.4	13.8	0.0
	30歳代【n=44】	2.3	31.8	52.3	13.6	0.0
	40歳代【n=66】	6.1	34.8	53.0	3.0	3.0
	50歳代【n=107】	8.4	53.3	32.7	3.7	1.9
	60歳代【n=127】	9.4	54.3	28.3	6.3	1.6
	70歳代【n=172】	22.1	52.9	18.0	2.9	4.1
	80歳代【n=73】	17.8	49.3	16.4	2.7	13.7
	90歳以上【n=12】	8.3	50.0	25.0	0.0	16.7
	居住 地区	高麗【n=60】	18.3	61.7	16.7	1.7
武蔵台・横手台【n=94】		16.0	35.1	38.3	4.3	6.4
高麗川【n=205】		14.6	45.4	28.8	7.3	3.9
高根【n=47】		6.4	48.9	36.2	8.5	0.0
高萩【n=182】		13.2	48.4	31.3	3.3	3.8
	高萩北【n=59】	3.4	54.2	35.6	1.7	5.1

【「3. あいさつ程度である」「4. 近所づきあいはない」と答えた方】

付問1 あまり近所づきあいをしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

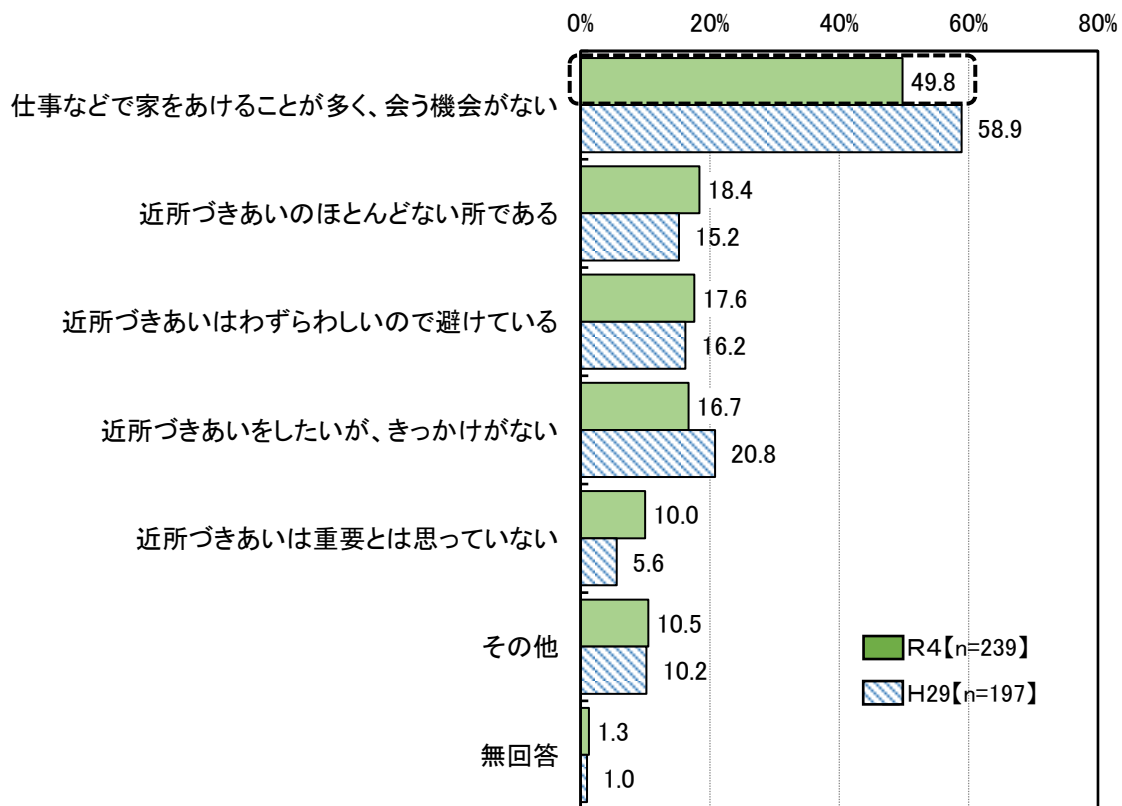
～「仕事などで家をあけることが多く、会う機会がない」が5割弱～

近所づきあいをしていない理由は、「仕事などで家をあけることが多く、会う機会がない」が49.8%で最も多く、以下、「近所づきあいのほとんどない所である」が18.4%、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が17.6%、「近所づきあいをしたいが、きっかけがない」が16.7%となっています。

【その他】

コロナ禍で近所づきあいをしていない／話が合わない／出かける機会がない など

【近所づきあいをしていない理由】



問6 自分の地域で行われている行事や活動などに参加していますか。(〇はいくつでも)
 ~活動への参加は「清掃・美化活動」が5割「お祭り、盆踊りなど」は3割弱、

「活動はしていない」も3割~

地域の行事や活動などに参加しているかは、「清掃・美化活動」が52.2%で最も多く、以下、「活動はしていない」が31.6%、「お祭り、盆踊りなど」が27.0%、「体育祭」が18.6%、「防犯・防災活動」が16.1%などとなっています。

年齢別で「お祭り、盆踊りなど」をみると、20歳代、30歳代の割合は少なく、40歳代以降では割合が多い傾向がみられます。

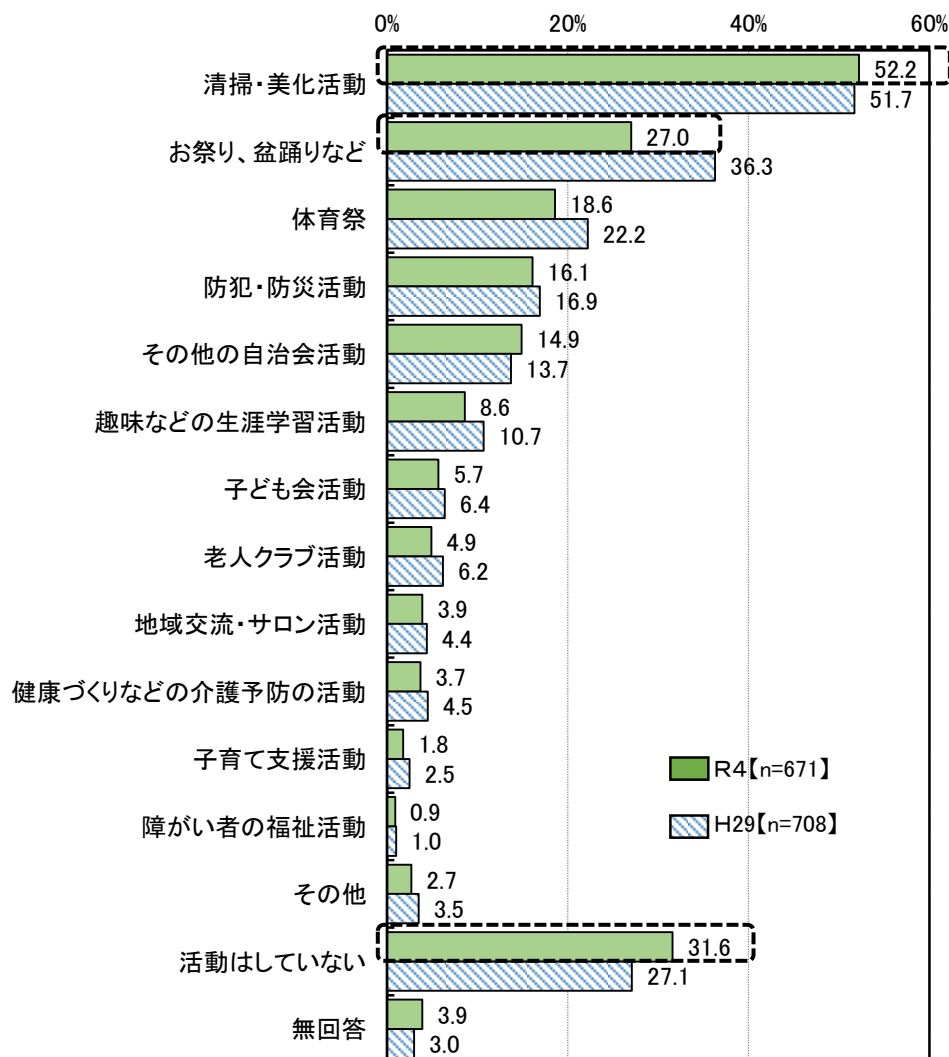
居住地区別で「お祭り、盆踊りなど」をみると、「武蔵台・横手台」が最も少なく、最も多い「高萩北」との差は、19.2ポイントでした。

平成29年調査との経年比較では、上位項目の順位に変わりはありませんでしたが、「お祭り、盆踊り」、「体育祭」の割合が減っています。

【その他】

地域の廃品回収／コロナ禍で行事がない、活動を中止している など

【地域の行事や活動などに参加しているか】



		清掃・美化活動	お祭り、盆踊りなど	体育祭	防犯・防災活動	その他の自治会活動	趣味などの生涯学習活動	子ども会活動	老人クラブ活動
性別	男性【n=293】	50.5	32.1	26.6	16.0	21.2	8.2	6.8	4.1
	女性【n=314】	55.4	22.3	11.5	16.2	9.6	9.9	5.4	5.4
	その他【n=2】	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	13.8	13.8	10.3	6.9	3.4	0.0	3.4	0.0
	30歳代【n=44】	34.1	13.6	13.6	11.4	11.4	2.3	18.2	0.0
	40歳代【n=66】	54.5	34.8	22.7	18.2	12.1	1.5	19.7	1.5
	50歳代【n=107】	55.1	29.9	21.5	7.5	18.7	1.9	5.6	1.9
	60歳代【n=127】	59.8	30.7	21.3	18.9	21.3	11.0	0.0	1.6
	70歳代【n=172】	61.6	29.1	18.0	22.7	13.4	16.9	4.7	7.6
	80歳代【n=73】	47.9	20.5	19.2	17.8	16.4	11.0	2.7	17.8
	90歳以上【n=12】	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	61.7	26.7	26.7	30.0	15.0	13.3	10.0	3.3
	武蔵台・横手台【n=94】	57.4	18.1	5.3	5.3	10.6	13.8	0.0	2.1
	高麗川【n=205】	53.7	30.2	19.0	17.1	18.5	9.3	7.8	6.3
	高根【n=47】	42.6	23.4	8.5	14.9	14.9	10.6	0.0	2.1
	高萩【n=182】	51.1	26.4	24.7	17.0	15.4	5.5	5.5	7.1
	高萩北【n=59】	47.5	37.3	18.6	16.9	10.2	5.1	6.8	1.7

		地域交流・サロン活動	健康づくりなどの介護予防の活動	子育て支援活動	障がい者の福祉活動	その他	活動はしていない	無回答
性別	男性【n=293】	5.1	2.0	3.1	0.3	2.4	33.1	2.4
	女性【n=314】	3.2	5.4	0.6	1.6	2.9	29.6	3.8
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9	58.6	3.4
	30歳代【n=44】	2.3	0.0	2.3	0.0	2.3	45.5	2.3
	40歳代【n=66】	1.5	0.0	4.5	0.0	1.5	31.8	3.0
	50歳代【n=107】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	30.8	1.9
	60歳代【n=127】	3.9	1.6	0.8	1.6	2.4	25.2	3.1
	70歳代【n=172】	6.4	7.6	2.3	1.2	2.3	21.5	4.7
	80歳代【n=73】	9.6	12.3	4.1	1.4	4.1	41.1	6.8
	90歳以上【n=12】	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	50.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	6.7	5.0	3.3	1.7	1.7	23.3	3.3
	武蔵台・横手台【n=94】	8.5	3.2	2.1	1.1	2.1	25.5	4.3
	高麗川【n=205】	3.9	3.4	2.0	0.5	3.9	29.8	3.4
	高根【n=47】	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	44.7	2.1
	高萩【n=182】	1.6	4.4	1.1	1.1	2.2	34.1	3.8
	高萩北【n=59】	3.4	5.1	1.7	0.0	1.7	27.1	5.1

問7 地域活動や行事が活発に行われるには、何が大切だと思いますか。(〇は3つまで)
 ～「住民同士が困ったときに、助け合う関係を作る」が6割～

地域活動や行事を活発にするために大切だと思うことは、「住民同士が困ったときに、助け合う関係を作る」が60.1%で最も多く、以下、「住民同士の交流の機会を持てる行事などを増やす」が32.3%、「集会所など地域活動が行える場所の整備をする」が21.6%、「学校や公民館、地域の団体や事業者などと住民との交流の機会を増やす」が20.6%、「子ども会、老人クラブなどの活動を活発にする」が12.4%などとなっています。

年齢別で「学校や公民館、地域の団体や事業者などと住民との交流の機会を増やす」をみると、30歳代の割合が最も多く、年齢階級が上がるに連れ、その割合は漸減しています。

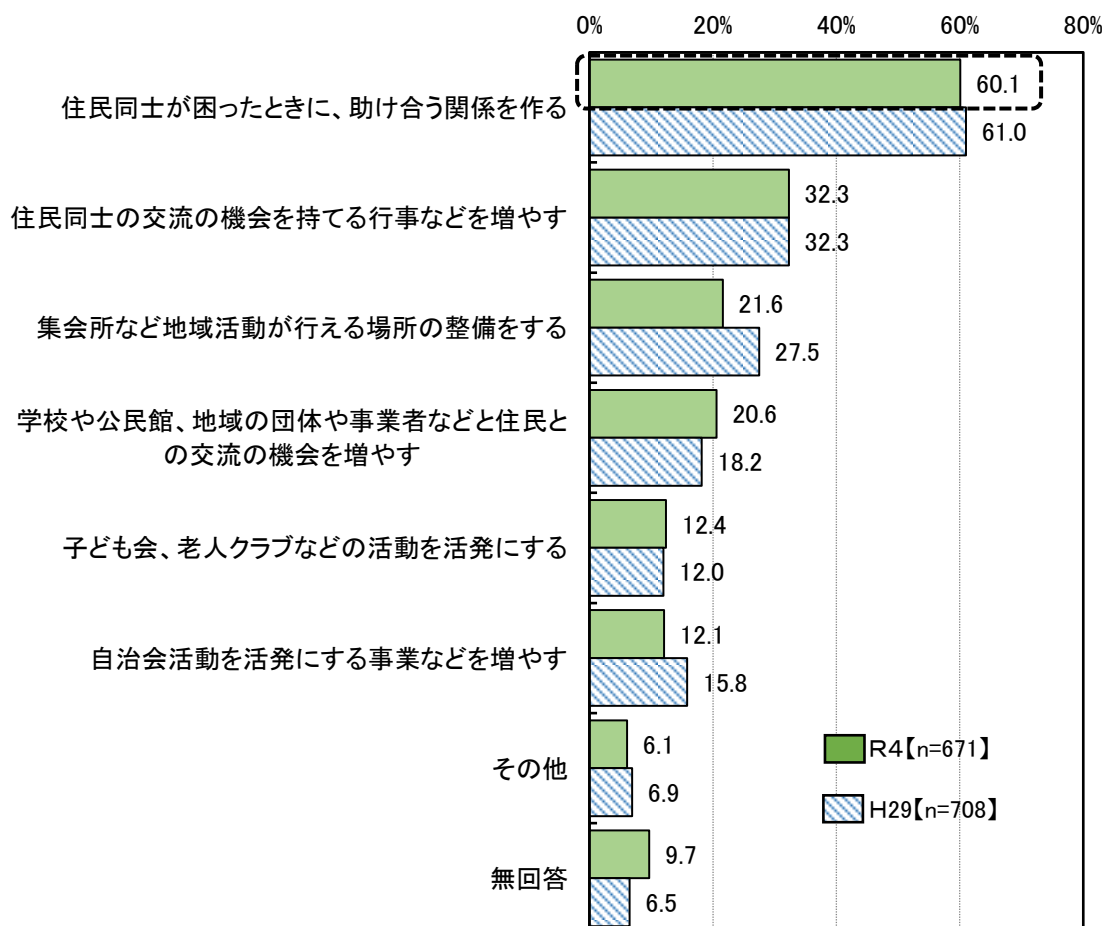
居住地区別で「住民同士の交流の機会を持てる行事などを増やす」をみると、割合が最も多い「高麗」と割合が最も低い「高萩北」では、29.8ポイントもの差がありました。

平成29年調査との経年比較では、上位の順位に変わりはありませんが、「集会所など地域活動が行える場所の整備をする」の割合が減っています。

【その他】

負担をかけないでできることをやる など

【地域活動や行事を活発にするために大切だと思うこと】



		住民同士が困ったときに、助け合う関係を作る	住民同士の交流の機会を持てる行事などを増やす	集会所など地域活動が行える場所の整備をする	学校や公民館、地域の団体や事業者などと住民との交流の機会を増やす	子ども会、老人クラブなどの活動を活発にする	自治会活動を活発にする事業などを増やす	その他	無回答
性別	男性【n=293】	59.4	36.2	24.6	21.5	9.9	14.7	6.1	7.2
	女性【n=314】	61.5	29.9	18.5	22.3	14.3	9.6	4.1	10.8
	その他【n=2】	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	55.2	24.1	17.2	27.6	17.2	0.0	0.0	3.4
	30歳代【n=44】	47.7	36.4	27.3	29.5	22.7	11.4	9.1	2.3
	40歳代【n=66】	56.1	33.3	18.2	25.8	13.6	19.7	1.5	10.6
	50歳代【n=107】	61.7	26.2	22.4	24.3	14.0	6.5	5.6	3.7
	60歳代【n=127】	58.3	38.6	18.1	22.0	5.5	12.6	8.7	8.7
	70歳代【n=172】	65.1	29.7	22.7	18.0	12.8	10.5	6.4	12.8
	80歳代【n=73】	64.4	39.7	23.3	11.0	13.7	19.2	2.7	19.2
	90歳以上【n=12】	58.3	25.0	8.3	0.0	8.3	33.3	0.0	16.7
居住地区	高麗【n=60】	55.0	41.7	33.3	23.3	8.3	15.0	5.0	8.3
	武蔵台・横手台【n=94】	59.6	30.9	23.4	24.5	10.6	10.6	10.6	8.5
	高麗川【n=205】	62.0	33.7	19.0	18.5	10.7	11.2	2.4	12.7
	高根【n=47】	57.4	38.3	27.7	42.6	8.5	12.8	6.4	2.1
	高萩【n=182】	61.5	35.2	23.1	17.0	17.0	13.7	6.0	7.7
	高萩北【n=59】	57.6	11.9	13.6	16.9	15.3	11.9	11.9	10.2

日常生活や福祉の課題について

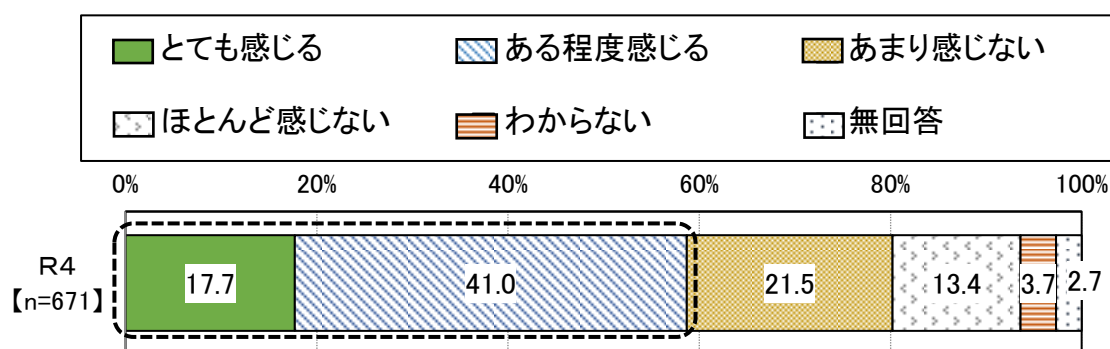
問8 普段親しい人が身近にいると感じますか。(○は1つ)

～「とても感じる」と「ある程度感じる」の合計が6割弱～

普段親しい人が身近にいると感じているか尋ねたところ、「ある程度感じる」が41.0%で最も多く、以下、「あまり感じない」が21.5%、「とても感じる」が17.7%、「ほとんど感じない」が13.4%、「わからない」が3.7%などとなっています。

年齢別で「とても感じる」をみると、20歳代が37.9%で最も多く、60歳代が5.5%と最も少なく、その差は32.4ポイントでした。

【親しい人が身近にいると感じるか】



		とても感じる	ある程度感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	わからない	無回答
性別	男性【n=293】	15.4	38.2	24.9	16.7	3.1	1.7
	女性【n=314】	21.0	43.3	19.1	8.9	4.5	3.2
	その他【n=2】	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	37.9	37.9	13.8	3.4	6.9	0.0
	30歳代【n=44】	22.7	34.1	20.5	13.6	9.1	0.0
	40歳代【n=66】	16.7	34.8	28.8	9.1	6.1	4.5
	50歳代【n=107】	17.8	37.4	27.1	15.9	0.0	1.9
	60歳代【n=127】	5.5	44.1	24.4	18.1	4.7	3.1
	70歳代【n=172】	19.2	45.9	16.3	12.8	2.3	3.5
	80歳代【n=73】	23.3	42.5	16.4	9.6	4.1	4.1
	90歳以上【n=12】	25.0	33.3	25.0	8.3	8.3	0.0
居住地	高麗【n=60】	21.7	53.3	15.0	8.3	1.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	13.8	43.6	21.3	13.8	3.2	4.3
	高麗川【n=205】	18.5	37.6	21.0	14.6	4.9	3.4
	高根【n=47】	10.6	38.3	27.7	21.3	2.1	0.0
	高萩【n=182】	19.2	44.0	19.2	11.5	3.3	2.7
	高萩北【n=59】	20.3	40.7	25.4	6.8	5.1	1.7

問9 日頃どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(〇はいくつでも)

～「健康に関すること」が6割弱、「老後の暮らしに関すること」が5割弱～

どのようなことに悩みや不安を感じるかは、「健康に関すること」が59.0%で最も多く、以下、「老後の暮らしに関すること」が49.2%、「収入など経済に関すること」が36.2%、「災害に関すること」が27.3%、「介護に関すること」が25.0%などとなっています。

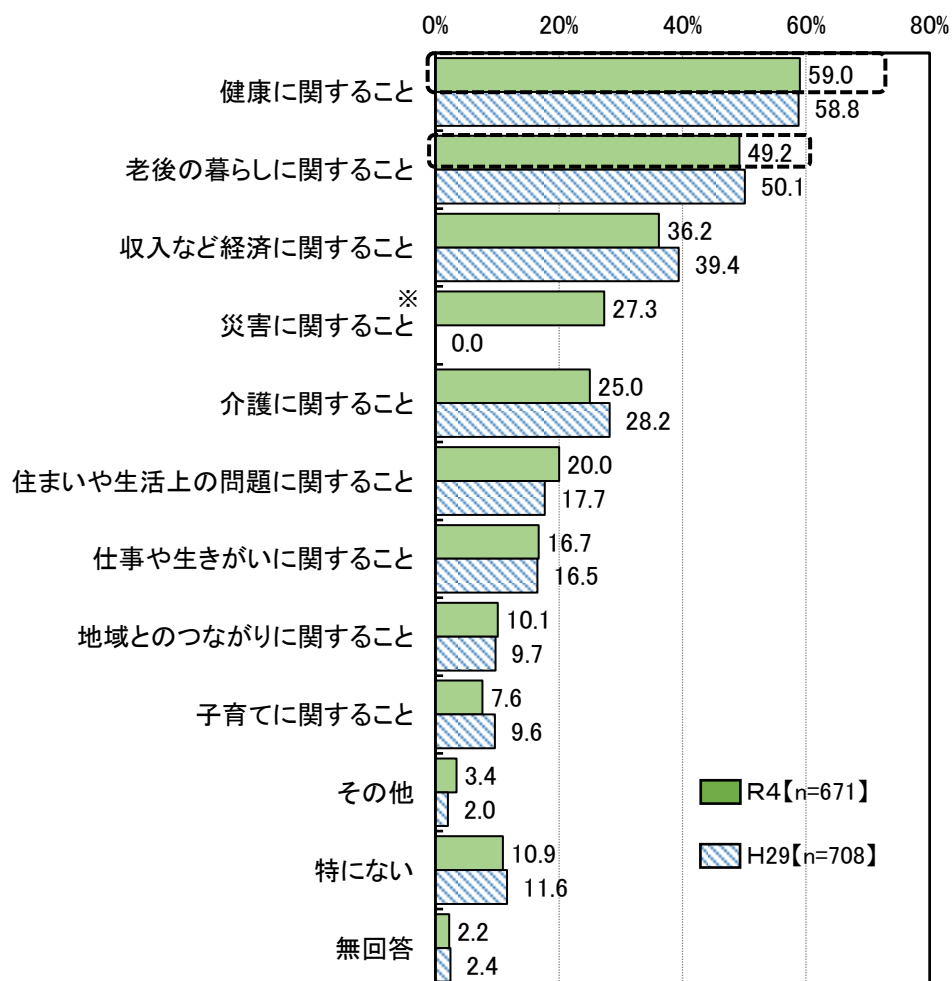
年齢別で「収入など経済に関すること」をみると、20歳代から50歳代の割合が多い傾向がみられます。また、「老後の暮らしに関すること」では、40歳代から70歳代の割合が多くなっています。

居住地区別で「健康に関すること」をみると、すべての居住地区で5割以上となっている中、「高麗」は6割後半と多い傾向がみられます。

【その他】

地域の高齢化／近所トラブル／自分が死んだあとの子供の生活 など

【どのようなことに悩みや不安を感じるか】



※新規追加項目

		健康に関すること	老後の暮らしに関すること	収入など経済に関すること	災害に関すること	介護に関すること	住まいや生活上の問題に関すること	仕事や生きがいにに関すること	地域とのつながりにに関すること
性別	男性【n=293】	59.7	43.3	37.2	22.2	22.5	20.1	20.1	10.2
	女性【n=314】	58.6	53.5	34.1	32.2	26.1	18.8	13.1	10.5
	その他【n=2】	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	20.7	17.2	44.8	13.8	0.0	17.2	41.4	0.0
	30歳代【n=44】	29.5	22.7	52.3	20.5	6.8	29.5	34.1	13.6
	40歳代【n=66】	48.5	56.1	48.5	28.8	27.3	16.7	28.8	9.1
	50歳代【n=107】	55.1	57.9	43.0	31.8	31.8	18.7	18.7	14.0
	60歳代【n=127】	66.1	52.8	38.6	25.2	19.7	26.8	14.2	8.7
	70歳代【n=172】	69.2	54.1	23.3	29.1	24.4	15.7	4.7	8.7
	80歳代【n=73】	65.8	38.4	21.9	30.1	38.4	13.7	11.0	17.8
	90歳以上【n=12】	75.0	41.7	8.3	41.7	41.7	8.3	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	68.3	53.3	31.7	38.3	28.3	20.0	20.0	10.0
	武蔵台・横手台【n=94】	56.4	55.3	35.1	26.6	25.5	21.3	10.6	10.6
	高麗川【n=205】	58.5	46.3	32.7	25.4	22.4	19.5	12.7	6.3
	高根【n=47】	57.4	59.6	44.7	29.8	38.3	23.4	21.3	12.8
	高萩【n=182】	59.9	48.4	35.2	28.6	24.7	18.7	20.9	13.7
	高萩北【n=59】	55.9	39.0	45.8	20.3	20.3	16.9	20.3	10.2

		子育てに関すること	その他	特にない	無回答
性別	男性【n=293】	8.2	3.4	14.3	1.7
	女性【n=314】	7.6	3.2	7.0	2.2
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	13.8	3.4	24.1	0.0
	30歳代【n=44】	36.4	2.3	13.6	0.0
	40歳代【n=66】	28.8	3.0	4.5	1.5
	50歳代【n=107】	7.5	2.8	9.3	2.8
	60歳代【n=127】	0.8	2.4	11.0	1.6
	70歳代【n=172】	0.0	2.9	11.0	3.5
	80歳代【n=73】	0.0	6.8	12.3	4.1
	90歳以上【n=12】	0.0	8.3	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	5.0	3.3	8.3	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	6.4	2.1	7.4	4.3
	高麗川【n=205】	7.8	3.4	13.7	2.9
	高根【n=47】	6.4	6.4	10.6	0.0
	高萩【n=182】	7.7	2.2	8.8	1.6
	高萩北【n=59】	13.6	6.8	13.6	1.7

問 10 悩みや不安などがあるとき、どこ（だれ）に相談をしますか。（〇はいくつでも）
 ～相談相手は「家族・親戚」が8割、「友人・知人」が4割超～

悩みや不安なことの相談先は、「家族・親戚」が80.3%で最も多く、以下、「友人・知人」が44.4%、「職場の人」が13.7%、「医療機関」が11.5%、「地域包括支援センター」が9.4%などとなっています。

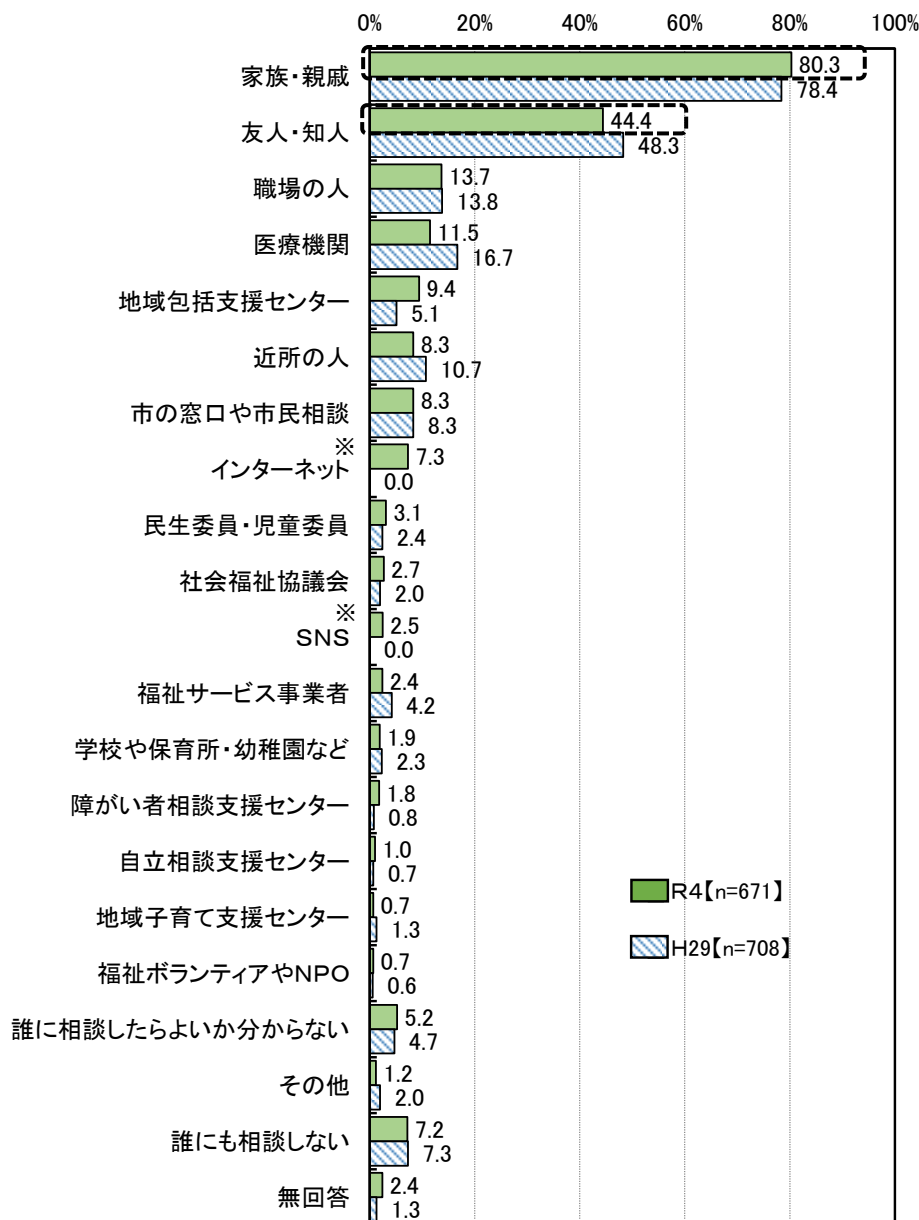
年齢別で「友人・知人」をみると、20歳代から60歳代にかけて割合が多く、70歳代から90歳以上では、割合が少なくなる傾向がみられます。

平成29年調査との経年比較では、上位項目の順位に変化はありませんが、「家族・親戚」の割合が微増し、「友人・知人」の割合が微減しています。

【その他】

弁護士／ある程度の悩み等は自己解決／誰もいない など

【悩みや不安なことの相談先】



※新規追加項目

		家族・親戚	友人・知人	職場の人	医療機関	地域包括支援センター	近所の人	市の窓口や市民相談	インターネット
性別	男性【n=293】	76.8	36.2	10.9	14.0	9.2	7.8	9.6	8.2
	女性【n=314】	84.7	53.2	16.9	9.2	9.2	8.0	6.4	6.4
	その他【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	79.3	72.4	24.1	0.0	0.0	0.0	0.0	24.1
	30歳代【n=44】	79.5	56.8	20.5	4.5	0.0	2.3	2.3	9.1
	40歳代【n=66】	86.4	45.5	37.9	7.6	1.5	3.0	6.1	7.6
	50歳代【n=107】	78.5	51.4	25.2	5.6	4.7	5.6	5.6	6.5
	60歳代【n=127】	79.5	45.7	11.0	15.0	7.1	8.7	6.3	7.9
	70歳代【n=172】	82.6	39.5	1.7	15.1	14.5	12.8	11.6	7.6
	80歳代【n=73】	79.5	27.4	0.0	17.8	20.5	11.0	15.1	1.4
	90歳以上【n=12】	83.3	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	90.0	51.7	8.3	11.7	16.7	10.0	6.7	6.7
	武蔵台・横手台【n=94】	84.0	42.6	12.8	7.4	9.6	11.7	7.4	7.4
	高麗川【n=205】	75.1	42.9	12.7	11.7	6.3	8.8	9.3	4.9
	高根【n=47】	76.6	53.2	23.4	19.1	10.6	2.1	8.5	12.8
	高萩【n=182】	83.5	41.8	11.0	11.5	8.2	8.8	7.7	7.1
	高萩北【n=59】	81.4	50.8	27.1	13.6	13.6	5.1	6.8	11.9

		民生委員・児童委員	社会福祉協議会	SNS	福祉サービス事業者	学校や保育所・幼稚園など	障がい者相談支援センター	自立相談支援センター	地域子育て支援センター
性別	男性【n=293】	4.8	3.1	3.1	2.0	2.0	1.7	0.7	0.7
	女性【n=314】	1.3	2.5	1.6	2.2	2.2	1.6	1.6	1.0
	その他【n=2】	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	0.0	0.0	10.3	0.0	6.9	0.0	0.0	3.4
	30歳代【n=44】	2.3	0.0	13.6	0.0	9.1	2.3	0.0	6.8
	40歳代【n=66】	3.0	0.0	3.0	4.5	6.1	1.5	1.5	1.5
	50歳代【n=107】	0.9	1.9	2.8	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0
	60歳代【n=127】	0.0	0.8	0.0	1.6	0.8	2.4	1.6	0.0
	70歳代【n=172】	4.7	3.5	0.6	2.3	0.0	1.2	1.2	0.0
	80歳代【n=73】	9.6	9.6	0.0	4.1	0.0	4.1	2.7	0.0
	90歳以上【n=12】	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	高麗【n=60】	6.7	0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	1.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=94】	2.1	3.2	1.1	5.3	0.0	1.1	0.0	1.1
	高麗川【n=205】	2.9	3.4	1.5	2.0	3.4	2.0	1.5	1.5
	高根【n=47】	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	0.0
	高萩【n=182】	3.3	2.2	4.4	1.6	1.1	2.2	1.1	0.5
	高萩北【n=59】	3.4	1.7	5.1	3.4	3.4	1.7	0.0	0.0

		福祉ボランティアやNPO	誰に相談したらよいか分からない	その他	誰にも相談しない	無回答
性別	男性【n=293】	1.0	4.8	1.4	11.6	1.7
	女性【n=314】	0.6	5.1	1.0	2.9	2.2
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	0.0	0.0	0.0	10.3	0.0
	30歳代【n=44】	0.0	6.8	0.0	6.8	0.0
	40歳代【n=66】	1.5	1.5	0.0	7.6	0.0
	50歳代【n=107】	0.9	2.8	1.9	8.4	4.7
	60歳代【n=127】	0.0	7.9	0.8	11.0	1.6
	70歳代【n=172】	0.0	6.4	1.2	4.1	4.1
	80歳代【n=73】	4.1	6.8	1.4	4.1	1.4
	90歳以上【n=12】	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0
居住地区	高麗【n=60】	0.0	1.7	1.7	3.3	3.3
	武蔵台・横手台【n=94】	0.0	3.2	1.1	4.3	4.3
	高麗川【n=205】	1.0	9.3	2.0	8.3	2.0
	高根【n=47】	2.1	8.5	2.1	6.4	0.0
	高萩【n=182】	1.1	3.3	0.0	9.3	1.6
	高萩北【n=59】	0.0	0.0	1.7	5.1	3.4

問 11 日常生活を送る上で手助けしてほしい（行ってほしい）と思うことがありますか。

（○はいくつでも）

～「急病などの緊急時の手助け」が2割、「特にない」が4割超～

日常生活を送る上で必要な手助けは、「急病などの緊急時の手助け」が22.2%で最も多く、以下、「気軽に行ける自由な居場所づくり」が16.1%、「通院、買い物などの外出の手伝い」が11.9%、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」が8.2%などとなっています。また、「特にない」は45.8%でした。

年齢別で「急病などの緊急時の手助け」をみると、80歳代、90歳以上の割合が多くなっています。また、同様の傾向が「通院、買い物などの外出の手伝い」でもみられます。

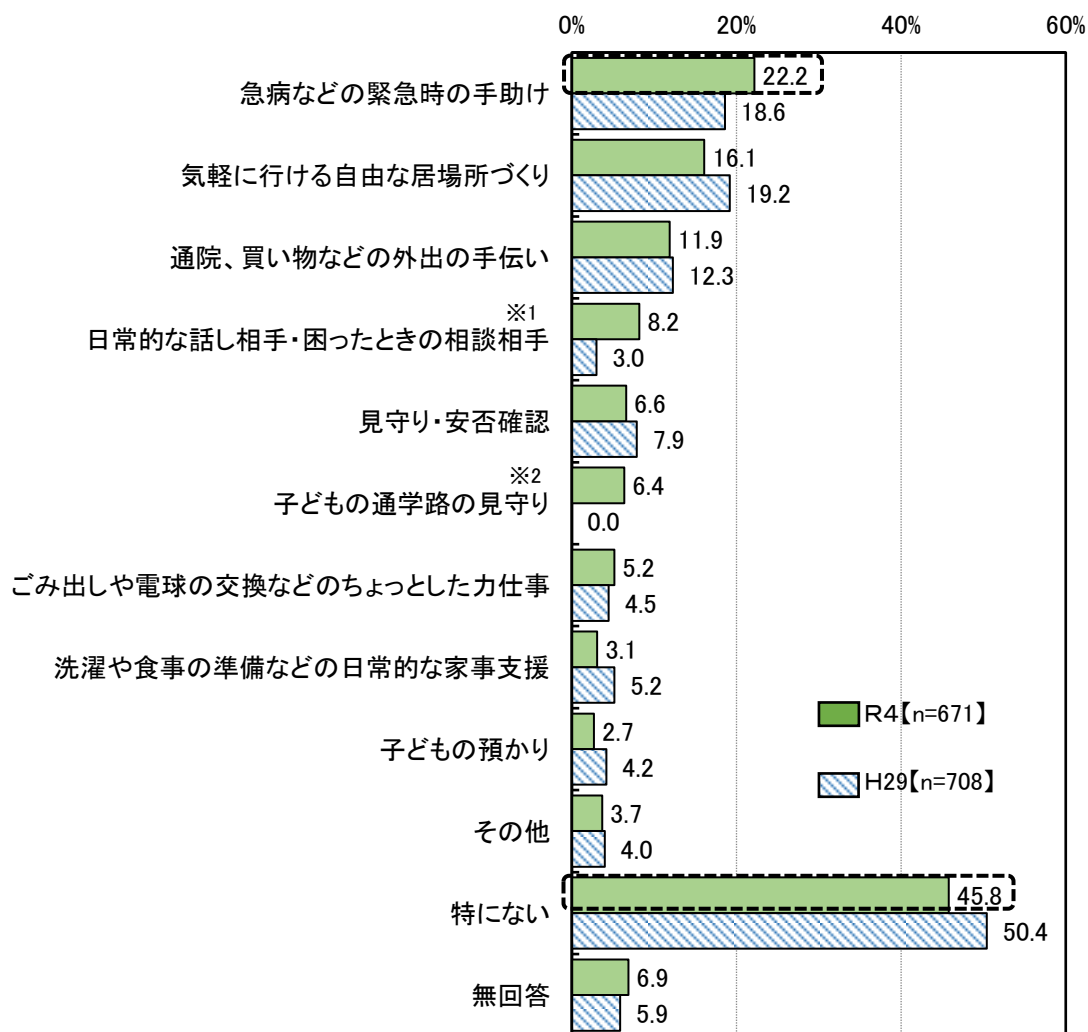
居住地区別で「気軽に行ける自由な居場所づくり」をみると、「高麗」の割合がほかの居住地区より多い傾向がみられました。

平成29年調査との経年比較では、「急病などの緊急時の手助け」の割合が増え、「気軽に行ける自由な居場所づくり」の割合が減っています。

【その他】

草むしり、庭木の手入れ／介護／防犯、夜間のパトロール／ など

【日常生活を送る上で必要な手助け】



※1 「日常会話の相手」から変更項目

※2 新規追加項目

		急病などの緊急時の手助け	気軽に行ける自由な居場所づくり	通院、買い物などの外出の手伝い	日常的な話し相手・困ったときの相談相手	見守り・安否確認	子どもの通学路の見守り	ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援
性別	男性【n=293】	19.1	16.7	9.2	7.8	6.5	6.1	3.1	3.8
	女性【n=314】	24.8	15.0	11.8	8.3	6.1	7.3	7.0	2.9
	その他【n=2】	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	20.7	17.2	0.0	10.3	3.4	10.3	6.9	3.4
	30歳代【n=44】	25.0	25.0	6.8	9.1	2.3	34.1	2.3	4.5
	40歳代【n=66】	25.8	18.2	10.6	7.6	12.1	21.2	6.1	3.0
	50歳代【n=107】	20.6	8.4	9.3	5.6	5.6	6.5	2.8	5.6
	60歳代【n=127】	14.2	15.0	4.7	7.1	1.6	0.0	3.1	0.8
	70歳代【n=172】	21.5	14.5	11.0	7.6	5.2	1.7	3.5	0.6
	80歳代【n=73】	32.9	17.8	31.5	13.7	13.7	1.4	16.4	8.2
	90歳以上【n=12】	41.7	8.3	41.7	8.3	16.7	0.0	8.3	8.3
居住地区	高麗【n=60】	25.0	21.7	11.7	8.3	10.0	5.0	8.3	6.7
	武蔵台・横手台【n=94】	23.4	16.0	14.9	9.6	7.4	6.4	2.1	2.1
	高麗川【n=205】	21.5	17.1	11.2	6.3	6.3	7.3	6.3	2.9
	高根【n=47】	31.9	17.0	12.8	12.8	6.4	2.1	6.4	2.1
	高萩【n=182】	22.0	13.2	12.1	7.7	6.6	6.6	6.6	3.8
	高萩北【n=59】	16.9	13.6	6.8	11.9	1.7	10.2	0.0	1.7

		子どもの預かり	その他	特にない	無回答
性別	男性【n=293】	2.7	2.4	53.2	6.5
	女性【n=314】	2.9	4.5	41.4	7.0
	その他【n=2】	0.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	3.4	0.0	55.2	0.0
	30歳代【n=44】	18.2	0.0	34.1	4.5
	40歳代【n=66】	10.6	1.5	36.4	1.5
	50歳代【n=107】	0.9	5.6	54.2	6.5
	60歳代【n=127】	0.0	4.7	62.2	2.4
	70歳代【n=172】	0.0	4.7	50.0	8.7
	80歳代【n=73】	1.4	1.4	21.9	17.8
	90歳以上【n=12】	0.0	0.0	25.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	1.7	3.3	38.3	6.7
	武蔵台・横手台【n=94】	2.1	5.3	45.7	6.4
	高麗川【n=205】	3.4	2.9	45.4	7.8
	高根【n=47】	0.0	4.3	40.4	6.4
	高萩【n=182】	3.8	2.7	49.5	6.0
	高萩北【n=59】	1.7	5.1	47.5	5.1

問 12 高齢者や障がいのある人、子育てをしている人などが必要な支援を受けることができるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

～「様々な相談先の情報提供」と

「様々な相談を一本化した総合相談窓口」がそれぞれ4割弱～

高齢者や障がい者、子育てをしている人が支援を受けるために必要なことは、「様々な相談先の情報提供」が39.8%で最も多く、以下、「様々な相談を一本化した総合相談窓口」が37.6%、「気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所」が34.3%、「何でも相談ができる地域住民による相談窓口」が32.0%、「福祉サービス事業者や従事者の質の向上」が23.2%などとなっています。

年齢別で「気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所」をみると、30歳代、90歳以上の割合が多くなっています。また、「様々な相談を一本化した総合相談窓口」をみると、多くの年齢階級で3割台となっている中、60歳代と20歳代の割合が多くなっています。

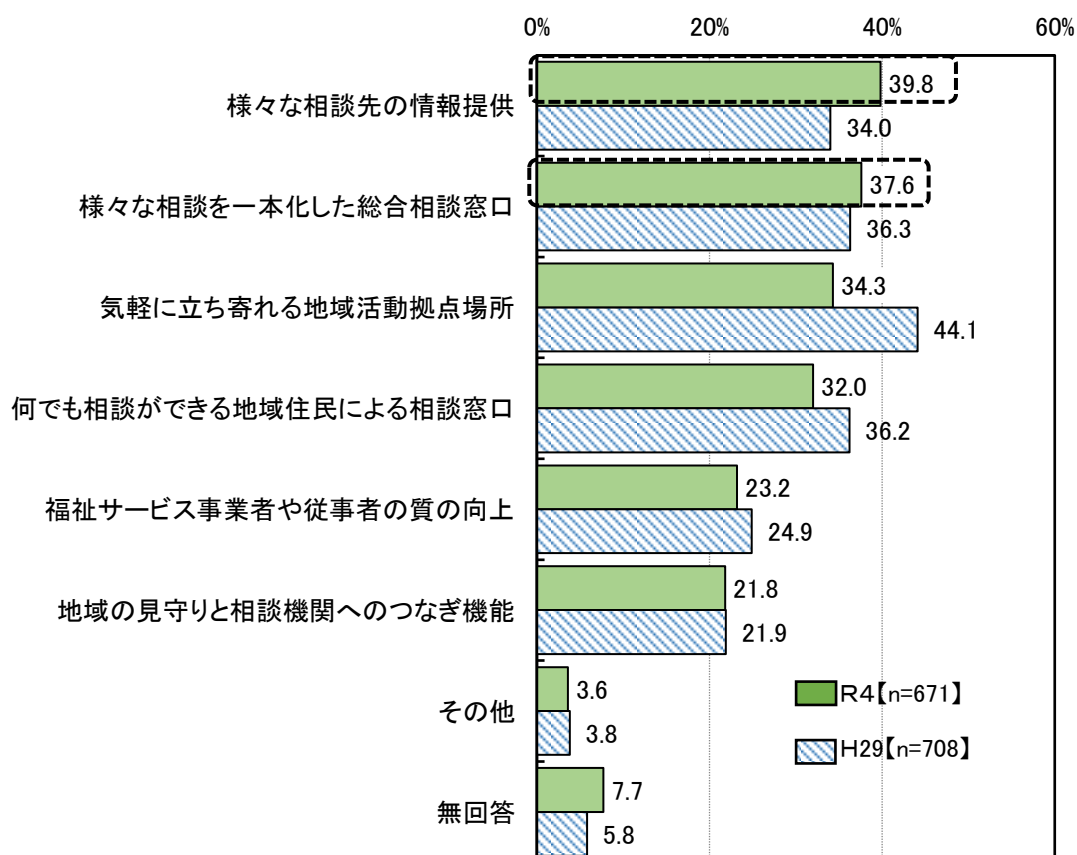
居住地区別で「気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所」をみると、多くの居住地区で3割台の中、「高麗」の割合は4割後半と多い傾向がみられます。

平成29年調査との経年比較では、平成29年調査の上位項目「気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所」と「何でも相談ができる地域住民による相談窓口」の割合は減り、「様々な相談先の情報提供」と「様々な相談を一本化した総合相談窓口」の割合は増えています。

【その他】

訪問形式の支援／生活に必要な日用品などの宅配サービス など

【高齢者や障がい者、子育てをしている人が支援を受けるために必要なこと】



		様々な相談先の情報提供	様々な相談を一本化した総合相談窓口	気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所	何でも相談ができる地域住民による相談窓口	福祉サービス事業者や従事者の質の向上	地域の見守りと相談機関へのつなぎ機能	その他	無回答
性別	男性【n=293】	38.6	34.8	32.1	34.1	20.5	21.2	4.1	7.2
	女性【n=314】	42.4	40.1	38.5	29.9	26.1	23.6	3.5	6.7
	その他【n=2】	50.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	41.4	41.4	31.0	37.9	34.5	41.4	0.0	0.0
	30歳代【n=44】	36.4	31.8	45.5	27.3	22.7	27.3	9.1	2.3
	40歳代【n=66】	48.5	33.3	33.3	36.4	27.3	24.2	6.1	4.5
	50歳代【n=107】	42.1	36.4	32.7	32.7	24.3	26.2	2.8	5.6
	60歳代【n=127】	44.1	44.9	34.6	28.3	20.5	19.7	4.7	3.9
	70歳代【n=172】	37.8	37.8	33.7	29.1	24.4	18.0	2.3	9.9
	80歳代【n=73】	27.4	32.9	28.8	42.5	15.1	16.4	2.7	21.9
	90歳以上【n=12】	16.7	16.7	41.7	25.0	33.3	25.0	0.0	8.3
居住地区	高麗【n=60】	41.7	43.3	46.7	28.3	26.7	21.7	1.7	6.7
	武蔵台・横手台【n=94】	38.3	29.8	35.1	33.0	24.5	22.3	4.3	9.6
	高麗川【n=205】	39.5	35.1	32.7	30.7	22.9	19.0	3.4	7.3
	高根【n=47】	44.7	53.2	38.3	42.6	21.3	25.5	6.4	6.4
	高萩【n=182】	41.2	36.8	33.0	31.9	23.6	23.1	3.3	6.6
	高萩北【n=59】	33.9	42.4	30.5	33.9	22.0	22.0	1.7	10.2

問 13 健康や福祉に関する情報で役に立っているものは何ですか。(〇はいくつでも)
 ~日高市の広報紙・ホームページ」が5割超、「テレビ、新聞、書籍からの情報」は4割~

健康や福祉に関する情報で役に立っているものは、「日高市の広報紙・ホームページ」が55.9%で最も多く、以下、「テレビ、新聞、書籍からの情報」が43.8%、「家族や友人・知人などからの情報」が36.4%、「インターネットからの情報」が32.8%、「社会福祉協議会の広報紙・ホームページ」「SNSからの情報」がともに8.6%などとなっています。

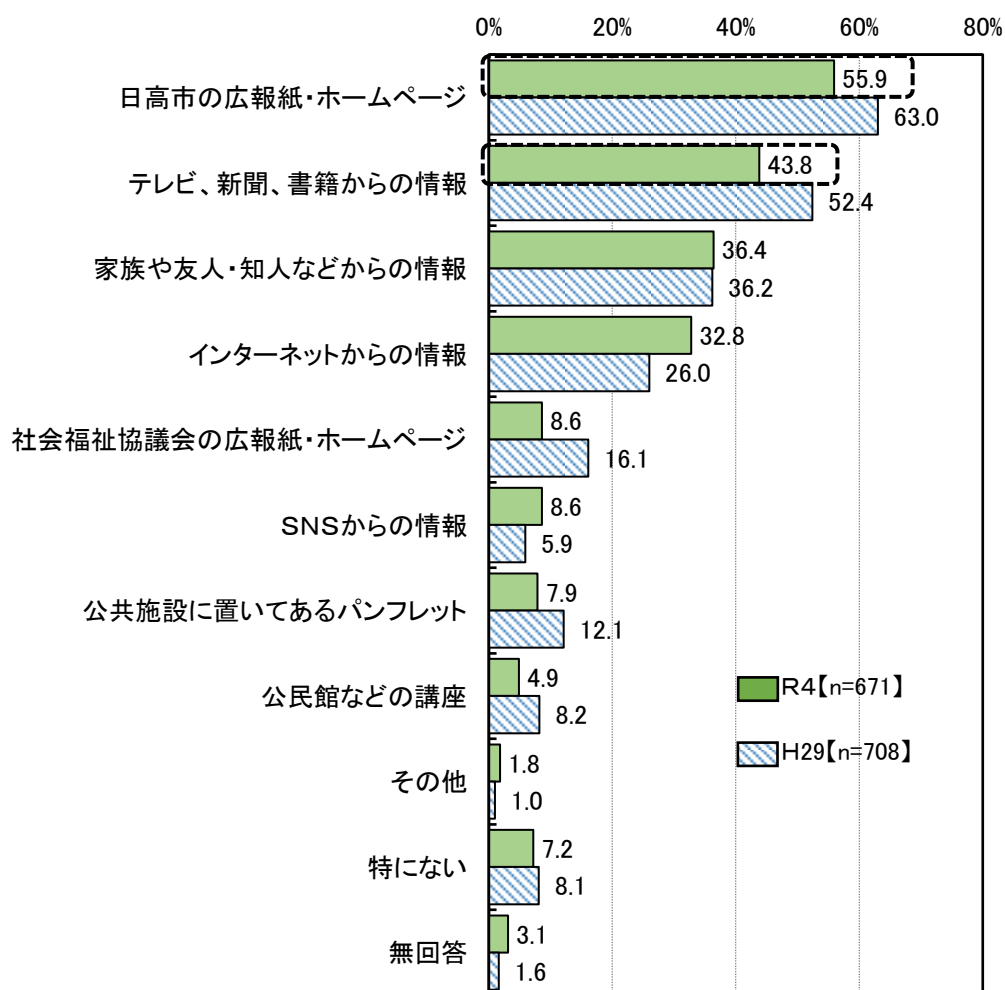
年齢別で「インターネットからの情報」をみると、20歳代から50歳代にかけて割合が多い傾向がみられます。また、「テレビ、新聞、書籍からの情報」では、70歳代、80歳代の割合がほかの年齢階級より多くなっています。

平成29年調査との経年比較では、上位項目の順位に変化は見られませんが、「日高市の広報紙・ホームページ」と「テレビ、新聞、書籍からの情報」の割合は減り、「インターネットからの情報」の割合が増えています。

【その他】

学校連絡システムからのメール／職場／病院からの情報 など

【健康や福祉に関する情報で役に立っているもの】



		日高市の 広報紙・ ホーム ページ	テレビ、 新聞、書 籍からの 情報	家族や友 人・知人 などから の情報	インター ネットから の情報	社会福祉 協議会の 広報紙・ ホーム ページ	SNSから の情報	公共施設 に置いて あるパン フレット	公民館な どの講座
性別	男性【n=293】	53.9	39.6	32.8	36.9	8.5	8.5	6.5	2.4
	女性【n=314】	59.2	44.9	39.5	31.8	9.2	8.9	8.9	7.0
	その他【n=2】	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	41.4	31.0	31.0	62.1	3.4	27.6	3.4	0.0
	30歳代【n=44】	52.3	22.7	25.0	59.1	4.5	34.1	13.6	0.0
	40歳代【n=66】	60.6	30.3	36.4	51.5	3.0	21.2	9.1	1.5
	50歳代【n=107】	52.3	41.1	31.8	46.7	7.5	8.4	2.8	0.9
	60歳代【n=127】	60.6	37.0	31.5	33.1	9.4	3.9	11.0	3.9
	70歳代【n=172】	59.3	54.1	41.9	22.7	11.6	2.3	7.6	7.6
	80歳代【n=73】	60.3	57.5	47.9	2.7	16.4	0.0	8.2	13.7
	90歳以上【n=12】	50.0	33.3	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
居住 地区	高麗【n=60】	55.0	48.3	46.7	23.3	5.0	10.0	6.7	5.0
	武蔵台・横手台【n=94】	59.6	48.9	42.6	33.0	9.6	6.4	7.4	7.4
	高麗川【n=205】	54.6	42.0	32.7	30.7	9.8	8.8	8.8	3.9
	高根【n=47】	63.8	48.9	29.8	42.6	12.8	4.3	19.1	6.4
	高萩【n=182】	56.6	35.7	33.0	32.4	9.3	8.2	4.9	5.5
	高萩北【n=59】	52.5	54.2	45.8	42.4	5.1	15.3	3.4	1.7

		その他	特にない	無回答
性別	男性【n=293】	1.4	9.2	3.4
	女性【n=314】	1.6	4.1	2.9
	その他【n=2】	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	0.0	6.9	0.0
	30歳代【n=44】	0.0	13.6	0.0
	40歳代【n=66】	3.0	3.0	1.5
	50歳代【n=107】	0.9	6.5	4.7
	60歳代【n=127】	0.8	11.0	1.6
	70歳代【n=172】	2.3	4.7	3.5
	80歳代【n=73】	1.4	4.1	8.2
	90歳以上【n=12】	8.3	8.3	0.0
居住 地区	高麗【n=60】	1.7	6.7	1.7
	武蔵台・横手台【n=94】	3.2	3.2	4.3
	高麗川【n=205】	1.5	8.8	4.9
	高根【n=47】	0.0	4.3	0.0
	高萩【n=182】	1.1	8.8	2.7
	高萩北【n=59】	1.7	6.8	0.0

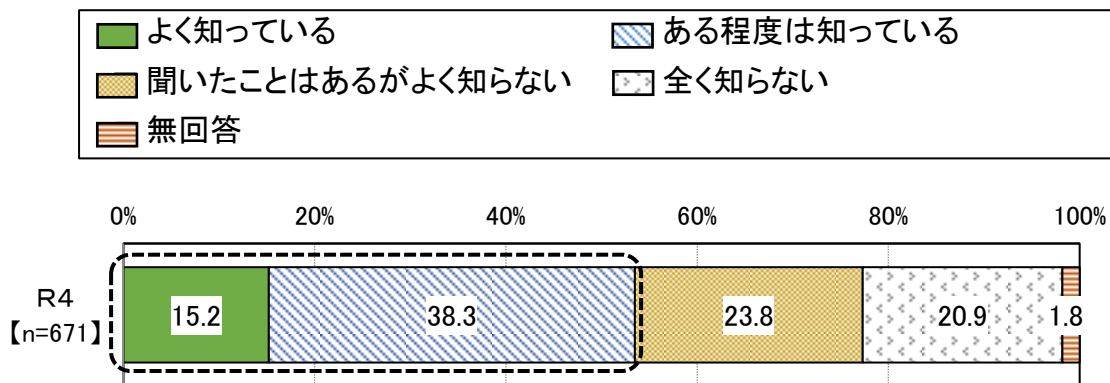
問 14 「ケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)
 ~「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計は5割超~

「ケアラー」という言葉の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「ある程度は知っている」の合計）は53.5%、「聞いたことはあるがよく知らない」が23.8%、「全く知らない」が20.9%となっています。

年齢別で『知っている』をみると、50歳代が最も多く、90歳以上では該当がありませんでした。

居住地区別で『知っている』をみると、どの居住地区でも5割以上となっています。

【「ケアラー」という言葉を知っているか】



		よく知っ ている	ある程 度は知 っている	聞いたこ とはあ るがよ く知ら ない	全く知ら ない	無回答
性別	男性【n=293】	15.0	36.2	22.2	25.6	1.0
	女性【n=314】	15.6	40.1	26.8	15.0	2.5
	その他【n=2】	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	10.3	27.6	34.5	27.6	0.0
	30歳代【n=44】	11.4	36.4	22.7	29.5	0.0
	40歳代【n=66】	10.6	45.5	21.2	22.7	0.0
	50歳代【n=107】	19.6	43.9	12.1	20.6	3.7
	60歳代【n=127】	11.8	40.2	29.1	17.3	1.6
	70歳代【n=172】	20.9	38.4	24.4	14.0	2.3
	80歳代【n=73】	12.3	31.5	28.8	26.0	1.4
	90歳以上【n=12】	0.0	0.0	33.3	58.3	8.3
	居住 地区	高麗【n=60】	20.0	41.7	16.7	20.0
武蔵台・横手台【n=94】		19.1	34.0	26.6	17.0	3.2
高麗川【n=205】		10.2	40.0	29.3	19.0	1.5
高根【n=47】		25.5	34.0	19.1	19.1	2.1
高萩【n=182】		15.9	39.6	22.0	20.3	2.2
高萩北【n=59】		11.9	40.7	18.6	28.8	0.0

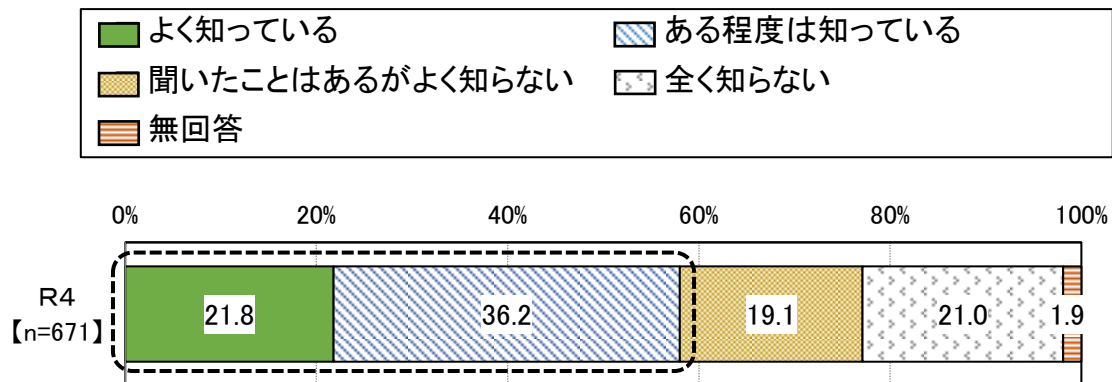
問 15 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)
 ～「よく知っている」と「ある程度は知っている」の合計は約6割～

「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「ある程度は知っている」の合計）は58.0%、「聞いたことはあるがよく知らない」が19.1%、「全く知らない」が21.0%となっています。

年齢別で『知っている』をみると、80歳代、90歳以上の割合は少ない傾向がみられます。

居住地区別で『知っている』をみると、すべての居住地区で5割以上となり、このうち半数の居住地区で6割台となっています。

【「ヤングケアラー」という言葉を知っているか】



		よく知っ ている	ある程 度は知 っている	聞いたこ とはあ るがよ く知ら ない	全く知ら ない	無回答
性別	男性【n=293】	20.8	32.8	19.1	25.9	1.4
	女性【n=314】	24.2	37.3	20.7	15.3	2.5
	その他【n=2】	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	6.9	44.8	24.1	24.1	0.0
	30歳代【n=44】	20.5	34.1	20.5	25.0	0.0
	40歳代【n=66】	22.7	43.9	12.1	21.2	0.0
	50歳代【n=107】	28.0	41.1	8.4	18.7	3.7
	60歳代【n=127】	13.4	40.9	25.2	18.1	2.4
	70歳代【n=172】	31.4	32.6	19.8	14.0	2.3
	80歳代【n=73】	17.8	21.9	27.4	30.1	2.7
	90歳以上【n=12】	0.0	8.3	25.0	66.7	0.0
居住 地区	高麗【n=60】	28.3	35.0	13.3	20.0	3.3
	武蔵台・横手台【n=94】	25.5	34.0	19.1	18.1	3.2
	高麗川【n=205】	16.6	34.6	24.4	22.0	2.4
	高根【n=47】	25.5	36.2	19.1	19.1	0.0
	高萩【n=182】	23.1	41.8	14.3	19.2	1.6
	高萩北【n=59】	22.0	35.6	18.6	23.7	0.0

地域福祉を進めるための取り組みについて

問 16 あなたと福祉との関わりは、次のどれに当てはまりますか。(〇はいくつでも)
 ~「いずれの活動もしていない」が6割弱、

「自治会、住民自治組織などの活動をしている」が1割超~

福祉との関わり方は、「いずれの活動もしていない」が58.4%で最も多く、以下、「自治会、住民自治組織などの活動をしている」が13.3%、「福祉の仕事をしている」が5.7%、「ボランティアやNPO活動をしている」が4.8%、「地域の防犯・防災活動をしている」が3.3%などとなっています。

年齢別で「いずれの活動もしていない」をみると、20歳代から50歳代にかけて多い傾向がみられ、60歳代から80歳代では割合が少ない傾向がみられました。

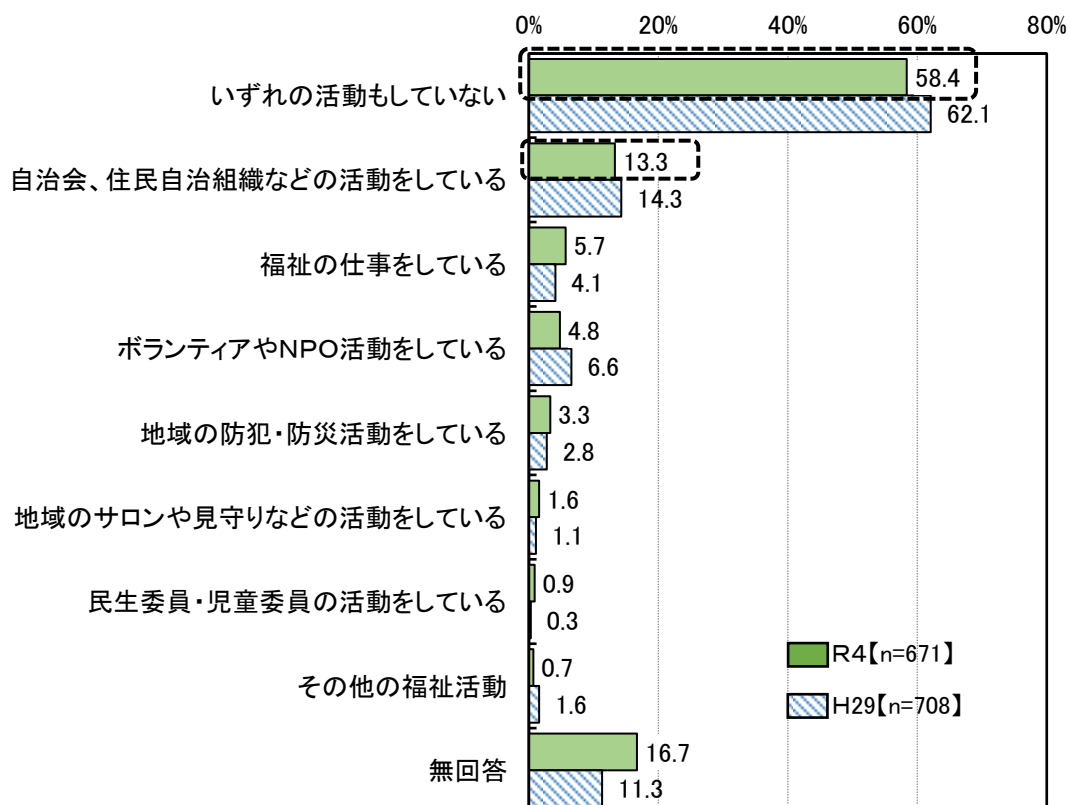
居住地区別で「地域の防犯・防災活動をしている」をみると、該当のない居住地区がある中、高麗の割合はほかの居住地区よりも多くなっています。

平成29年調査との経年比較では、「いずれの活動もしていない」や「自治会、住民自治組織などの活動をしている」の割合が減っています。

【その他】

過去に赤十字奉仕団、社会福祉協議会、コミュニティ協議会の役員を経験 など

【福祉との関わり方について】



		いずれの活動もしていない	自治会、住民自治組織などの活動をしている	福祉の仕事をしている	ボランティアやNPO活動をしている	地域の防犯・防災活動をしている	地域のサロンや見守りなどの活動をしている	民生委員・児童委員の活動をしている	その他の福祉活動
性別	男性【n=293】	59.4	16.7	4.1	4.8	5.1	2.4	1.4	0.7
	女性【n=314】	57.6	10.5	8.0	5.4	1.9	1.3	0.6	1.0
	その他【n=2】	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	82.8	0.0	10.3	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代【n=44】	79.5	9.1	9.1	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
	40歳代【n=66】	62.1	16.7	10.6	6.1	6.1	1.5	0.0	0.0
	50歳代【n=107】	66.4	15.0	9.3	2.8	1.9	0.0	0.0	0.0
	60歳代【n=127】	56.7	18.1	7.1	3.1	6.3	1.6	0.8	0.0
	70歳代【n=172】	47.7	14.5	1.2	8.7	2.3	4.1	2.9	2.9
	80歳代【n=73】	43.8	8.2	2.7	5.5	2.7	1.4	0.0	0.0
	90歳以上【n=12】	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	高麗【n=60】	50.0	13.3	1.7	5.0	11.7	0.0	3.3	1.7
	武蔵台・横手台【n=94】	62.8	12.8	4.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	高麗川【n=205】	52.2	14.6	7.3	4.4	2.9	2.0	0.5	2.0
	高根【n=47】	53.2	12.8	8.5	6.4	4.3	4.3	2.1	0.0
	高萩【n=182】	63.2	13.2	6.6	5.5	2.7	2.7	0.5	0.0
	高萩北【n=59】	66.1	10.2	3.4	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0

		無回答
性別	男性【n=293】	13.0
	女性【n=314】	17.8
	その他【n=2】	50.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0
	20歳代【n=29】	0.0
	30歳代【n=44】	2.3
	40歳代【n=66】	9.1
	50歳代【n=107】	7.5
	60歳代【n=127】	11.8
	70歳代【n=172】	23.3
	80歳代【n=73】	39.7
	90歳以上【n=12】	25.0
居住地区	高麗【n=60】	23.3
	武蔵台・横手台【n=94】	17.0
	高麗川【n=205】	19.5
	高根【n=47】	17.0
	高萩【n=182】	11.5
	高萩北【n=59】	15.3

【「2. 民生委員・児童委員の活動をしている」～「7. その他の福祉活動」を選んだ方】

付問1 活動するきっかけはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

～「持ち回りの当番制となっているから」が5割弱、

「地域をより住みやすくしたいから」が4割弱～

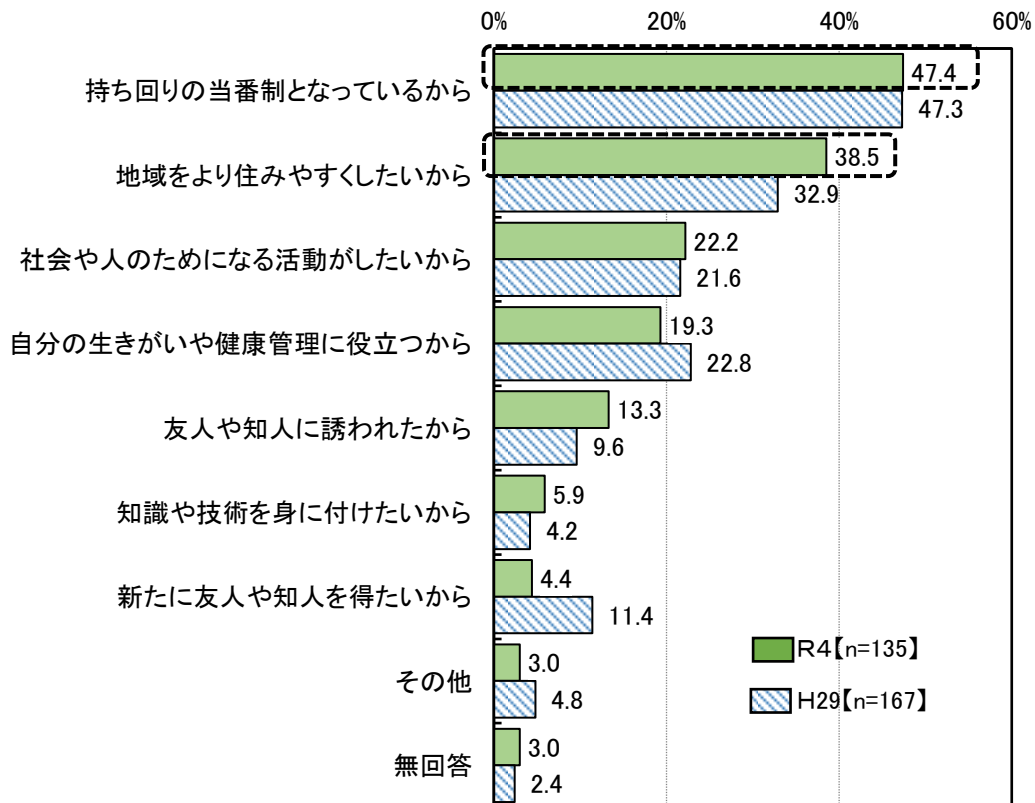
福祉活動をする理由は、「持ち回りの当番制となっているから」が47.4%で最も多く、以下、「地域をより住みやすくしたいから」が38.5%、「社会や人のためになる活動がしたいから」が22.2%、「自分の生きがいや健康管理に役立つから」が19.3%、「友人や知人に誘われたから」が13.3%などとなっています。

平成29年調査との経年比較では、「地域をより住みやすくしたいから」の割合が5.6ポイント増えています。また、次点の「社会や人のためになる活動がしたいから」の割合も微増しています。

【その他】

自治会活動を積極的にするようになったから／区の役員をしていることから など

【福祉活動をする理由】



【「8. いずれの活動もしていない」を選んだ方】

付問2 地域で活動していない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

～「学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない」が4割～

福祉活動をしていない理由は、「学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない」が42.3%で最も多く、以下、「健康に自信がない」が20.9%、「活動する上での人間関係がわずらわしい」が16.3%、「活動する情報がない・少ない」が14.8%、「活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない」が12.8%などとなっています。

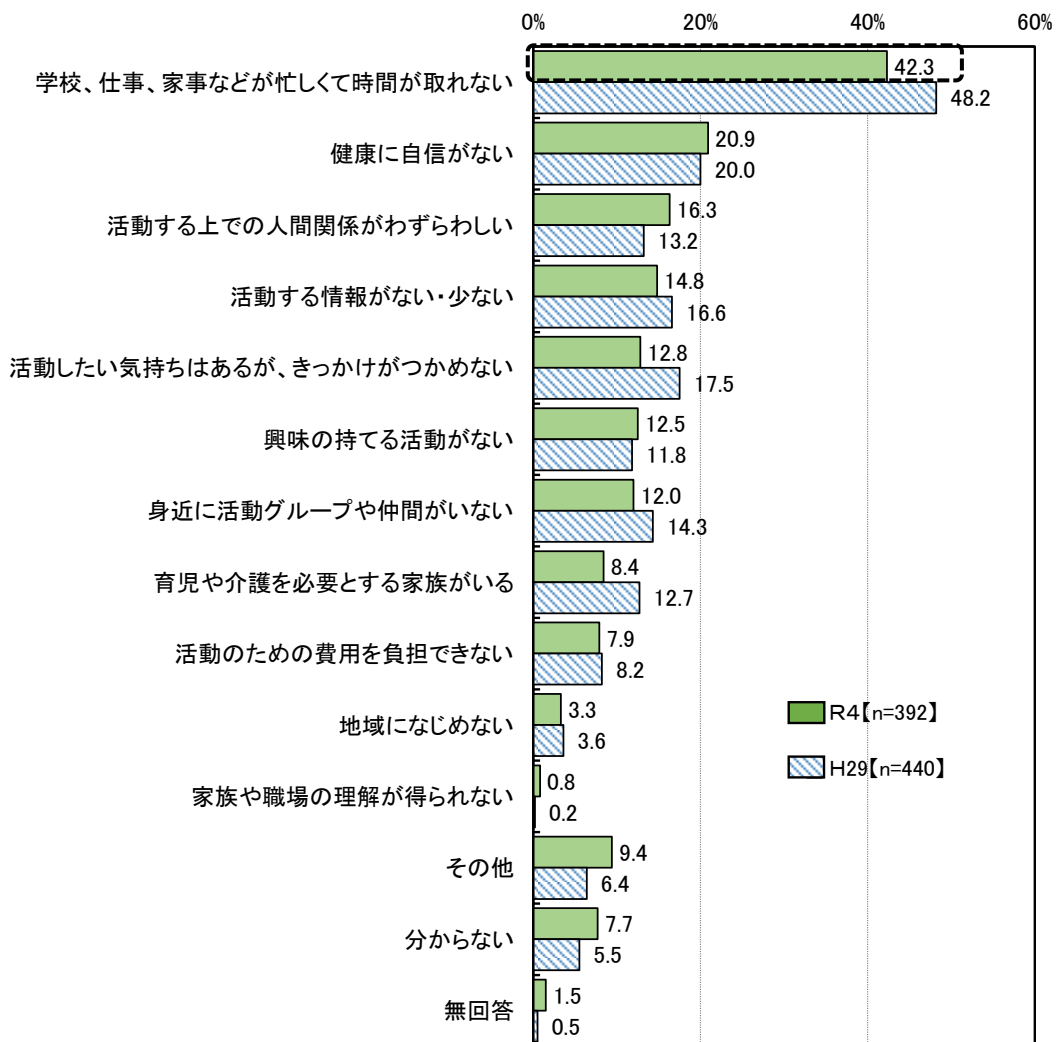
平成29年調査との経年比較では、「学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない」の割合が5.9ポイント減っています。

また、「健康に自信がない」が微増、「活動する上での人間関係がわずらわしい」が3.1ポイント増加しています。

【その他】

高齢のため／既存のグループが出来上っており、新人の入る余地がない／自分の生活だけで精一杯 など

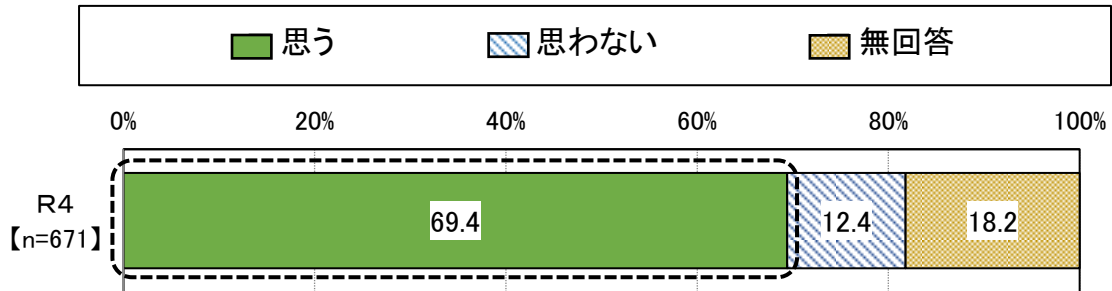
【福祉活動をしていない理由】



問 17 あなたは、身近な地域での住民同士の支え合いは必要だと思いますか。(○は1つ)
 ～「思う」が約7割～

身近な地域での住民同士の支え合いの必要性について、「思う」が69.4%、「思わない」が12.4%となっています。

【身近な地域での住民同士の支え合いは必要か】



		思う	思わない	無回答
性別	男性【n=293】	71.0	12.6	16.4
	女性【n=314】	72.0	11.1	16.9
	その他【n=2】	0.0	0.0	100.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	72.4	27.6	0.0
	30歳代【n=44】	68.2	27.3	4.5
	40歳代【n=66】	77.3	10.6	12.1
	50歳代【n=107】	77.6	15.9	6.5
	60歳代【n=127】	78.0	8.7	13.4
	70歳代【n=172】	59.9	12.2	27.9
	80歳代【n=73】	63.0	1.4	35.6
	90歳以上【n=12】	58.3	8.3	33.3
居住地	高麗【n=60】	71.7	8.3	20.0
	武蔵台・横手台【n=94】	68.1	5.3	26.6
	高麗川【n=205】	65.4	17.1	17.6
	高根【n=47】	78.7	6.4	14.9
	高萩【n=182】	72.5	13.7	13.7
	高萩北【n=59】	69.5	10.2	20.3

【「1. 思う」を選んだ方】

付問1 身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)

～「住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり」が6割超～

身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なことでは、「住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり」が65.2%で最も多く、以下、「地域で取り組まれている活動の情報提供・情報発信の充実」が36.3%、「地域の支え合い、助け合い活動の意義・重要性の普及啓発」が35.2%、「地域での相談支援体制の充実」が30.9%、「住民同士の活発なふれあい活動や相互扶助活動の促進」が22.3%などとなっています。

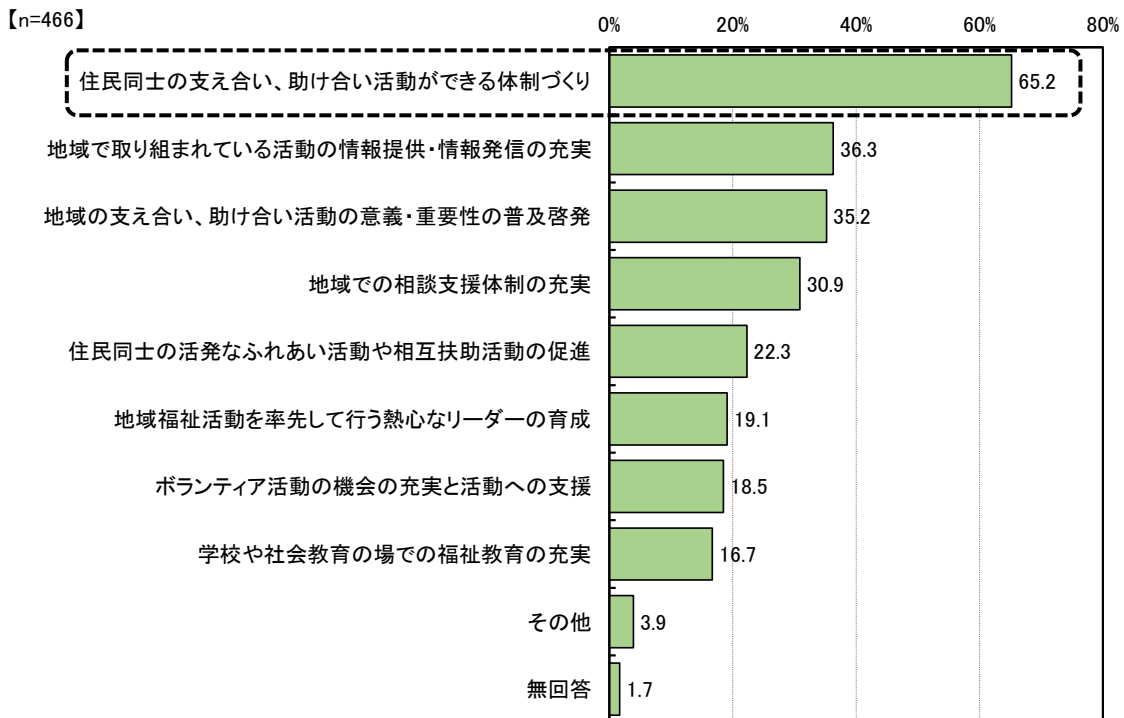
年齢別で「地域で取り組まれている活動の情報提供・情報発信の充実」をみると、多くの年齢階級で3割以上となっていますが、80歳代、90歳以上では割合が少ない傾向がみられました。また、「地域福祉活動を率先して行う熱心なリーダーの育成」では、80歳代と40歳代の割合がほかの年齢階級より多くなっています。

居住地区別で「地域での相談支援体制の充実」をみると、「高萩北」が41.5%とほかの居住地区よりも多い傾向がみられました。

【その他】

日常の会話、あいさつ など

【身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なこと】



		住民同士の 支え合い、助け 合い活動が できる体制 づくり	地域で取 り組まれ ている活 動の情報 提供・情 報発信の 充実	地域の支 え合い、 助け合い 活動の意 義・重要 性の普及 啓発	地域での 相談支援 体制の充 実	住民同士の 活発な ふれあい 活動や相 互扶助活 動の促進	地域福祉 活動を率 先して行 う熱心な リーダー の育成	ボランティ ア活動の 機会の充 実と活動 への支援	学校や社 会教育の 場での福 祉教育の 充実
性別	男性【n=208】	63.5	35.6	43.3	29.8	24.5	21.6	18.8	13.5
	女性【n=226】	66.4	37.2	27.0	32.3	19.5	15.9	17.7	19.9
	その他【n=0】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	50.0	100.0
	20歳代【n=21】	76.2	33.3	33.3	28.6	9.5	19.0	23.8	19.0
	30歳代【n=30】	46.7	33.3	30.0	36.7	20.0	10.0	23.3	43.3
	40歳代【n=51】	64.7	37.3	27.5	39.2	31.4	21.6	23.5	27.5
	50歳代【n=83】	60.2	36.1	37.3	30.1	15.7	15.7	12.0	19.3
	60歳代【n=99】	62.6	40.4	35.4	26.3	24.2	18.2	14.1	10.1
	70歳代【n=103】	70.9	36.9	39.8	30.1	25.2	17.5	22.3	7.8
	80歳代【n=46】	69.6	26.1	34.8	39.1	21.7	34.8	21.7	10.9
	90歳以上【n=7】	71.4	14.3	28.6	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6
居住地区	高麗【n=43】	69.8	37.2	37.2	30.2	23.3	23.3	18.6	16.3
	武蔵台・横手台【n=64】	64.1	42.2	31.3	28.1	25.0	14.1	23.4	12.5
	高麗川【n=134】	63.4	38.1	32.8	29.9	17.2	20.9	15.7	14.2
	高根【n=37】	70.3	43.2	45.9	37.8	27.0	27.0	16.2	16.2
	高萩【n=132】	65.9	31.1	36.4	28.8	23.5	17.4	20.5	19.7
	高萩北【n=41】	58.5	39.0	39.0	41.5	17.1	14.6	14.6	22.0

		その他	無回答
性別	男性【n=208】	3.8	1.0
	女性【n=226】	3.1	2.2
	その他【n=0】	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0
	20歳代【n=21】	4.8	0.0
	30歳代【n=30】	3.3	3.3
	40歳代【n=51】	2.0	0.0
	50歳代【n=83】	2.4	0.0
	60歳代【n=99】	4.0	1.0
	70歳代【n=103】	4.9	1.9
	80歳代【n=46】	2.2	6.5
	90歳以上【n=7】	0.0	0.0
居住地区	高麗【n=43】	2.3	0.0
	武蔵台・横手台【n=64】	6.3	0.0
	高麗川【n=134】	3.7	2.2
	高根【n=37】	8.1	0.0
	高萩【n=132】	3.0	2.3
	高萩北【n=41】	0.0	0.0

付問2 あなたが手助けできると思う地域での支え合い活動は何ですか。

(○はいくつでも)

～「見守り・安否確認」が4割、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」が2割超～

手助けできると思う地域での支え合い活動は、「見守り・安否確認」が42.7%で最も多く、以下、「日常的な話し相手・困ったときの相談相手」が26.0%、「ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事」と「子どもの通学路の見守り」が同率の25.1%、「通院、買い物などの外出の手伝い」が20.8%、「急病などの緊急時の手助け」が18.7%などとなっています。

年齢別で「子どもの通学路の見守り」をみると、30歳代、40歳代の割合がほかの年齢階級より多くなっています。

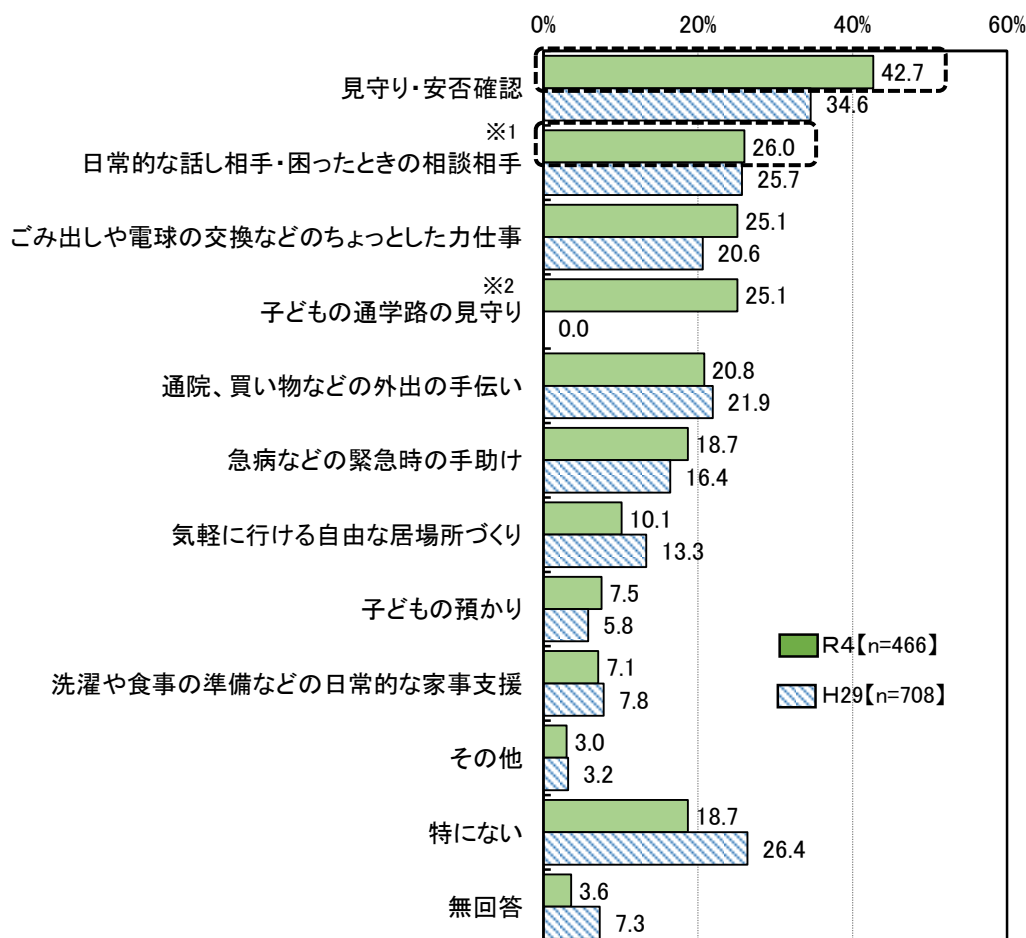
居住地区別で「見守り・安否確認」をみると、「高麗」をはじめ、「高麗川」、「高萩」で多い傾向がみられますが、「高根」、「武蔵台・横手台」、「高萩北」の割合は少ないなど二極化している様相がみられました。

平成29年調査との経年比較では、「見守り・安否確認」の割合が8.1ポイント、「ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事」の割合が4.5ポイントそれぞれ増えています。

【その他】

教育関係のボランティア活動 など

【手助けできると思う地域での支え合い活動】



※1 「日常会話の相手」から変更項目

※2 新規追加項目

		見守り・安否確認	日常的な話し相手・困ったときの相談相手	ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事	子どもの通学路の見守り	通院、買い物などの外出の手伝い	急病などの緊急時の手助け	気軽に行ける自由な居場所づくり	子どもの預かり
性別	男性【n=208】	42.3	22.6	36.5	25.0	20.7	22.1	11.1	5.8
	女性【n=226】	43.8	28.3	13.7	25.2	21.2	15.0	8.4	9.3
	その他【n=0】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0
	20歳代【n=21】	42.9	23.8	28.6	28.6	14.3	28.6	4.8	14.3
	30歳代【n=30】	46.7	33.3	30.0	46.7	26.7	20.0	6.7	23.3
	40歳代【n=51】	39.2	31.4	17.6	31.4	23.5	15.7	7.8	7.8
	50歳代【n=83】	48.2	25.3	27.7	20.5	25.3	24.1	6.0	9.6
	60歳代【n=99】	44.4	17.2	25.3	27.3	19.2	12.1	13.1	3.0
	70歳代【n=103】	47.6	30.1	31.1	23.3	24.3	23.3	10.7	5.8
	80歳代【n=46】	26.1	26.1	13.0	10.9	13.0	15.2	8.7	4.3
	90歳以上【n=7】	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	高麗【n=43】	62.8	30.2	20.9	34.9	18.6	27.9	11.6	11.6
	武蔵台・横手台【n=64】	32.8	28.1	32.8	26.6	23.4	14.1	9.4	7.8
	高麗川【n=134】	45.5	27.6	24.6	20.9	16.4	14.9	8.2	7.5
	高根【n=37】	29.7	24.3	35.1	16.2	24.3	32.4	5.4	2.7
	高萩【n=132】	43.9	28.8	20.5	27.3	25.0	22.0	11.4	8.3
	高萩北【n=41】	36.6	12.2	24.4	31.7	22.0	9.8	12.2	7.3

		洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援	その他	特になし	無回答
性別	男性【n=208】	6.3	2.4	17.8	1.9
	女性【n=226】	8.4	3.5	19.0	5.3
	その他【n=0】	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=21】	9.5	4.8	4.8	0.0
	30歳代【n=30】	10.0	3.3	10.0	0.0
	40歳代【n=51】	11.8	0.0	23.5	0.0
	50歳代【n=83】	7.2	1.2	9.6	1.2
	60歳代【n=99】	5.1	2.0	20.2	3.0
	70歳代【n=103】	5.8	1.9	17.5	6.8
	80歳代【n=46】	4.3	13.0	30.4	8.7
	90歳以上【n=7】	0.0	0.0	71.4	14.3
居住地区	高麗【n=43】	9.3	0.0	11.6	7.0
	武蔵台・横手台【n=64】	4.7	4.7	21.9	1.6
	高麗川【n=134】	6.0	3.7	18.7	3.0
	高根【n=37】	10.8	8.1	18.9	2.7
	高萩【n=132】	8.3	0.8	17.4	4.5
	高萩北【n=41】	7.3	2.4	22.0	0.0

付問3 地域での支え合い活動をより活発にしていく上で必要な条件はどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

～「自宅に近い場所で活動できること」、「好きなときに活動できること」、

「活動時間がそれほど長くないこと」が約6割～

地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件では、「自宅に近い場所で活動できること」が60.9%で最も多く、以下、「好きなときに活動できること」が58.6%、「活動時間がそれほど長くないこと」が57.3%、「お金がかからないこと」が43.6%、「くわしい知識や高度な技術を必要としないこと」が34.5%などとなっています。

また、4.3%が「特に条件となるものはない」と回答しています。

年齢別で「同世代の人が多いこと」をみると、20歳代から40歳代にかけて割合が多くなる傾向がみられます。また、「子どもや見守りの必要な家族を預かってもらえること」でも20歳代から40歳代の割合が多くなっています。

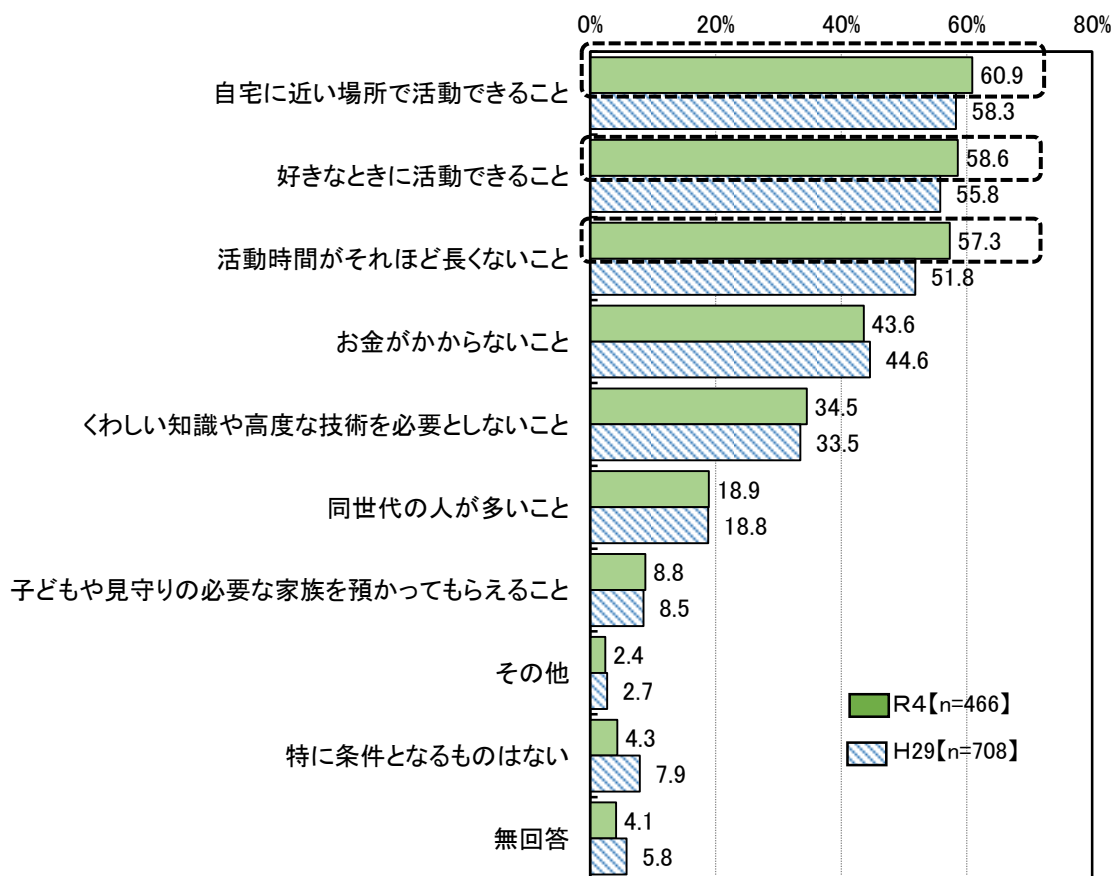
居住地区別で「活動時間がそれほど長くないこと」をみると、どの居住地区でも5割以上となっている中、「武蔵台・横手台」の割合がほかの居住地区より多くなっています。

平成29年調査との経年比較では、上位3項目の全てにおいて割合が増えています。

【その他】

楽しい活動であること など

【地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件】



		自宅に近い場所で活動できること	好きなときに活動できること	活動時間がそれほど長くないこと	お金がかからないこと	くわしい知識や高度な技術を必要としないこと	同世代の人が多いこと	子どもや見守りの必要な家族を預かってもらえること	その他
性別	男性【n=208】	60.6	60.1	55.8	45.2	37.5	16.8	6.3	2.4
	女性【n=226】	61.9	56.6	58.0	42.5	30.5	21.2	11.5	2.7
	その他【n=0】	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	100.0	0.0	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=21】	57.1	76.2	47.6	52.4	42.9	38.1	28.6	4.8
	30歳代【n=30】	73.3	66.7	70.0	53.3	33.3	33.3	23.3	0.0
	40歳代【n=51】	70.6	66.7	72.5	37.3	23.5	23.5	17.6	2.0
	50歳代【n=83】	54.2	69.9	51.8	36.1	16.9	18.1	9.6	2.4
	60歳代【n=99】	62.6	59.6	60.6	52.5	41.4	15.2	2.0	1.0
	70歳代【n=103】	63.1	46.6	62.1	41.7	46.6	15.5	4.9	1.9
	80歳代【n=46】	56.5	37.0	30.4	43.5	28.3	13.0	4.3	6.5
	90歳以上【n=7】	28.6	28.6	42.9	28.6	28.6	42.9	0.0	14.3
居住地区	高麗【n=43】	74.4	62.8	58.1	48.8	34.9	18.6	4.7	0.0
	武蔵台・横手台【n=64】	64.1	62.5	64.1	37.5	34.4	21.9	7.8	3.1
	高麗川【n=134】	62.7	56.7	59.7	41.8	38.1	20.9	11.2	1.5
	高根【n=37】	62.2	54.1	56.8	40.5	32.4	16.2	10.8	8.1
	高萩【n=132】	54.5	59.1	50.8	47.7	31.1	18.9	9.1	3.0
	高萩北【n=41】	63.4	61.0	58.5	36.6	31.7	14.6	7.3	0.0

		特に条件となるものはない	無回答
性別	男性【n=208】	5.3	2.4
	女性【n=226】	3.5	4.9
	その他【n=0】	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	0.0
	20歳代【n=21】	0.0	0.0
	30歳代【n=30】	3.3	0.0
	40歳代【n=51】	2.0	0.0
	50歳代【n=83】	2.4	1.2
	60歳代【n=99】	6.1	2.0
	70歳代【n=103】	3.9	7.8
	80歳代【n=46】	8.7	13.0
	90歳以上【n=7】	14.3	0.0
居住地区	高麗【n=43】	7.0	2.3
	武蔵台・横手台【n=64】	6.3	3.1
	高麗川【n=134】	1.5	4.5
	高根【n=37】	5.4	5.4
	高萩【n=132】	4.5	4.5
	高萩北【n=41】	7.3	2.4

問 18 あなたの身の回りで起こる福祉の課題に対して、あなたはどのように思いますか。

(それぞれ当てはまるものに○)

～「④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、

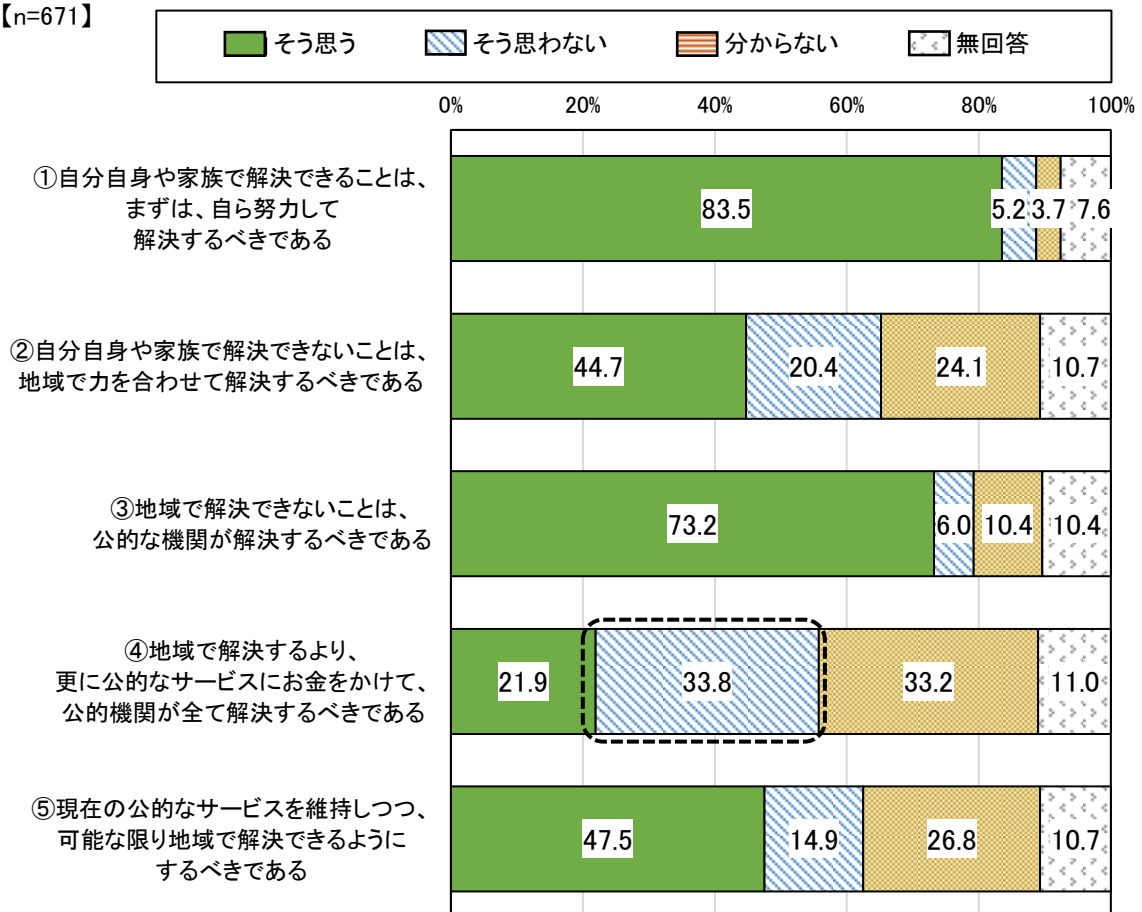
公的機関が全て解決するべきである」は「そう思わない」が3割超～

身の回りで起こる福祉の課題についてどのように思うかは、「④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、公的機関が全て解決するべきである」については「そう思わない」が「そう思う」を上回っています。

そのほかの設問では「そう思う」が「そう思わない」を上回っていますが、「②自分自身や家族で解決できないことは、地域で力を合わせて解決するべきである」、「④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、公的機関が全て解決するべきである」、「⑤現在の公的なサービスを維持しつつ、可能な限り地域で解決できるようにするべきである」については「わからない」の割合が多い傾向がみられます。

【身の回りで起こる福祉の課題についてどのように思うか】

【n=671】



①自分自身や家族で解決できることは、まずは、自ら努力して解決するべきである

		そう思う	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	84.3	5.1	4.4	6.1
	女性【n=314】	82.8	5.7	3.5	8.0
	その他【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	79.3	6.9	6.9	6.9
	30歳代【n=44】	86.4	2.3	6.8	4.5
	40歳代【n=66】	86.4	6.1	3.0	4.5
	50歳代【n=107】	76.6	11.2	6.5	5.6
	60歳代【n=127】	86.6	7.9	0.8	4.7
	70歳代【n=172】	84.9	1.2	3.5	10.5
	80歳代【n=73】	86.3	4.1	1.4	8.2
	90歳以上【n=12】	58.3	0.0	8.3	33.3
居住地区	高麗【n=60】	83.3	1.7	5.0	10.0
	武蔵台・横手台【n=94】	83.0	3.2	3.2	10.6
	高麗川【n=205】	84.4	4.4	3.9	7.3
	高根【n=47】	76.6	10.6	4.3	8.5
	高萩【n=182】	83.0	7.1	3.8	6.0
	高萩北【n=59】	86.4	5.1	3.4	5.1

②自分自身や家族で解決できないことは、地域で力を合わせて解決するべきである

		そう思う	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	48.5	23.2	20.5	7.8
	女性【n=314】	42.4	18.5	26.4	12.7
	その他【n=2】	0.0	0.0	100.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	69.0	17.2	6.9	6.9
	30歳代【n=44】	40.9	29.5	25.0	4.5
	40歳代【n=66】	50.0	24.2	21.2	4.5
	50歳代【n=107】	50.5	18.7	24.3	6.5
	60歳代【n=127】	39.4	22.8	30.7	7.1
	70歳代【n=172】	39.5	20.3	25.0	15.1
	80歳代【n=73】	49.3	15.1	19.2	16.4
	90歳以上【n=12】	41.7	0.0	25.0	33.3
居住地区	高麗【n=60】	41.7	16.7	25.0	16.7
	武蔵台・横手台【n=94】	51.1	16.0	22.3	10.6
	高麗川【n=205】	41.0	22.4	23.9	12.7
	高根【n=47】	36.2	19.1	36.2	8.5
	高萩【n=182】	47.8	19.8	23.6	8.8
	高萩北【n=59】	49.2	25.4	18.6	6.8

③地域で解決できないことは、公的な機関が解決するべきである

		そう思う	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	75.1	8.2	8.5	8.2
	女性【n=314】	72.0	4.5	12.1	11.5
	その他【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	82.8	3.4	6.9	6.9
	30歳代【n=44】	79.5	6.8	9.1	4.5
	40歳代【n=66】	84.8	1.5	9.1	4.5
	50歳代【n=107】	67.3	7.5	17.8	7.5
	60歳代【n=127】	73.2	10.2	10.2	6.3
	70歳代【n=172】	71.5	5.8	9.3	13.4
	80歳代【n=73】	71.2	5.5	4.1	19.2
	90歳以上【n=12】	58.3	0.0	16.7	25.0
居住地区	高麗【n=60】	76.7	5.0	3.3	15.0
	武蔵台・横手台【n=94】	72.3	5.3	12.8	9.6
	高麗川【n=205】	75.1	5.4	8.3	11.2
	高根【n=47】	70.2	4.3	17.0	8.5
	高萩【n=182】	72.5	7.1	10.4	9.9
	高萩北【n=59】	67.8	6.8	16.9	8.5

- ④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、公的機関が全て解決するべきである

		そう思う	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	25.3	39.6	26.3	8.9
	女性【n=314】	17.8	30.9	38.9	12.4
	その他【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	0.0	50.0	50.0	0.0
	20歳代【n=29】	17.2	44.8	31.0	6.9
	30歳代【n=44】	43.2	25.0	27.3	4.5
	40歳代【n=66】	19.7	42.4	33.3	4.5
	50歳代【n=107】	18.7	37.4	35.5	8.4
	60歳代【n=127】	22.0	36.2	34.6	7.1
	70歳代【n=172】	20.3	30.8	33.7	15.1
	80歳代【n=73】	17.8	37.0	26.0	19.2
	90歳以上【n=12】	16.7	16.7	33.3	33.3
居住地区	高麗【n=60】	20.0	36.7	25.0	18.3
	武蔵台・横手台【n=94】	23.4	24.5	41.5	10.6
	高麗川【n=205】	20.0	37.6	30.7	11.7
	高根【n=47】	29.8	25.5	31.9	12.8
	高萩【n=182】	23.6	30.8	36.8	8.8
	高萩北【n=59】	18.6	42.4	30.5	8.5

- ⑤現在の公的なサービスを維持しつつ、可能な限り地域で解決できるようにするべきである

		そう思う	そう思わない	分からない	無回答
性別	男性【n=293】	50.2	17.7	23.5	8.5
	女性【n=314】	44.3	12.4	31.2	12.1
	その他【n=2】	50.0	0.0	50.0	0.0
年齢	10歳代【n=2】	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代【n=29】	58.6	10.3	24.1	6.9
	30歳代【n=44】	34.1	22.7	38.6	4.5
	40歳代【n=66】	51.5	16.7	27.3	4.5
	50歳代【n=107】	47.7	19.6	24.3	8.4
	60歳代【n=127】	42.5	17.3	33.9	6.3
	70歳代【n=172】	46.5	11.6	26.2	15.7
	80歳代【n=73】	52.1	12.3	20.5	15.1
	90歳以上【n=12】	41.7	0.0	25.0	33.3
居住地区	高麗【n=60】	45.0	16.7	21.7	16.7
	武蔵台・横手台【n=94】	50.0	10.6	26.6	12.8
	高麗川【n=205】	50.2	13.2	26.3	10.2
	高根【n=47】	42.6	14.9	29.8	12.8
	高萩【n=182】	45.1	17.6	27.5	9.9
	高萩北【n=59】	40.7	18.6	33.9	6.8

(3) 調査結果に基づく分析（クロス集計）

問 11 「日常生活を送る上で必要な手助け」と問 17 付問 2 「手助けできると思う地域での支え合い活動」のクロス集計

～「洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援」や

「子どもの預かり」が複数の項目で割合が多い傾向～

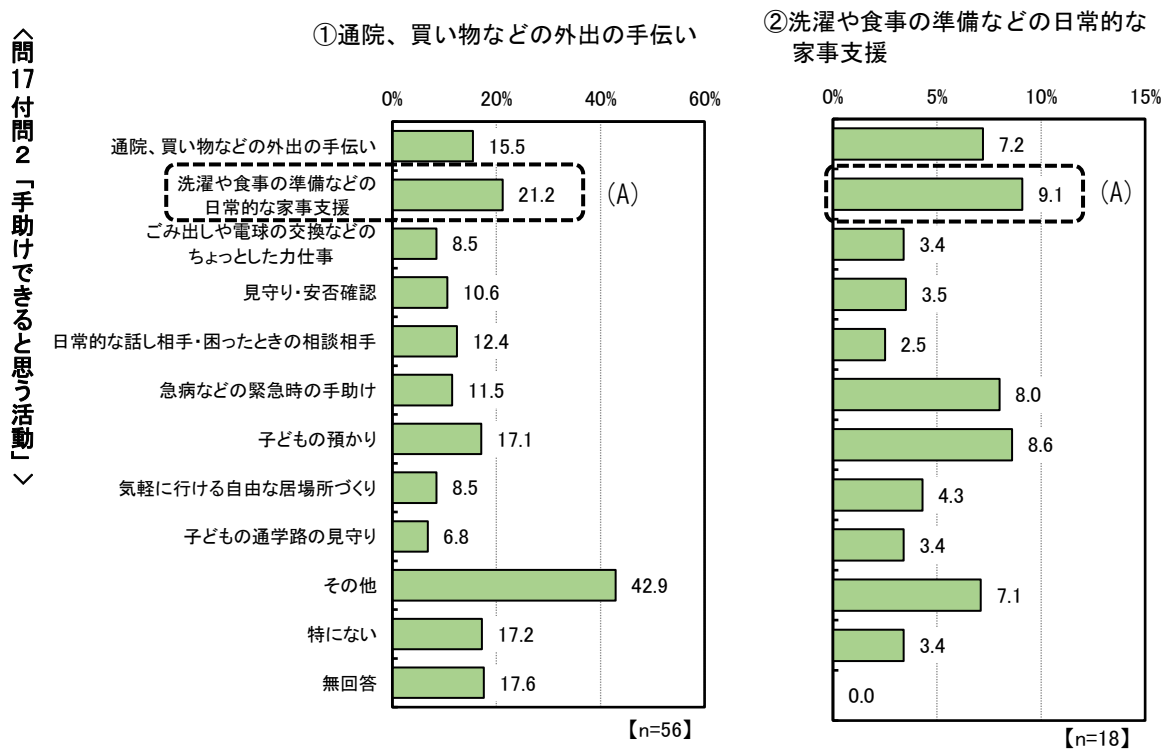
手助けできると思う地域での支え合い活動について、日常生活を送る上で必要な手助け別にみると、「②洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援」や「⑦子どもの預かり」において、複数の項目で割合が多い傾向がみられます。(A)

「③ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事」を必要としている人は、全体的に手助けできる活動内容の割合は少ない傾向がみられる中、「子どもの預かり」や「洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援」の割合が多くなっています。(B)

「⑥急病などの緊急時の手助け」を必要としている人は、全体的に手助けできる活動内容の割合は多い傾向にあり、「急病などの緊急時の手助け」、「日常的な話し相手・困った時の相談相手」、「洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援」などの割合は3割を超えています。(C)

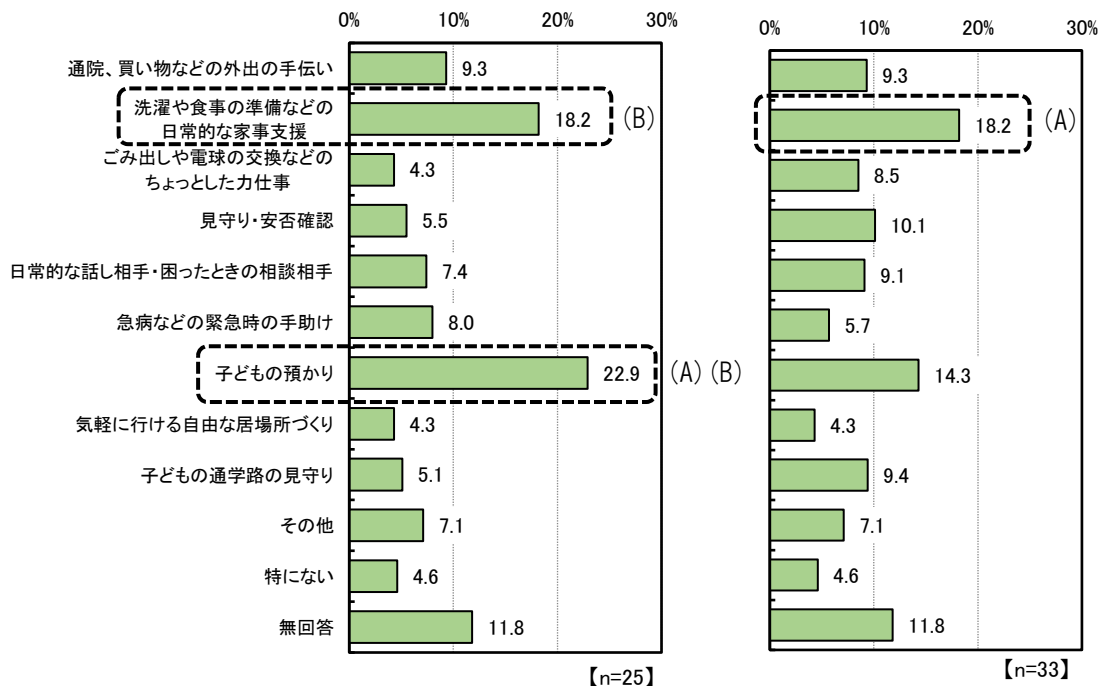
同様に、「⑩特にない」においてでも、全体的に手助けできる活動内容の割合は多い傾向がみられており、「子どもの通学路の見守り」、「ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事」、「見守り・安否確認」、「通院、買い物などの外出の手伝い」では、割合がそれぞれ4割を超えています。(D)

＜問 11 「必要な手助け」＞



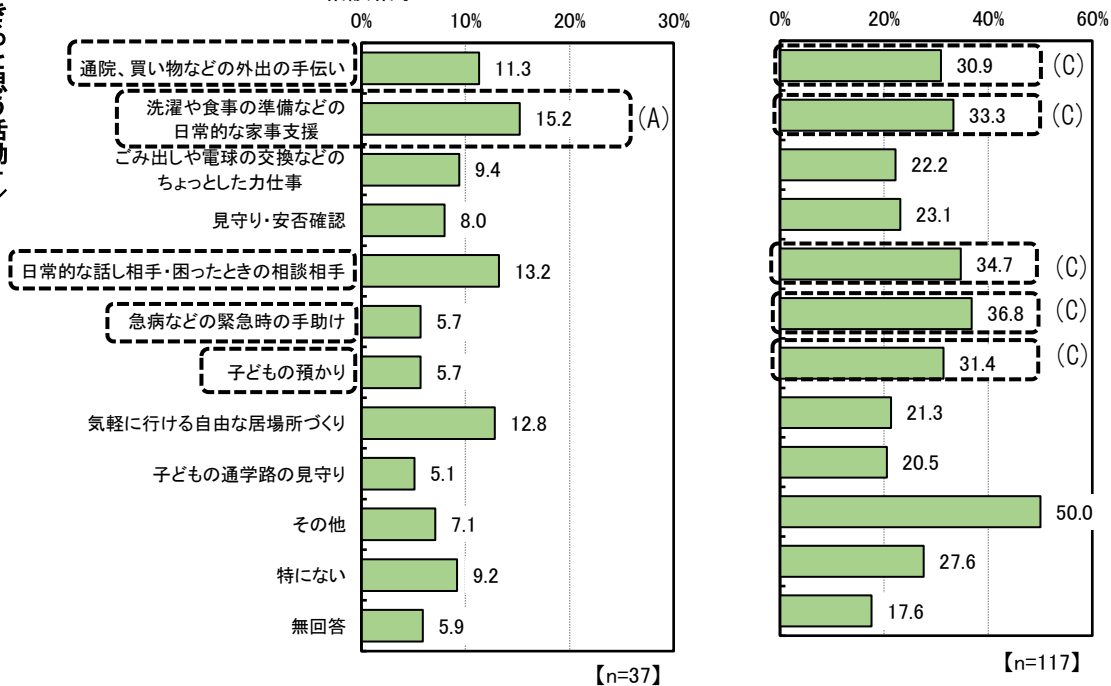
〈問 11 「必要な手助け」〉

③ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事 ④見守り・安否確認



⑤日常的な話し相手・困った時の相談相手

⑥急病などの緊急時の手助け

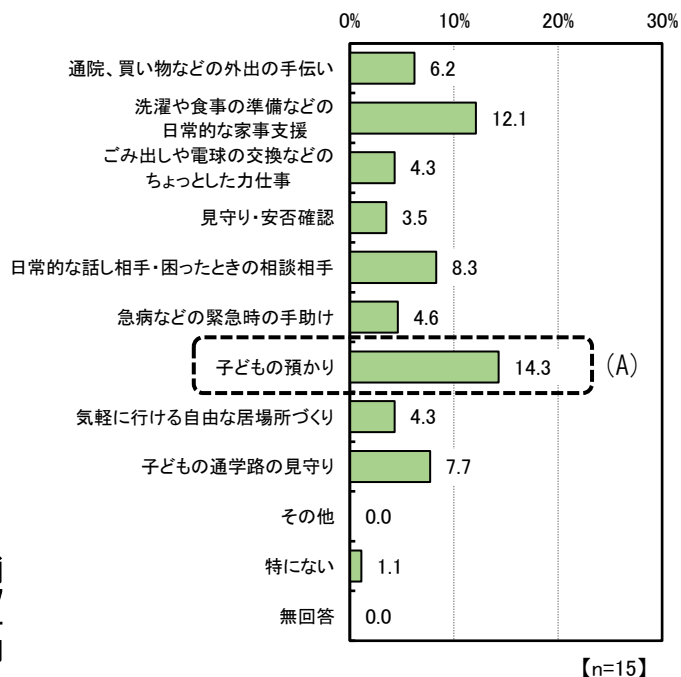


↑問 17 付問 2 「手助けできると思う活動」↓

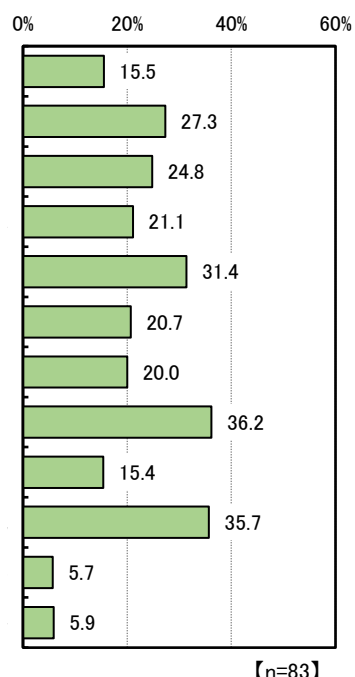
〈問11「必要な手助け」〉

〈問17付問2「手助けできると思う活動」〉

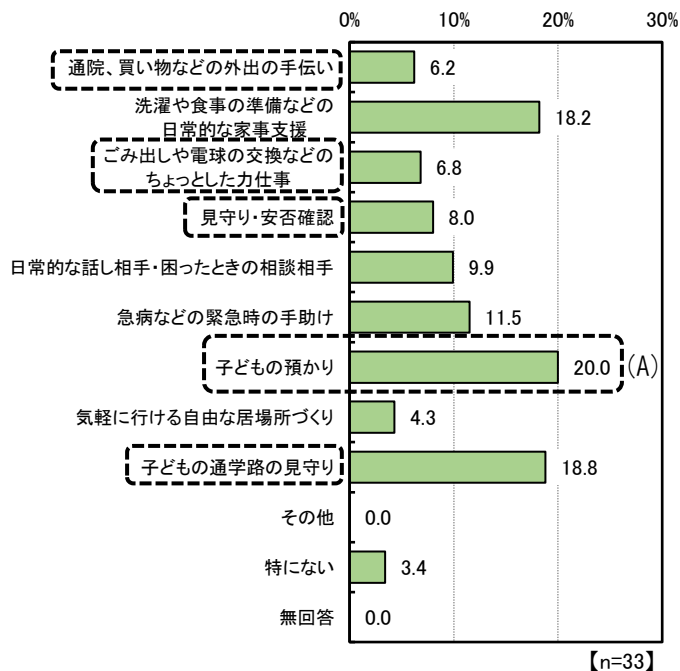
⑦子どもの預かり



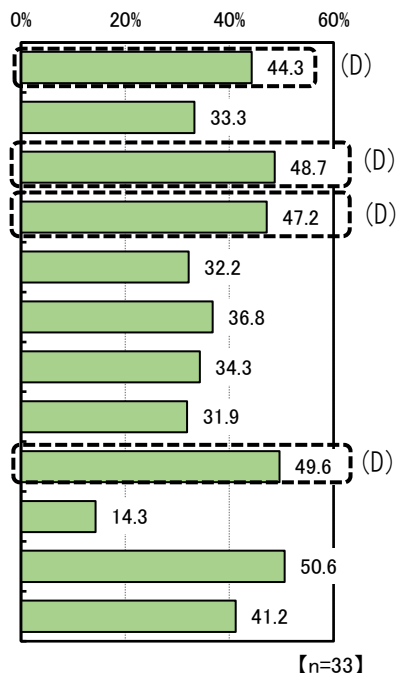
⑧気軽に行ける自由な居場所づくり



⑨子どもの通学路の見守り



⑩特にない



問 16 付問 2 「福祉活動をしていない理由」と問 17 付問 3 「地域での支え合い活動をより活
発にするために必要な条件」のクロス集計

～活動しやすくなる「条件」を整えると参加しやすい「条件」が浮かび上がる～

地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件について、福祉活動をしていない理由別にみると、「①学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない」では、「子どもや見守りの必要な家族を預かってもらえること」、「好きなときに活動できること」、「活動時間がそれほど長くないこと」の割合が5割以上となっています。(A)

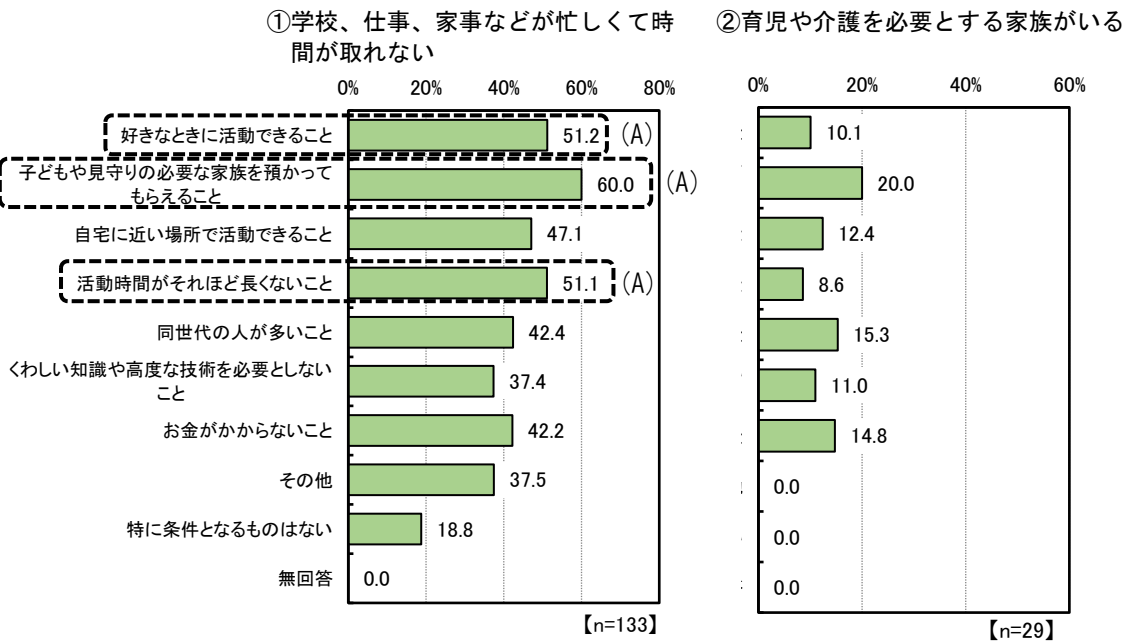
「⑤身近に活動グループや仲間がない」では、「子どもや見守りの必要な家族を預かってもらえること」や「同世代の人が多いこと」の割合が多い傾向がみられます。(B)

「⑦健康に自信がない」では、「特に条件となるものはない」の割合が3割となっています。(C)

「⑩活動する上で人間関係がわずらわしい」では、「同世代の人が多いこと」の割合が多くなっています。(D)

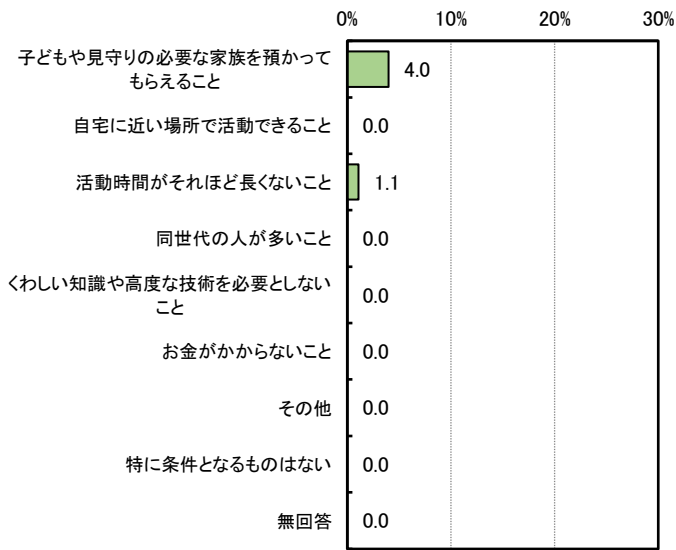
問 17 付問 3 「地域での支え合い活動を活発にするために必要な条件」

問 16 付問 2 「福祉活動をしていない理由」

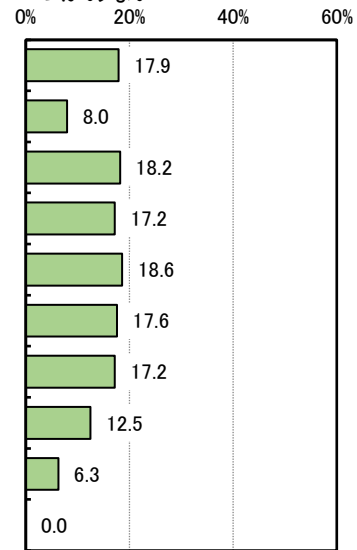


〈問 16 付問 2「福祉活動をしていない理由」〉

③家族や職場の理解が得られない

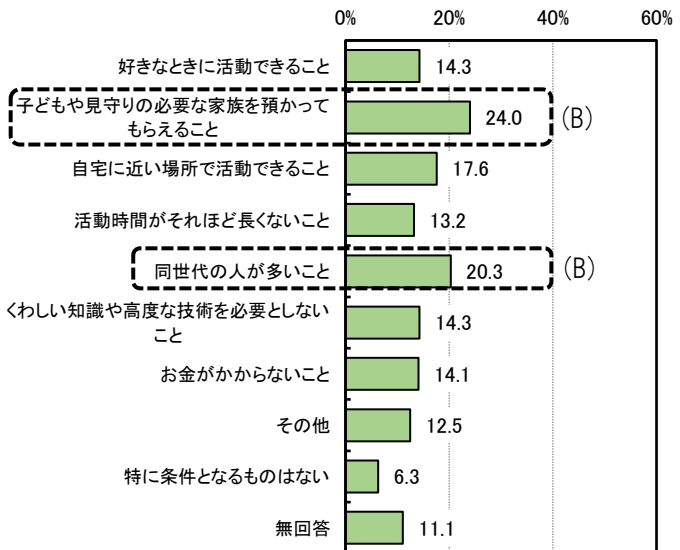


④活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない

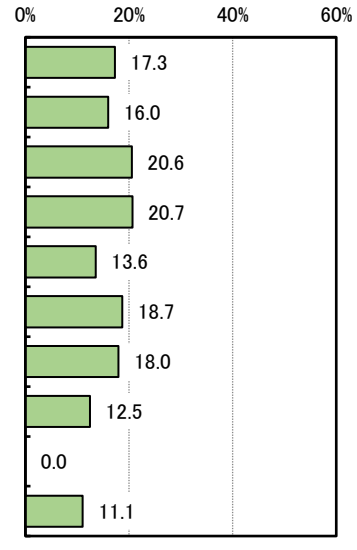


問 17 付問 3 「地域での支えあい活動を活発にするために必要な条件」

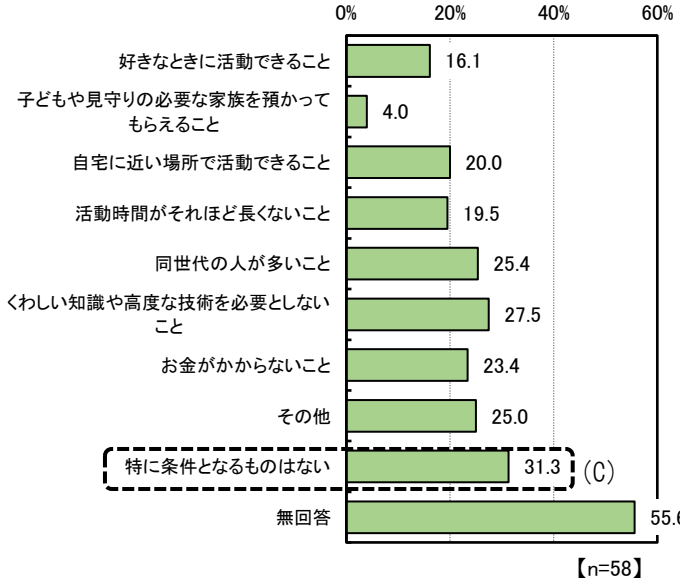
⑤身近に活動グループや仲間がない



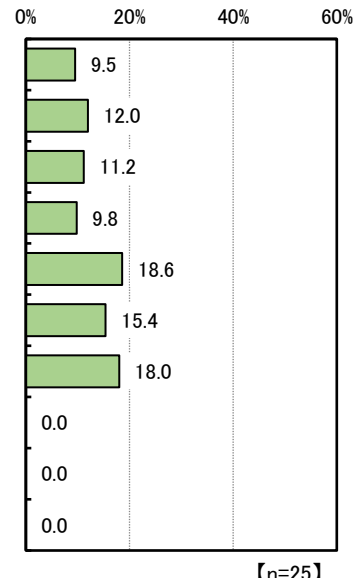
⑥活動する情報が少ない・少ない



⑦健康に自信がない

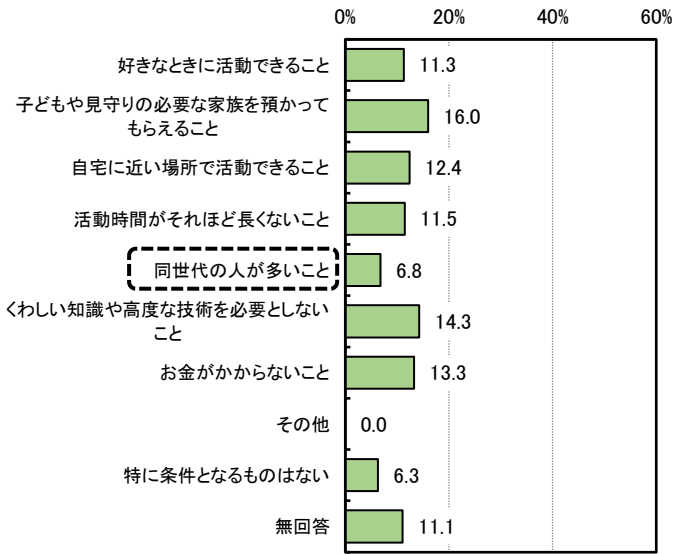


⑧活動のための費用を負担できない



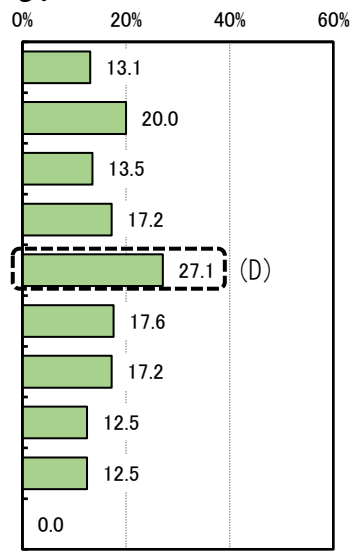
〈問 16 付問 2「福祉活動をしていない理由」〉

⑨興味を持てる活動がない



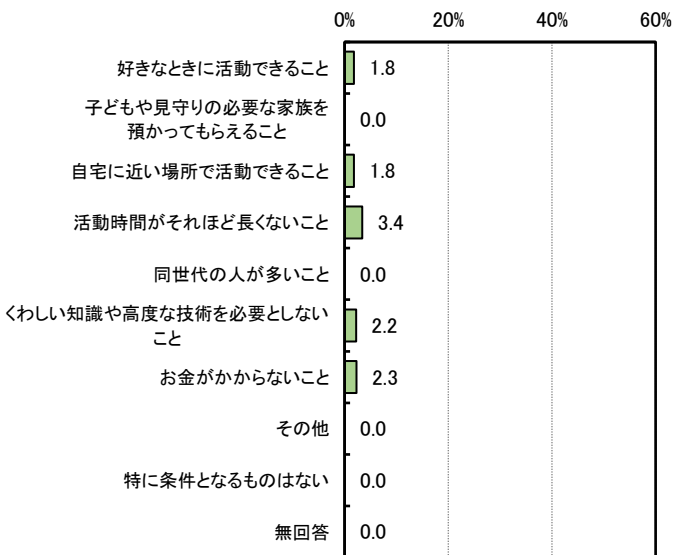
【n=29】

⑩活動する上での人間関係がわずらわしい



【n=41】

⑪地域になじめない



【n=6】

△問 17 付問 3「地域での支えあい活動を活発にするために必要な条件」▽

問 16 「福祉との関わり方」と問 17 付問 1 「身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なこと」とのクロス集計

～活動経験の有無により意識の差がみられる～

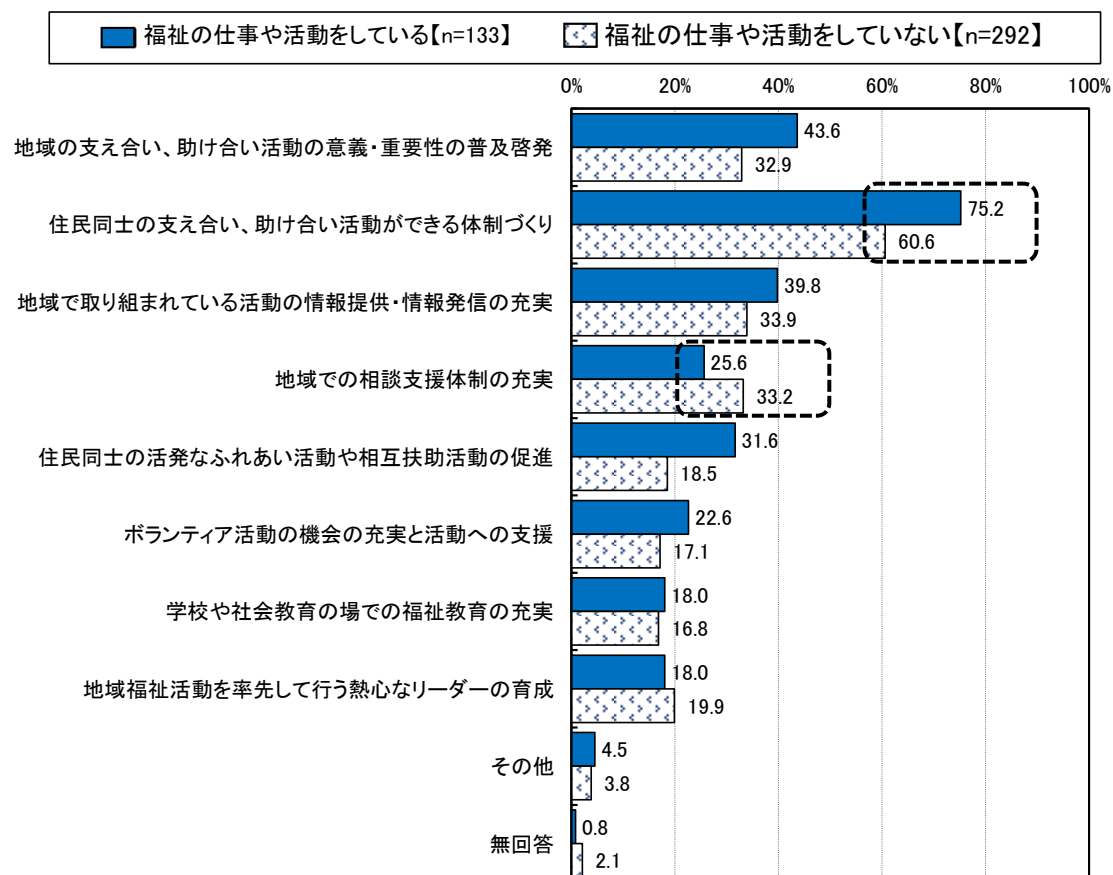
身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために必要なことについて、福祉との関わり方別にみると、どちらも「住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり」が最も多くなっていますが、次点以降は、「福祉の仕事や活動をしている」では、「地域の支え合い、助け合い活動の意義・重要性の普及啓発」、「地域で取り組まれている活動の情報提供・情報発信の充実」、「住民同士の活発なふれあい活動や相互扶助活動の促進」の順になっているのに対し、「福祉の仕事や活動をしていない」では、「地域で取り組まれている活動の情報提供・情報発信の充実」、「地域での相談体制の充実」、「地域の支え合い、助け合い活動の意義・重要性の普及啓発」の順となっています。

多くの項目で、「福祉の仕事や活動をしている」が「福祉の仕事や活動をしていない」を上回っており、その中で最も差がみられたのは、「住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり」の 14.6 ポイントでした。

また、「福祉の仕事や活動をしていない」が「福祉の仕事や活動をしている」を上回っているものは、「地域での相談体制の充実」が 7.6 ポイント、「地域福祉活動を率先して行う熱心なリーダーの育成」が 1.9 ポイントとなっています。

「福祉の仕事や活動をしていない」：問 16 「いずれの活動もしていない」

「福祉の仕事や活動をしている」：問 16 「いずれの活動もしていない」以外



問 16 「福祉との関わり方」と問 17 付問 3 「地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件」のクロス集計

～「福祉の仕事や活動をしている」人の方が

活動時期や活動場所、知識等の条件を重視している～

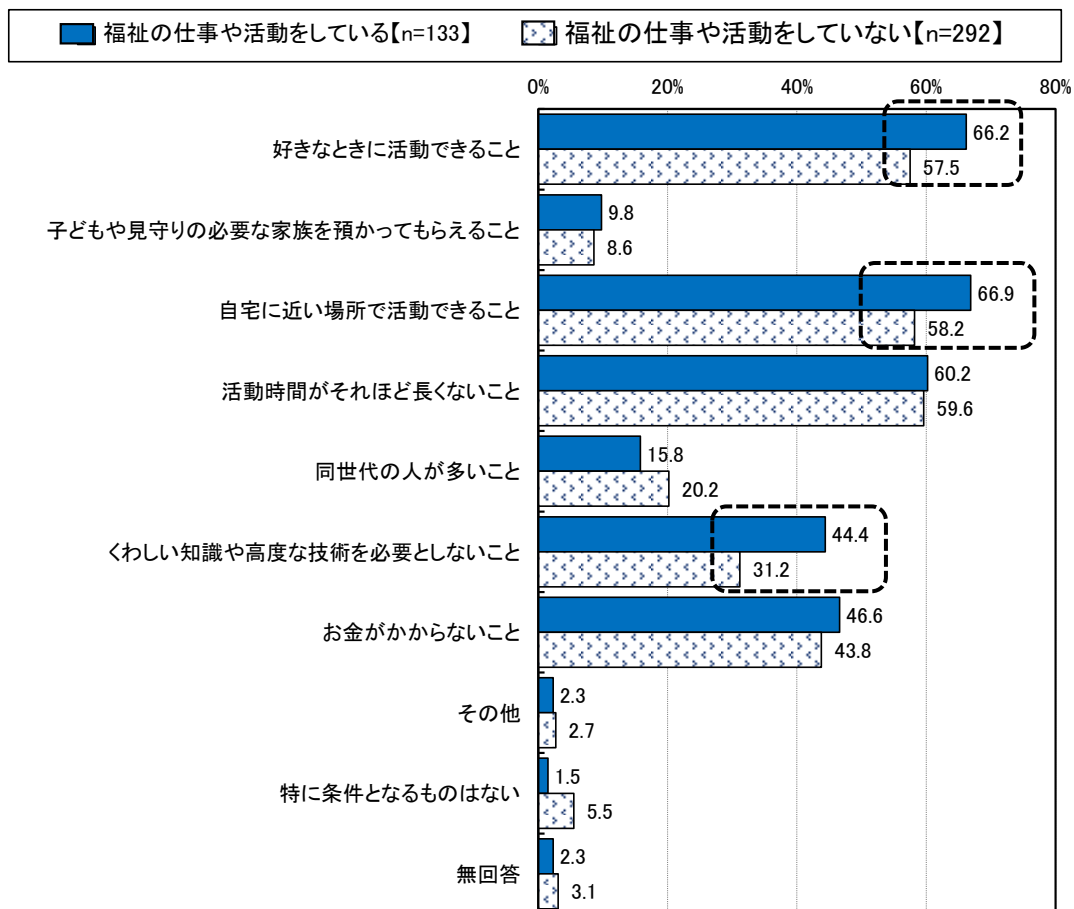
地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件について、福祉との関わり方別でみると、「福祉の仕事や活動をしている」では、「自宅に近い場所で活動できること」が最も多く、「好きなときに活動できること」、「活動時間がそれほど長くないこと」の順となっています。一方の「福祉の仕事や活動をしていない」では、「活動時間がそれほど長くないこと」が最も多く、「自宅に近い場所で活動できること」、「好きなときに活動できること」となっており、順位は異なりますが、上位3項目は同様となっています。

多くの項目で、「福祉の仕事や活動をしている」が「福祉の仕事や活動をしていない」を上回っており、その中で最も差がみられたのは、「くわしい知識や高度な技術を必要としないこと」の13.2ポイントでした。

また、「福祉の仕事や活動をしていない」が「福祉の仕事や活動をしている」を上回っているものは、「同世代の人が多いこと」が4.4ポイント、「特に条件となるものはない」が4ポイントとなっています。

「福祉の仕事や活動をしていない」：問 16 「いずれの活動もしていない」

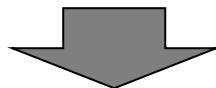
「福祉の仕事や活動をしている」：問 16 「いずれの活動もしていない」以外



(4) 総括

お住まいの地域について（問2～問7）

- ・「自分の地域」と感じる範囲は、「自宅周辺の近隣」から「自治会・町内会の範囲」で6割となっています。
- ・自分の地域の住みやすさは、「住みやすい」と「まあ住みやすい」の合計が6割を超えています。
- ・地域や周辺の環境については、「あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ」において「そう思う」と「まあそう思う」の合計が7割以上となっていますが、他の項目では半数以下となっており、「子どもから高齢者まで住民による交流が活発だ」において「そう思わない」、「あまりそう思わない」の合計が最も多くなっています。
- ・近所づきあいは、「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」が5割弱となっています。また、平成29年調査との比較では、「お互いに家を行き来するような仲の良い人がいる」と「家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる」の割合は減り、「あいさつ程度である」の割合が増えています。
- ・近所づきあいをしていない理由では、「仕事などで家をあけることが多く、会う機会がない」が約5割となっています。
- ・地域で行われている行事や活動への参加は、「清掃・美化活動」が5割となっています。また、「活動はしていない」も3割います。
- ・地域活動や行事を活発にするために大切なことでは、「住民同士が困ったときに、助け合う関係を作る」が6割となっています。



＜結果から見える今後の展開＞

近所づきあいについて、新型コロナウイルス感染症がどの程度近所づきあいに影響を及ぼしているのかは、本調査では読み取ることはできませんが、近所づきあいの希薄化を感じられる内容となっています。

住民同士が困ったときに助け合う関係を構築するためには、「自分の地域」の範囲、「自宅周辺の近隣」から「自治会・町内会の範囲」での近所づきあいが欠かせません。地域や周辺の環境について、「あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ」の「そう思う」と「まあそう思う」の割合が多いことから、この部分を起点に、近所づきあいの構築、地域で行われている行事や活動への参加が促進されるように環境づくりを進めていく必要があります。

日常生活や福祉の課題について（問8～問15）

- ・親しい人が身近にいると感じるかについて、「とても感じる」と「ある程度感じる」の合計が約6割となっています。
- ・どのようなことに悩みや不安を感じるかは、「健康に関すること」が約6割、「老後の暮らしに関すること」が約5割となっています。
- ・悩みや不安なことの相談先は、「家族・親戚」の割合が8割となっており、次点の「友人・知人」を大きく上回っています。
- ・日常生活を送る上で必要な手助けは、「急病などの緊急時の手助け」が2割、「気軽に行ける自由な居場所づくり」が2割近い値となっています。また、「特にない」が4割となっています。
- ・高齢者や障がいのある人、子育てをしている人が支援を受けるために必要なことは、「様々な相談先の提供」が約4割となっています。
- ・健康や福祉に関する情報で役に立っているものは、「日高市の広報紙・ホームページ」が5割以上となっています。平成29年調査と比較すると、「インターネットからの情報」の割合が大幅に増えています。
- ・「ケアラー」という言葉の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「ある程度は知っている」の合計）5割台前半でした。
- ・「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、『知っている』（「よく知っている」と「ある程度は知っている」の合計）5割台後半でした。



＜結果から見える今後の展開＞

多くの人が健康や老後の暮らしに対する悩みや不安を感じており、相談相手は家族・親戚、友人・知人が上位に挙がっています。

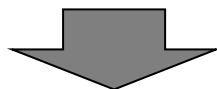
また、高齢者や障がい者、子育てをしている人が支援を受けるために必要なことでは、様々な相談先の情報提供、様々な相談ができる総合相談窓口へのニーズが高くなっていることから、包括的な相談支援体制の更なる充実を図る必要があります。

日常生活において必要な手助けでは、「特にない」が多くなっていますが、今後の高齢化の進行を勘案すると、「通院、買い物などの外出の手伝い」や「見守り・安否確認」に対する要望が高まる可能性があります。

情報の入手では、広報紙・ホームページやテレビ、新聞、書籍といったメディアを通して情報を得ている様子がみられます。また、インターネットから情報を得る割合も増えていることから、情報の入手先の多様化とそれに対応するための取組が課題となってきます。

地域福祉を進めるための取り組みについて（問 16～問 18）

- ・福祉との関わり方は、「いずれの活動もしていない」が6割近くとなっており、福祉活動をしていない理由では、「学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない」が4割となっています。
- ・福祉活動をする理由では、「持ち回りの当番制となっているから」が4割台後半となっています。
- ・地域で支え合い、助け合うために必要なことは、「住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり」が6割となっています。
- ・手助けできると思う地域での支え合い活動は、「見守り・安否確認」が4割となっています。
- ・地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件は、「自宅に近い場所で活動できること」が6割、「好きなときに活動できること」と「活動時間がそれほど長くないこと」が5割台後半となっています。
- ・身の回りで起こる福祉の課題についてどう思うかは、「④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、公的機関が全て解決するべきである」については「そう思わない」が「そう思う」を上回っています。



＜結果から見える今後の展開＞

福祉活動について、活動している人は持ち回りの当番制といった主体的な理由ではないケースが多くなっています。活動している人を増やす視点から、当番が終わった後も引き続き活動に参加したくなる施策や環境の整備が重要となります。

また、活動をしていない理由で最も多かったのが「多忙」でした。地域での支え合い活動をより活発にするために必要な条件では、自宅に近い場所で活動できること、好きなときに活動できること、活動時間がそれほど長くないことが挙げられています。活動体制のなかに、この条件を柔軟に組み入れていく必要があります。

地域での支え合い活動をより活発にしていくためには、支え合い、助け合い活動ができる体制づくりを多くの方が挙げています。支え合い、助け合い活動には人と人との関係構築だけではなく、地域の人たちが参加しやすく、かかる負担を地域住民で分担し合いながら、地域での支え合い、助け合い活動をどのように取り組んでいくべきか、地域とともに検討していく必要があります。

**(5) 新たな地域福祉計画の策定に向けた
アンケート調査票**

新たな地域福祉計画の策定に向けたアンケート調査

ご協力をお願い

日頃より健康づくりと福祉の推進について、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、日高市では、「支え合いで、共に生き、誰もがつながる地域づくり」を基本理念とした第3次日高市地域福祉計画を平成31年3月に策定し、計画的な地域福祉施策の展開に努めておりますが、この計画の期間が令和5年度をもって終了いたします。

このため、次期計画の策定に当たり、市内在住の方を対象に地域を取り巻く環境や地域福祉に対する意見をお伺いし、計画立案に役立てたいと考え、アンケート調査をお願いすることといたしました。ご多用中のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、皆さまからのご回答内容は統計的に処理し、計画策定の基礎資料としてのみ使用いたします。個々にご記入いただいた調査票を公表するなど、個人が特定されるようなことは決してありません。

令和4年9月 日高市長 谷ヶ崎 照雄

地域福祉とは？

「地域福祉」とは、障がいの有無や性別、年齢、国籍、生活状況などの異なる様々な人たちが抱える生活上の課題を、自分たちが住んでいる地域という場所を中心に考え、地域全体で取り組み、誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせるまちづくりを進める活動のことです。

《はじめにお読みください》

1. この調査票は、市内にお住まいの18歳以上の方のうち無作為に抽出して選んだ1,500名の方を対象としてお配りしています。調査票には現在（令和4年9月）の状況をあて名のご本人がご回答ください。ご本人がご記入できない場合は、ご家族の方がご本人のお考えを聞きながらご記入ください。
2. 質問によって選んでいただく数を（○は1つ）、（○はいくつでも）などと指定していますので、質問の内容をお読みいただきお答えください。また、「その他」とお答えの方は、その内容を（ ）内に詳しくご記入ください。
3. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ **9月26日（月）まで**に無記名でご投函ください。（切手は不要です。）
4. この調査についてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。

《お問い合わせ先》 日高市 福祉子ども部 生活福祉課 地域福祉担当

電話：042-989-2111（代表） FAX：042-985-4444

あなたとご家族についておたずねします。

問1 あなたとご家族についてお答えください。(それぞれ当てはまるものに○)

(1)性別	1 男性	2 女性	3 その他
※答えたくない方は○をつけなくてもかまいません。			
(2)年齢	1 10歳代	4 40歳代	7 70歳代
	2 20歳代	5 50歳代	8 80歳代
	3 30歳代	6 60歳代	9 90歳以上
(3)職業	1 会社員	6 パート・アルバイト	
	2 公務員・団体職員	7 家事専業	
	3 自営業・自由業	8 学生	
	4 農林水産業	9 無職(年金生活者など)	
	5 派遣社員	10 その他()	
(4)世帯の状況	1 ひとり暮らし	4 三世代(親と子と孫)	
	2 夫婦のみ	5 その他	
	3 二世代(親と子)	()	
(5)同居家族の状況 (ご自身も含め、 <u>当てはまるもの全てに○</u>)	1 就学前の児童	8 障がいのある方	
	2 小学生	9 妊娠中の方	
	3 中学生	10 ひとり親家庭の方	
	4 高校生	11 閉じこもりや引きこもりの方	
	5 65歳以上の方	12 生活に困窮している方	
	6 75歳以上の方	13 地域で見守りや支援が必要な方	
	7 介護が必要な方	14 その他()	
(6)居住地区	1 高麗	3 高麗川	5 高萩
	2 武蔵台・横手台	4 高根	6 高萩北
(7)住居形態	1 一戸建て・長屋建て	3 その他	
	2 集合住宅(マンションなど)	()	
(8)居住年数	1 4年以下	3 10年～19年	5 30年～39年
	2 5年～9年	4 20年～29年	6 40年以上

お住まいの地域についておたずねします。

問2 あなたにとって「自分の地域」と感じるのはどれくらいの範囲ですか。(○は1つ)

1 自宅周辺の近隣	3 学区の範囲	5 その他
2 自治会・町内会の範囲	4 日高市全域	()

問3 自分の地域の住みやすさについて総合的にどう感じますか。(○は1つ)

1 住みやすい	3 どちらともいえない	5 住みにくい
2 まあ住みやすい	4 やや住みにくい	

問4 自分の地域や周辺の環境についてどう思いますか。(それぞれ当てはまるものに○)

	そう思う	まあそう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	分からない
①あいさつや世間話を交わすなど近隣関係が良好だ	1	2	3	4	5
②子どもから高齢者まで住民による交流が活発だ	1	2	3	4	5
③手助けや見守りが必要な人が多い	1	2	3	4	5
④手助けや見守りが必要な人への関心が強い	1	2	3	4	5
⑤困ったときにはみんなで助けあう雰囲気がある	1	2	3	4	5
⑥地域における支え合い活動が展開されている	1	2	3	4	5
⑦住民が気軽に集える場所がある	1	2	3	4	5
⑧周辺施設が高齢者や障がい者の利用に配慮されている	1	2	3	4	5
⑨防災・防犯・交通など安全対策が充実している	1	2	3	4	5
⑩食料品の買い物で不便や苦労がある	1	2	3	4	5

問5 どのような近所づきあいをしていますか。(○は1つ)

1 お互いに家を行き来するような仲の良い人がいる 2 家を行き来するほどではないが、会えば話をする人がいる 3 あいさつ程度である 4 近所づきあいはない	→下の付問1へ
--	---------

付問1 あまり近所づきあいをしていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 仕事などで家をあけることが多く、会う機会がない 2 近所づきあいはわずらわしいので避けている 3 近所づきあいをしたいが、きっかけがない 4 近所づきあいは重要とは思っていない 5 近所づきあいのほとんどない所である 6 その他 ()

問6 自分の地域で行われている行事や活動などに参加していますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 お祭り、盆踊りなど | 8 健康づくりなどの介護予防の活動 |
| 2 体育祭 | 9 老人クラブ活動 |
| 3 清掃・美化活動 | 10 障がい者の福祉活動 |
| 4 防犯・防災活動 | 11 趣味などの生涯学習活動 |
| 5 子ども会活動 | 12 その他の自治会活動 |
| 6 子育て支援活動 | 13 その他 () |
| 7 地域交流・サロン活動 | 14 活動はしていない |

問7 地域活動や行事が活発に行われるには、何が大切だと思いますか。(〇は3つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1 住民同士が困ったときに、助け合う関係を作る |
| 2 住民同士の交流の機会を持てる行事などを増やす |
| 3 自治会活動を活発にする事業などを増やす |
| 4 子ども会、老人クラブなどの活動を活発にする |
| 5 集会所など地域活動が行える場所の整備をする |
| 6 学校や公民館、地域の団体や事業者などと住民との交流の機会を増やす |
| 7 その他 () |

日常生活や福祉の課題についておたずねします。

問8 普段親しい人が身近にいると感じますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1 とても感じる | 3 あまり感じない | 5 わからない |
| 2 ある程度感じる | 4 ほとんど感じない | |

問9 日頃どのようなことに悩みや不安を感じていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1 健康に関すること | 7 老後の暮らしに関すること |
| 2 収入など経済に関すること | 8 地域とのつながりに関すること |
| 3 仕事や生きがいに関すること | 9 災害に関すること |
| 4 住まいや生活上の問題に関すること | 10 その他 () |
| 5 子育てに関すること | 11 特にない |
| 6 介護に関すること | |

問10 悩みや不安などがあるとき、どこ（だれ）に相談をしますか。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1 家族・親戚 | 11 地域包括支援センター |
| 2 近所の人 | 12 障がい者相談支援センター |
| 3 友人・知人 | 13 自立相談支援センター |
| 4 職場の人 | 14 社会福祉協議会 |
| 5 民生委員・児童委員 | 15 福祉ボランティアやNPO |
| 6 学校や保育所・幼稚園など | 16 インターネット |
| 7 医療機関 | 17 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス） |
| 8 福祉サービス事業者 | 18 誰に相談したらよいか分からない |
| 9 市の窓口や市民相談 | 19 その他（ ） |
| 10 地域子育て支援センター | 20 誰にも相談しない |

問11 日常生活を送る上で手助けしてほしい（行ってほしい）と思うことがありますか。（○はいくつでも）

- | |
|--------------------------|
| 1 通院、買い物などの外出の手伝い |
| 2 洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援 |
| 3 ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事 |
| 4 見守り・安否確認 |
| 5 日常的な話し相手・困ったときの相談相手 |
| 6 急病などの緊急時の手助け |
| 7 子どもの預かり |
| 8 気軽に行ける自由な居場所づくり |
| 9 子どもの通学路の見守り |
| 10 その他（ ） |
| 11 特にない |

問12 高齢者や障がいのある人、子育てをしている人などが必要な支援を受けることができるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- | |
|------------------------|
| 1 気軽に立ち寄れる地域活動拠点場所 |
| 2 何でも相談ができる地域住民による相談窓口 |
| 3 様々な相談先の情報提供 |
| 4 地域の見守りと相談機関へのつなぎ機能 |
| 5 様々な相談を一本化した総合相談窓口 |
| 6 福祉サービス事業者や従事者の質の向上 |
| 7 その他（ ） |

問13 健康や福祉に関する情報で役に立っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| 1 日高市の広報紙・ホームページ | 6 テレビ、新聞、書籍からの情報 |
| 2 社会福祉協議会の広報紙・ホームページ | 7 インターネットからの情報 |
| 3 公共施設に置いてあるパンフレット | 8 SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)からの情報 |
| 4 家族や友人・知人などからの情報 | 9 その他 () |
| 5 公民館などの講座 | 10 特になし |

問14 「ケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 よく知っている | 3 聞いたことはあるがよく知らない |
| 2 ある程度は知っている | 4 全く知らない |

問15 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1 よく知っている | 3 聞いたことはあるがよく知らない |
| 2 ある程度は知っている | 4 全く知らない |

ケアラー・ヤングケアラーとは？

「ケアラー」とは、高齢、障がい、疾病などにより援助を必要とする親族など身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話や援助をしている方であり、そのうち18歳未満の方を「ヤングケアラー」といいます。

地域福祉を進めるための取り組みについておたずねします。

問16 あなたと福祉との関わりは、次のどれに当てはまりますか。(〇はいくつでも)

1 福祉の仕事をしている	
2 民生委員・児童委員の活動をしている	
3 自治会、住民自治組織などの活動をしている	
4 ボランティアやNPO活動をしている	→下の付問1へ
5 地域のサロンや見守りなどの活動をしている	
6 地域の防犯・防災活動をしている	
7 その他の福祉活動()	
8 いずれの活動もしていない	→下の付問2へ

付問1 活動するきっかけはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

1 地域をより住みやすくしたいから	5 自分の生きがいや健康管理に役立つから
2 社会や人のためになる活動がしたいから	6 持ち回りの当番制となっているから
3 知識や技術を身に付けたいから	7 友人や知人に誘われたから
4 新たに友人や知人を得たいから	8 その他()

→付問2 地域で活動していない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

1 学校、仕事、家事などが忙しくて時間が取れない
2 育児や介護を必要とする家族がいる
3 家族や職場の理解が得られない
4 活動したい気持ちはあるが、きっかけがつかめない
5 身近に活動グループや仲間がいない
6 活動する情報がない・少ない
7 健康に自信がない
8 活動のための費用を負担できない
9 興味の持てる活動がない
10 活動する上での人間関係がわずらわしい
11 地域になじめない
12 その他()
13 分からない

問17 あなたは、身近な地域での住民同士の支え合いは必要だと思いますか。(○は1つ)

1 思う →下の付問1～3へ

2 思わない →次の問18へ

付問1 身近な地域で住民同士が共に支え合い、助け合うために、どのようなことが必要だと思いますか。(○は5つまで)

- 1 地域の支え合い、助け合い活動の意義・重要性の普及啓発
- 2 住民同士の支え合い、助け合い活動ができる体制づくり
- 3 地域で取り組まれている活動の情報提供・情報発信の充実
- 4 地域での相談支援体制の充実
- 5 住民同士の活発なふれあい活動や相互扶助活動の促進
- 6 ボランティア活動の機会の充実と活動への支援
- 7 学校や社会教育の場での福祉教育の充実
- 8 地域福祉活動を率先して行う熱心なリーダーの育成
- 9 その他 ()

付問2 あなたが手助けできると思う地域での支え合い活動は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 通院、買い物などの外出の手伝い
- 2 洗濯や食事の準備などの日常的な家事支援
- 3 ごみ出しや電球の交換などのちょっとした力仕事
- 4 見守り・安否確認
- 5 日常的な話し相手・困ったときの相談相手
- 6 急病などの緊急時の手助け
- 7 子どもの預かり
- 8 気軽に行ける自由な居場所づくり
- 9 子どもの通学路の見守り
- 10 その他 ()
- 11 特にない

付問3 地域での支え合い活動をより活発にしていく上で必要な条件はどのようなことだと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 好きなときに活動できること
- 2 子どもや見守りの必要な家族を預かってもらえること
- 3 自宅に近い場所で活動できること
- 4 活動時間がそれほど長くないこと
- 5 同世代の人が多いこと
- 6 くわしい知識や高度な技術を必要としないこと
- 7 お金がかからないこと
- 8 その他 ()
- 9 特に条件となるものはない

問18 あなたの身の回りで起こる福祉の課題に対して、あなたはどのように思いますか。
 (それぞれ当てはまるものに○)

	そう思う	そう思わない	分からない
①自分自身や家族で解決できることは、まずは、自ら努力して解決すべきである	1	2	3
②自分自身や家族で解決できないことは、地域で力を合わせて解決すべきである	1	2	3
③地域で解決できないことは、公的な機関が解決すべきである	1	2	3
④地域で解決するより、更に公的なサービスにお金をかけて、公的機関が全て解決すべきである	1	2	3
⑤現在の公的なサービスを維持しつつ、可能な限り地域で解決できるようにするべきである	1	2	3

◆最後に、地域福祉に関してご意見がありましたら、自由にご記入ください。

調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。
 お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに
9月26(月)までに投函してください。

2.地域福祉に関する 市民ワークショップ報告書

(1) ワークショップ実施概要

目 的

本市では、地域を取り巻く現状や課題、解決に向けての取組などを話し合い、住民主体の地域福祉を進めるため、「地域福祉に関する市民ワークショップ」を開催し、またその話し合いの結果を第4次日高市地域福祉計画の策定にも役立てています。

○募集と応募状況

無作為抽出した18歳以上の2,000名に案内を送付し、20歳代から70歳代の21名の応募がありました。

【第1回】

- 日 時 : 令和4年9月14日(水)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 16名
- 課題と進行 : (現状の理解と生活の中で感じている困りごと)
ワークショップの目的と手順の説明、現状などの説明後、各参加者が感じている「心配ごと」や「困りごと」を共有する

【第2回】

- 日 時 : 令和4年10月20日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 12名
- 課題と進行 : (世代間交流の促進に必要なこと)
幅広い世代との交流や地域活動への参加を促進するための取組をまとめる

【第3回】

- 日 時 : 令和4年11月17日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 10名(市民8名、事務局2名)
- 課題と進行 : (良いところを整理)
地域の良いところをまとめ、新しく引っ越してきた人に紹介し、地域活動へのつなぎ方について考える

【第4回】

- 日 時 : 令和4年12月15日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 11名(市民7名、事務局4名)
- 課題と進行 : (地域で支え合いを進めるために必要なこと)
地域住民同士での支え合いを進めるために必要な取組をまとめる

【第5回】

- 日 時 : 令和5年1月19日(木)
19:00~21:00(18:30~受付)
- 参加者数 : 11名(市民10名、事務局1名)
- 課題と進行 : (目指す地域福祉の姿)
前回までにまとめた課題やその解決策などから、様々な対象者に合わせた地域での取組を考える

(2) ワークショップ実施結果

第1回-意見交換の要約

討論テーマ

普段の生活の中で感じている、「心配ごと」や「困っていること」

【グループ発表から】

Aグループ

「交通インフラ」、「子育て」、「ごみ」等に関する発表が行われ、中でも「交通インフラ」では、小中学校の近くに信号機のない横断歩道があり、交通事故が起きる可能性が高いとの意見がありました。

Bグループ

「高齢者」、「近所・地域」、「子ども」等に関する発表が行われ、「近所・地域」では、地域で助け合う「互助」の必要性に触れ、近所や周りの人たちとの関係を深めていくためにはきっかけづくりが必要であり、地域の祭、花火大会、お茶会などを企画することで、関係を深めることができるのではないかとまとめていました。

Cグループ

「高齢者」、「健康」、「人とのつながり」、「交通」等に関する発表が行われ、「人とのつながり」では、話しをする相手、場所がないことを挙げて、話しができるサークルを地域内に複数個所設けるとともに、サークル活動を通して、人間関係や地域とのつながりを深めていくことで、孤立感を減らすことができるとまとめていました。

Dグループ

「ボランティア」、「交通不便」、「マナー」等に関する発表が行われ、「ボランティア」では、ボランティアが集まりにくい現状を紹介するとともに、参加人数が少なく、協力者が増えていないとまとめていました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「交通インフラ」

- ◎小中学校近くに信号機のない横断歩道があるため、事故が起きる可能性が高くなっている。信号機をつけてもらいたい。
- ◎自転車を使う小学生や中学生、高齢者が多い中、自転車専用道路が少ない。
- ◎カーブミラーがない、道に大きな穴があいているなど、整備が十分でない。
- ◎高齢者が増え、免許証の返納、バスの交通手段が減っている。交通手段がないことで、高齢者が外に出られない悪循環となってしまうている。
- ◎日和田山はロッククライミングの聖地、高麗神社は聖地巡礼の場所となっているため、渋滞が起きてしまっている。巡回型バス、巾着田へのシャトルバスの増便、駐車場の増設など地域を整備すれば、日高市はもっともっと人を呼べる場所になる。人を呼べる場所になれば、もっと人が住みたい場所になる。

「高齢者」

- ◎元気な高齢者が多い。年齢で区切る「高齢者」はもうやめてはどうか。元気な高齢者は働いてもらいたい。元気な高齢者が働ける環境を市として整備してもらいたい。高齢者に限らず、女性や障がい者、一度仕事から離れても、すぐに職に戻れるような市であればいい。人間関係は職場でも作れる。そこでも助け合いはできる。
- ◎コロナ禍により、外に出る機会が少なくなり、一人暮らしの高齢者が家の中にこもっている。家にこもることで、外に出て足を動かすことや人と会って話す機会が減り、能力が低下する。動ける高齢者が減ってしまうと、高齢者人口が増えた時に、市を動かす力が減ることが考えられる。

「近所・地域」

- ◎「互助」地域で助け合う、ということが一番の課題。近所で助け合いができれば、介護も助け合い、高齢者も助け合い、子どもも障がい児も助け合い、地域で育てることができるのではないかな。
- ◎近所や周りの人たちとの関係を深めるためのきっかけとして、地域の祭、花火大会、お茶会や飲み会を企画することで、近所との関係を深めることができるのではないかな。
- ◎話しをする相手、場所がない。コロナ禍で集まれないこともあるが、いろいろな人が来て、話しができる場所が地域内に1～2つではなく、4か所、5か所と話しができるサークルがあってほしい。その場所を通して、近所のことについて話し合える人間関係ができあがれば、地域とのつながりが深まる。地域とのつながりが深まれば、孤立感も減っていく。

「ボランティア」

- ◎ボランティアへの参加人数が少なく、協力してもらえない。ボランティアが集まらない現実がある。

「その他」

- ◎地域猫活動、去勢して耳に印のついた猫を地域で助け合う活動について、市ではそういう取り組みがないようだ。動物にも優しく、温かく見守れたら良い。
- ◎日高市は自然が豊かで景色が非常に良い。巾着田、日和田山へのハイキングなど、積極的にPRしてもらいたい。

第2回-意見交換の要約

討論テーマ

幅広い世代との交流や地域活動への参加を促進するために必要なこと

【グループ発表から】

Aグループ

「広報活動」、「きっかけづくり」、「課題共有」等に関する発表が行われ、「課題共有」では、市民は普段の生活が忙しく、地域の課題に目を向けられない点を挙げて、市の広報紙等で地域の課題について情報を発信し、市民の理解促進を図ることが、活動へのきっかけにもなり得ること、また課題を自治会等と共有し、市と市民が課題について共通認識を持つことも大切であるとまとめていました。

Bグループ

「わずらわしさ」、「PR」、「楽しさ」等に関する発表が行われ、「わずらわしさ」では、地域活動の中で仲間を見つけられれば楽しくなるが、楽しさの反面、わずらわしさもあるため、「負担にならないようにしないといけない」ということが重要で、また、このわずらわしさを取り去るのが、近所のつながりや声掛けであるとまとめていました。

Cグループ

「環境をつくる」、「イベント・行事」、「情報発信」、「その他」等に関する発表が行われ、「その他」では、インセンティブの重要性を挙げて、参加を促すためには金銭やポイント制、記念品といった形でのインセンティブの仕組みがないと続かないのではないかと発表をまとめていました。

Dグループ

「PR」、「きっかけづくり」、「新旧住民の交流」等に関する発表が行われ、「きっかけづくり」では、実際に地域活動やボランティアに参加している人から、活動内容について話を聞くこと、お試しで活動を体験できる機会を設けることで活動に対する不安感を取り除くことができるとまとめていました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「広報・PR活動」

- ◎大事なものはインセンティブ。金銭やポイントなどのシステムがないと続かないのではないかな。
- ◎サークル同士の交流を深める。例)子育てサークルと高齢者のサークルによる合同イベント
- ◎体験型のイベントなどをショッピングセンター等で行うことで、普段参加しないような人にも体験してもらう機会を作る。地域の商店の人たちとも交流ができるのではないかな。
- ◎ポスターコンクールを行う。誰もが参加しやすく、また情報発信が伝わりやすいように、いろいろな場所にポスターを貼っていく。
- ◎SNSを活用して、地域活動を知ってもらうことで、参加を促す。
- ◎市には、イベントに参加するとポイントがもらえ、商品券と交換できる健幸手帳という取組みがある。これを参考に、手帳を作り様々なサークルに参加することでポイントを貯めていく。それをきっかけにサークルに引き続き参加したいという気持ちになってもらう。
- ◎“あなたに来てもらいたい”というチラシや参加を募るチラシを無作為で配布する。
- ◎みんながSNSを利用しているため、活用すればつながる範囲が広がる。

「環境をつくる」

- ◎大人が好きでやっていることを子どもたちに伝えても、子どもは喜んでくれないが、子どもが喜んでやっていることは、大人も結構楽しんでできることから、世代間交流のきっかけとして、子どもに合わせた取組を行ってはどうか。
- ◎シニア世代は、ものを伝えようとする思いが強い。反対に若者から教えてもらうという取組も必要ではないか。
- ◎引っ張っていく中心人物を育成すること。

「楽しさ」

- ◎地域活動というだけで少し難しそうだが、活動の中で楽しさや仲間を見つけられれば、楽しくなる。楽しいことなら参加できるのではないかな。
- ◎楽しめる活動が大事。

「わずらわしさ」

- ◎楽しさの反面、わずらわしさがあり、重荷になる。負担にならないようにしないといけない。

「新旧住民の交流」

- ◎新しい人が上手く地域の中に入っていくにはPRやきっかけが必要。
- ◎人が人を引っ張ってくる。

「日常・普段・毎日」

- ◎わずらわしさを取り去るのは、近所のつながりや気軽な声掛け。
- ◎知り合いがいると、誘いやすくなる。
- ◎普段のつながりが大事。

「課題共有」

- ◎市民は普段の生活が忙しく、地域の課題になかなか目を向けられない。市として地域の課題について広報等で発信することで、市民が課題を認識し、活動へのきっかけにもなる。また、課題を自治会の会長などとも共有し、市と市民が課題について共通認識を持つことが重要。

第3回-意見交換の要約

討論テーマ

新しく引っ越してきた人に、地域活動への参加を促すため、地域の良いところや誇れるところを紹介してください

【グループ発表から】

Aグループ

「自然」、「交通・移動」、「地域活動」等に関する発表が行われ、「地域活動」では、市内には活動団体や活動の場、イベントなど多種多様なものがあるため、各々が興味のあることを調べていけば、そこから地域につながるができるのではないかとまとめていました。

Bグループ

「交通」、「コミュニティ」、「豊かな自然」等に関する発表が行われ、「コミュニティ」では、隣近所の人温かく、適度な距離を保ちながらつきあいができ、また地域によっては神社掃除を行うなどの地域のつながりがあり、子どもから高齢者まで、暮らしやすい地域ではないかとまとめていました。

Cグループ

「自然」、「コミュニティ」、「イベント」、「生活の利便性」等に関する発表が行われ、「生活利便性」では、自然が多く住みやすい点を挙げて、都心まで50分で行くことができ、自然の中で暮らすことができる。整備されたまちでもあり、環境も良いとまとめていました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「日高市の良いところ」

- ◎程良く田舎で程良く都。より田舎から来た人にとっては、店や交通の便が良い。都会から来た人にとっては、自然が豊か。そういうところが良いところ。
- ◎交通利便性が良く、買い物にも便利、長い歴史があり、豊かな自然もある。これらの部分から可能性を感じる。今でも十分だが、アイデア次第ではまだまだ可能性があり、非常に期待している。
- ◎市のPRは足りていないが、団体やイベント、遊び場などを調べてみると多種多様なものがあることがわかる。引っ越してきた人は自分の興味のあることを調べていけば、そこから地域とつながることができるのではないかと。

「イベント」

- ◎市民まつりや地域の夏まつりなどが開催されている。図書館でも様々なイベントが多く行われ、イベントに伴う市民への特典も多い。また巾着田の駐車場券が市民だと無料になるなど、特典が比較的多いので活用すれば便利である。
- ◎近所づきあいのイベントが多い。敬老会、高齢者が参加する行事や子ども会がある。運動会などでも地域で参加しているところもあり、イベントを通じた近所づきあいがとても多いのが良いところ。それがとても大事。

「コミュニティ」

- ◎隣近所の人々が温かく優しい。神社掃除などもやっており、地域の人たちのつながりがある。子どもから高齢者まで、暮らしやすい地域ではないか。

「治安」

- ◎良好な近所づきあいがあり、小中学生の通学路への交通安全対策が充実している。小学校の登下校の見守り、小中学校では「地域の方たちに積極的にあいさつしましょう」と言われており、それが実行されている。治安は良い。

「生活の利便性」

- ◎駅が4つある。車に関しても、日光街道、日高川越線があり基盤の目に近い道路交通環境がある。東京と程良い距離がある。
- ◎地域内の移動の点では、店によっては送迎バスがありそれが市内を循環していたり、車であっても、店の駐車場が広く、無料なので車を持っている人にとっては移動しやすい。また駐輪場も無料なので自転車でも移動しやすい。
- ◎近くに病院や高齢者施設が多く、老後に心強い。近所にそのような病院や施設が多いことは良いこと。

「自然」

- ◎山や川があり、自然が豊かで、地域の一斉清掃によりきれいに保たれている。遠足の聖地と言われているので散策の場も非常に多い。そして観光地として、巾着田、高麗神社、日和田山。自然をそのまま残した観光地が多いので、そこが良さにつながっている。
- ◎環境も良く、住み良い。豊かな自然。高麗川の水がきれい、日和田山の標高はハイキングにちょうど良く、ロッククライミングの聖地にもなっている。また天災に強い豊かな自然があり、文化に関しては、高麗神社で1300年祭が行われている。
- ◎自然が多く、住みやすいまち。清流があって、川がきれい。自然の中で暮らせるというところが一番良い。

第4回-意見交換の要約

討論テーマ

地域住民で支え合いを進めるために必要なこと

【グループ発表から】

Aグループ

「場所」、「人」、「建前の目的」等に関する発表が行われ、「人」では、長期的に運営していくためには、一人当たりの負担を下げる必要があり、複数のリーダーを育成するとともに、イベントごとに運営担当者を変えるなど、分担して開催する仕組みについて提案がありました。

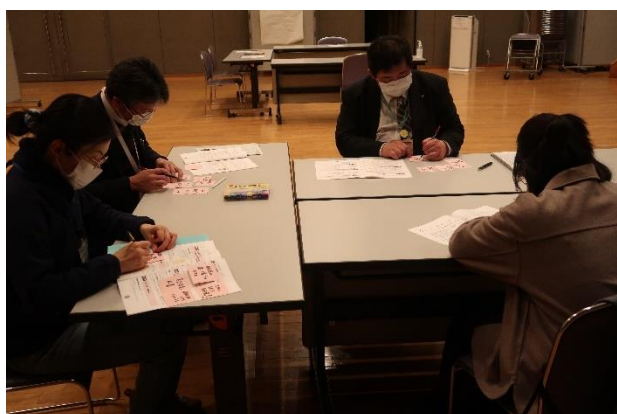
Bグループ

「場所・立地」、「動機付け」、「活動」等に関する発表が行われ、「活動」では、中心となるイベントだけではなく、サテライトイベントのような小規模のサークルやイベントの開催に合わせてリーダーを配置し、気軽に参加できる取組について提案がありました。

また、リーダーの負担軽減を図るために、役割を設けて分担をするとともに、運営を継続するための動機付けも必要であるとまとめていました。

Cグループ

「目的」、「人的問題」、「場所」等に関する発表が行われ、「人的問題」では、中心となる人は必須であるとした上で、中心となる人に負担が集中しないためにも、イベントごとにリーダーを決め、また場所の管理をする人、鍵の開け閉めをする人という形で役割分担を行うことで、運営に関わる人を増やしていくことも重要であるという提案がありました。



【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「動機付け」

- ◎リーダーの負担を減らすために、役割をみんなで分担すると、参加しなくなる人が出てしまうので動機付けが必要になる。
- ◎参加したい人がいても、参加するために送迎などの援助を必要とするケースがある。その場合、ドライバーの人が参加するための動機付けも必要ではないか。
- ◎みんなで集まってではなく、料理だったりラジオ体操、掃除だったり、近所で野菜を作っている人の野菜を配るといった目的にすることによって、参加のハードルを低くすることにもつながる。
- ◎割引チケットを配ること。「今日割引チケットが配布されるからおいでよ」と、ハードルを下げるのが目的のひとつとなっても良いのではないか。
- ◎男性でも興味を持つ内容を取り入れる。

「活動」

- ◎参加のためのハードルを下げる。
- ◎中心イベントの他にサテライトイベントをたくさん作る。活動場所に行くのが大変であれば周辺の小さなサークルにそれぞれのリーダーを置いて、井戸端会議のような参加のしやすさにする。
- ◎ハードルを下げ、動機付けをやったとしても、実は活動についてよく知られていないのではないか。イベントをやっていること、どこでどのような活動をしているのか知られていない。

「場所」

- ◎新しく何かを作るのではなく今あるもの、公民館などを活用する。
- ◎活動について、わかりやすくするために日時と場所を固定する。また平日に働いている人は、仕事などで参加できないため、日曜日に行くことも必要。
- ◎店など、既存のものを活用する。また、活動場所に行くまでのアクセス、託児所機能、そこでの過ごし方を保障する。

「日時周知（曜日 AM/PM）」

- ◎オンラインなども活用して、幅広い時間で活動できるようにする。
- ◎開催日時をより多くの住民に周知する。
- ◎日時を月の第〇週〇曜日〇時からと固定して開催する。

「人（役員）」

- ◎長期的な展開を考えると、一人の負担を下げるためには、複数のリーダーを育成する。回ごとに運営者を変えて分担する。
- ◎単発のイベントを開催して、その場限りの中心となるリーダーが一人か二人がいればイベントが成立するので、そのようなハードルの下げ方もあるのではないのか。
- ◎心理的なハードルの低さが大切。活動するに当たり、必ずしも長期的に活動しなくても、単発なイベントを行い、常連だけではなく新しく引越してきた人などが参加しやすい、新しく引越してきた人のための行事を企画する。
- ◎中心となる人は絶対必要。中心となる人にもあまり負担にならないようにするために、イベントごとに中心となる人を決める。また、目的によってリーダーを決め、場所の管理をする人は、鍵の開け閉めだけなど、分担して役員の負担を軽くする。

第5回-意見交換の要約

討論テーマ

目指す地域福祉の姿 ～様々な参加者に合わせた地域イベントを考える～

◆Aグループ

参加者ターゲット：様々な世代、バックグラウンドを持つ人たち

【グループ発表から】

「広報・PR」、「人材育成」、「イベント」等に関する発表が行われ、「イベント」では心配ごとを解消できるイベントについて、子育てや介護中の人、引っ越してきたばかりの人、これから市に引っ越してくる予定の人などを対象に、様々なことを知ることができて心配ごとの解消につながるイベントを頻繁に開催するなどの提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「動機付け」

- ◎楽しいと思えること、必要だと思えることといった、参加のメリットがあることが重要。
- ◎親しい人に誘われる、誘い合わせによる参加で、気軽に参加することができる。

「運営」

- ◎既存の団体などと一緒に活動することで運営負担を減らす。
(例) 子供会、老人会・サークル、地元の会社 など

「広報・PR」

- ◎SNSや回覧板などといった媒体を活用して、幅広くPRを行う。
(例) 掲示板、学校だより、回覧板に情報を掲載

「人材育成」

- ◎中学生を対象としたリーダーシップ教育をイベントの中に盛り込む。
- ◎スマートフォンやSNSといったツールの使い方をイベントの中に盛り込む。

「イベント」

- ◎楽しく地域や人について知るという企画で、マルシェや郷土料理など様々な人が関わり、楽しめる内容とする。
- ◎心配ごとを解消できるイベント。子育てや介護中、また引っ越してきたばかりの人や、これから引っ越してくる日高市のことを知らない人などを対象に、知りたいことを知ることができる、自分の心配ごとを解消できる会にしたい。

◆Bグループ

参加者ターゲット：半年以内に地域に引っ越してきた人

【グループ発表から】

「運営」、「集客」、「育成」、「イベント-伝える」等について発表が行われ、「イベント-伝える」では、新しい住民が地域に早く馴染めるように、茶話会や歩こう会、交流会という形の歓迎会を開き、ごみ捨てといった地域のルールなどを共有する場を設けるといった提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「運営」

- ◎新しい会員に対するチューター制度や情報のやり取りをしやすくするためのマニュアルを作成し、助けなどが必要なときに、手助けしやすいようにする。
- ◎去年、引っ越してきたが、近所9軒中、3軒の人しか知らない。あいさつをしてもあいさつを返してくれる人があまりいない。個人情報の問題もあるが、どういう人が暮らしているといった情報が回覧板でまわれば、「あの人は誰か」ということも少なくなる。今の状況では、助け合いたくても助け合えない。情報を共有するためのマニュアルが作れると良い。

「育成」

- ◎中高生をボランティアとして招き、一緒に活動することで今後の育成につながっていく。

「広報」

- ◎回覧板に新しく引っ越してきた人の情報を載せる。

「イベント-伝える」

- ◎歩こう会、茶話会、交流会など新しい住民の歓迎会を開き、地域に早く馴染んでもらう交流の場とする。
(例) 地域の慣習の説明会やごみ出しルール、区・組・班の仕組みを教える など
- ◎ラジオ体操やフリーマーケットなどを開催することで、地域に住む近所の人との自然な交流が生まれ、馴染みやすくなるのではないか。
(例) 市内を歩こう会、季節の行事にまつわる手作りの会 など



◆Cグループ

参加者ターゲット：20～30 歳代の男女

【グループ発表から】

「集客」、「担い手の育成」等について発表が行われ、「担い手の育成」では、地域活動に繰り返し参加することが、最終的には定住につながるという意見の中で、地域に対する理解を深めてもらうために、地元の商工会や消防団の人たちの協力を得ながら、リーダーや後継者育成につなげ、さらに、その後継者たちが年を重ねた時に、また次の担い手を育てていくという循環を取り入れた仕組みづくりなどについて提案がありました。

【グループディスカッションで挙げられた意見等】

「集客」

- ◎立ち寄りやすい場所を作る。
- ◎既存のカフェなどを活用して、マルシェなどを開催する。
- ◎趣味やスキルアップのための学びの場を作る。
- ◎20～30 歳代の好みに合わせて、バーベキューやキャンプ講習会などを行う。

「人に優しいまち」

- ◎日高市は他市から引っ越してきた人に対しても優しく受け入れてくれる。
- ◎人とのつながりがあり、困った時に手を差し伸べてくれる。
- ◎何よりも、住みやすい。

「担い手の育成」

- ◎日高市のことをよく知っている、商工会や青年会などの人たちに協力してもらい、日高市に興味を持っている若者たちが定住したくなるようにPRを行う。
- ◎定住した若者たちを中心に、地域の消防団の人たちなどを交えて地域の担い手育成を行う。将来、その人たちが、若い人たちを集めて担い手の育成を行う。そういった循環ができればいい。



(3) 総 括

全5回のワークショップを通して、本市における世代間交流や地域活動、支え合い活動がより活性化していくために必要な要素について参加者の声をもとに総括します。

【動機付け】

○実現するための要点

1. 活動内容に関する情報の発信と参加しやすい環境の整備
2. 参加メリット、インセンティブの提示
3. 友人・知人との誘い合わせによる参加
4. 集える場所を行きたい場所にする

これまでに地域活動や支え合い活動への参加経験がない人たちに参加を促すとともに、参加を継続的なものにしていくためには、動機付けが必要な要素であり、重要な役割を持ちます。参加者に対して、活動内容に関する情報を発信することで、興味・関心を引き出すとともに、活動することで得られるメリットを示すことで、活動に対するインセンティブの役割を果たすことにもつながります。

また、同じ地域で暮らす友人・知人と誘い合って参加することも、身近なところで行える動機付けとなり、そして、継続的な参加を促していく中で、集える場所を行きたい場所に変化させていくことも重要です。

【活動場所・時間】

○実現するための要点

1. 身近に集える場所を作る
2. 既存の施設を活用する
3. 活動場所までの交通手段を確認する
4. 開催場所、日時を固定した活動を増やす

地域活動を行うに当たり、開催場所と開催時間は、参加を決める要素の一つになります。身近なところで集える場所を作ることも大切ですが、公民館や学校の空き教室などの既存の施設を活用するのも有効な手段となり得ます。あわせて、活動場所までの交通手段や駐車場の有無なども確認し、情報を発信することで、参加を促進することにもつながります。

また、開催場所、日時を固定した活動を増やすことで、活動の日時を覚えやすく、定期的な参加、空いた時間での参加の増加が見込まれます。

【広報・PR】

○実現するための要点

1. インターネット、SNS、掲示板、回覧板、広報紙を活用する
2. 活動団体や地域活動を周知する
3. 体験型イベントの企画
4. 情報格差を少なくする

地域活動を活性化していくためには、どういった団体がどのような活動を、いつ、どこで行っているのかを幅広く伝える広報・PR活動が重要です。昨今、スマートフォンの普及により、SNSなどを活用した情報発信を行っている団体もありますが、幅広い年代に周知していくためには、掲示板や回覧板、広報紙などのツールを用いた情報発信も必要です。さらに、周知では、情報へのアクセスを簡便にし、情報格差を少なくするための取組も必要となります。

また、活動団体や地域活動を周知するだけでなく、人が集まる場所で体験型イベントを開催するなど、直接目に触れて、参加できる機会を設けることも理解促進につながります。

【リーダーの発掘・育成】

○実現するための要点

1. 負担を分担できる体制づくり
2. 複数のリーダーを育成する
3. マニュアル、引継ぎ内容の明確化

地域活動を行う体制を構築する中で、中心的役割を担うリーダーは欠かせない存在です。しかし、一人のリーダーが担うことができる役割は限りがあるとともに、組織を長期にわたり団体を維持していくためには、リーダーに依存するのではなく、役割をメンバー内で分担するとともに、複数のリーダーを発掘・育成していく取組も必要です。

リーダーの発掘・育成に関してワークショップ内で、中高校生をボランティアとして募集し、ともに活動していく中で育成する方法について提案がありました。また、活動内容や引継ぎ内容を明確にしたうえでマニュアルを整備し、誰でも運営に携わることができる体制づくりを整備することも重要です。

まとめ

令和4年9月から令和5年1月まで計5回開催した地域福祉に関する市民ワークショップでは、世代間交流や地域活動、支え合い活動の活性化に向けて、現状の把握、課題の抽出、解決に向けた提案、具体的な取組についてKJ法とワールドカフェ方式を取り入れて意見交換を行い、最終的に目指す地域福祉の姿についてまとめました。

目指す地域福祉の姿

地域福祉の取組を活性化していくためには、参加者への動機付けが重要となります。どのようなインセンティブであれば、市民の参加を促進し、また負担なく継続していくことが可能か検討する必要があります。

また、SNSやインターネット、チラシやポスター、広報紙といった媒体やイベントの開催による体験会などを通して活動を広報・PRしていくことも大切な取組です。

組織を長期にわたり運営していくためには、人材の発掘と育成が欠かせません。そこでは、特定の人に負担がかからないよう、参加するメンバーで役割を分担する必要があり、活動マニュアル等の作成により役割の内容を明確にするとともに言語化し、共有することで、誰もが気負わずに参加できる体制を整備していくことも重要となります。

最後に

地域福祉を推進していくために必要な取組について、ワークショップでは多くの意見や提案をいただいただけでなく、様々な気付きもありました。市民が日頃から感じている課題は多様化しており、ニーズも様々です。より良い地域福祉を目指し、ワークショップでいただいた意見や提案を地域福祉計画の理念や目標、施策に反映し、より実効性のある計画の策定に努めていきます。



3.地域懇談会報告書

(1) 地域懇談会の概要

目的

第4次日高市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に当たって、直接地域の方々から地域の課題やニーズについて、意見を伺うため、地域懇談会を開催しました。

開催日程

※各回とも令和5年開催

学校区名	会場名	開催日※	開催時間
高萩学校区	高萩公民館	1月24日(火)	19:00~21:00
高麗学校区	高麗公民館	1月25日(水)	
高根学校区	高麗川南公民館	1月26日(木)	
武蔵台学校区	武蔵台公民館	1月31日(火)	
高麗川学校区	高麗川公民館	2月1日(水)	
高萩北学校区	高萩北公民館	3月2日(木)	

対象

- 地域住民の方で関心のある人
- 関係者（区長・自治会長、民生委員・児童委員、地域ボランティア等）

方法


- 市生活福祉課から地域福祉並びに地域福祉計画等に関する基本的な考え方について説明を実施しました。
- その後、参加者を4~8人程度のグループに分けて、グループ検討を実施しました。
討議のテーマ（前半：地域の課題について、後半：課題解決に向けた取組・提案）
- グループごとに検討、協議した内容を全体で報告し、共有しました。

備考

地域福祉計画、地域福祉活動計画の策定を一体的に進める観点から、日高市生活福祉課と日高市社会福祉協議会の共催により実施しました。


(2) 各学区の内容

○高萩学区

開催日		令和5年1月24日(火) 19時00分～21時00分	会場	高萩公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	民生委員・児童委員 8名		
	オブザーバ	高萩地域包括支援センター 1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題	取組や解決法		
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のため役員ができないとのことで、自治会を抜ける高齢者が多い。 ・独居高齢者が亡くなったときの連絡先が分からない。 ・ゴミ出しが大変である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の人に頼んでゴミ出しや簡単な作業をしてもらう。 		
	【地域】			
	課題	取組や解決法		
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入っていないお宅には回覧板が回らないので、情報が行き届かない。 ・空き家が増えている。 ・自治会の新規加入者が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策のために不動産会社や建築会社と連携をとる。 ・引っ越してきた段階で、自治会に入る理由やメリットを説明する。 			
【移動】				
課題	取組や解決法			
<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段が少なく免許返納ができない。 ・介護タクシーが利用しづらい。 ・買い物する場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と移送システムの構築をする。 			
【環境】				
課題	取組や解決法			
<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄が多発している。 ・整備ができていない山林がある。 ・光害、香害で体調を崩す人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄が多発している箇所への防犯カメラの設置を要請している。 			

【子ども、子育て】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・抜け道になっている通学路が危ない。 ・同じ区内だが、学校区の関係で民生委員の担当区外になっている班がある。 ・自治会に入っていないので、子ども会に入っていない児童がいた。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の整備、見守りを行う。 ・児童が子ども会に所属できるように、自治会が柔軟に対応する。
【その他】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の避難行動要支援者に対するの対応方法が分からない。 ・おたすけ隊のような団体を発足しようと思っても、協力者が少ない、お金がかかると利用できない人も出てくる。 	取組や解決法

○高麗学校区

開催日		令和5年1月25日(水) 19時00分～21時00分	会場	高麗公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	民生委員・児童委員、区長、一般 13名		
	オブザーバ	高麗地域包括支援センター 1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・家で介護者の負担が大きい。 ・高齢で身寄りのない単身世帯が増えている、通院が難しい。 ・高齢で役員を受け入れられない。 ・一人暮らしの高齢者の情報（困り事）が届かない。 ・独居の高齢者が、市道にかかる草木の管理が出来ていない。 ・イベントの開催が難しい。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・見守りを兼ねて、単身世帯の定期的な訪問を行う。 ・介護保険サービスの利用にあたり、包括、ケアマネージャーへ相談する。 ・コミュニケーションが一番の協力し合える体制のため、自治会の活動が重要。 ・散歩道の確保をする。 ・シルバー人材センターの項目を増やす。 		
意見の 要旨	【地域】			
	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・働いている人が多いため、日中の人口が少ない。働き世代が、地域活動に参加出来ていない。 ・核家族化が進んでいて、世代間の交流が少ない。 ・コロナでイベント等が少ないため、人との交流が少なく、地域の問題が上がってこない。上がったとしても共有が出来ない。 ・区長の成り手がない。 ・おたすけ隊などのボランティアが周知されていない。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・人が気軽に集まれるイベントや場所を作る。 ・色々な世代の交流を増やす。 ・ボランティア活動の良さややりがいを広げ、担い手を広げていく。 		


<ul style="list-style-type: none"> ・転入した人が、区（自治会）に入会しない。 ・人に頼りたくない、援助の拒否がある。 ・空地、空き畑、空き家 	
【子ども】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の地域離れ。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・数少ない子どもたちに目を向ける。
【若者】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が減っている、働き手が少ない。 ・若い世代の中でも、活動をしたい人がいるが、情報を知らない可能性がある。 ・地域への思いが薄い。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・若者の就労企業、施設など、働く場所の確保をする。 ・若者の就労の意向の把握、企業の援助を手厚くする。 ・情報が届けば人が集まるかもしれないので、広報ひだまり等の情報誌の周知が必要。
【移動】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関が少なく、車での移動でないと不便。 ・近くに買い物ができる場所がない。 ・自動車免許を返納したら、移動手段が無くなること。 ・医療機関が遠い。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・おたすけ隊の利用を促進する。 ・市内に、人が集まれるショッピングセンターを建設する。 ・市内循環バスを運行する。
【その他】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報扱いが厳しくなり、親切とおせっかいの境目が難しい。 ・使わない校舎の再利用。 ・本日の懇談会への出席者が少ない。 ・個々で趣味を発信する。 ・行政が協働に積極的ではない。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流をする。 ・趣味の展示会などを開催して、人が集まれる場所を作る。

○高根学校区

開催日		令和5年1月26日(木) 19時00分～21時00分	会場	高麗川南公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	区長、民生委員・児童委員、一般 6名		
	オブザーバ	高麗川地域包括支援センター1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題		取組や解決法	
	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者の活用。 ・いろいろな特技や技能を持った人が住んでいるが地域に還元されていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の「出番」を増やせるような取組をつくる。 	
	【地域】			
課題		取組や解決法		
<ul style="list-style-type: none"> ・人口を今後いかに増やしていくか。 ・空き家問題。 ・遠足の聖地だが、宿泊できる場所がない。 ・民生委員の負担が大きく、成り手がいないため、民生委員の人数が足りない。よって、地域で困っている人の相談先がない。 ・地域の活性化。 ・自治会の役が回ってくるため、自治会を抜ける人も多い。担い手不足。また、アパート・マンションに居住する人は自治会に入らない人が多く、民生委員としての把握が困難。 ・転入してきたが、友人がいない。 ・閉鎖的な自治会もある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・空き家を有効活用し、転入者には市が空き家のリフォームなど補填。 ・遠足に来た際に、郷土料理や体験などが出来るような仕組みを作り、お金を使ってもらえるようにする。高齢者が郷土料理などに協力。 ・新しく転居してきた人や地域の人との相談の場・つなぐ場として、たかねサロンを活用。 ・男性の居場所づくりのために、男性向けサロンの実施。 ・地域行事などをカラオケ等の行事型から体操などの機能型へ移行。規模を縮小し、小さな集まりの機会を増やす。 ・学校や子どもたちにもっと地域に出てきてもらい、相互的に地域全体で見守りができる形を作る。 		


【移動】	
課題 ・買い物難民。買い物や役場までの足が無く大変。 ・デマンド交通問題。近隣市町村では導入が進んでいるが、日高市では過去に失敗している。	取組や解決法 ・東急こまがわの場合、買い物帰りは荷物を持って坂道を上ることになり、高齢者にとって大変。自治会で帰りだけでもヤオコー等からの専用交通を検討。 ・地域おたすけ隊では通院のための移送利用も多い。おたすけ隊ではできない相乗り支援ができるような仕組みがあれば便利。
【環境】	
課題	取組や解決法
【子ども、子育て】	
課題 ・子どもたちに地域でも役割があると良い。	取組や解決法 ・地域の課題の解決に中学生が関わることができるなどの取組を促す。
【その他】	
課題 ・小中学校統廃合に伴い、どのように学校を活用していくか。	取組や解決法

○武蔵台学校区

開催日		令和5年1月31日(火) 19時00分～21時00分	会場	武蔵台公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	区長、民生委員・児童委員、一般 22名		
	オブザーバ	高麗地域包括支援センター 1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題	取組や解決法		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会員、班長の担い手が少ない。 ・高齢者の相談相手がいない。 ・認知症の人が増加している。 ・ゴミ出し、庭の手入れ、車を使った移動が困難な人が増加している。 ・独居の高齢者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高生に地域への関心を持ってもらえるように、福祉教育等で地域学習を行う。→地域の担い手の育成 ・小中学生の登校時に、ゴミ出しの協力を依頼する。おたすけ隊を活用する。 ・住み慣れた地域で暮らし続けられるように、空き家を活用して高齢者のシェアハウスのようなものを地域につくる。 		
	【地域】			
	課題	取組や解決法		
	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の維持が困難になってきている。 ・気軽に集まれる場所が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に地域の会議への出席を促し、意見を聞く。 ・外出をするきっかけとなる、楽しい場所、イベントをつくる。 		
【子ども】				
課題	取組や解決法			
<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の交流ができていない。 ・子ども、子育て世代の地域活動への参加が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援や子ども食堂など子どもが集まるイベントを利用し世代間交流を促進する。 ・若い世代にも役割を設けて活動に参加してもらう。 			


【空き家】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯面や火災が心配である。 ・ 活用したくても権利の問題で使用許可が下りづらい。 ・ 空き家の草木や雑草が民家に入ってしまう。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂の会場として利用する。 ・ 子育て世代を呼び込むために、農地付き住宅を売り出す等工夫をする。 ・ カフェなどに改装して、子育て世代の雇用を創出する。 ・ 災害時の避難所、仮住まいとして利用できるように整備をする。 ・ スケボーなどができる場所として整備し、人が集まるきっかけの場として活用する。
【移動】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関が少ない。 ・ 坂道、歩道の段差により、車いす利用者の移動が困難である。 ・ 買い物、通院時の移動が不便である。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政と移送システムの構築を行う。 ・ 住民が声を挙げて、近隣のスーパーにサテライト出店を依頼する。 ・ 地域のスーパーに根付いてもらうために、住民同士で利用の呼びかけを行う。
【その他】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 降雪時の雪かきが非常に大変である。 ・ 外出の機会が少なく、家にいることが多くなってしまっている人がいる。 ・ 個人情報の壁があり、入手できる情報に限界がある。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい道については、行政に除雪を依頼する。各家庭については、近所の若い世代に手伝ってもらおう。 ・ 日頃から見守り、声掛けを行う。外出機会を創出する。

○高麗川学校区

開催日		令和5年2月1日(水) 19時00分～21時00分	会場	高麗川公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	区長、民生委員・児童委員、一般 16名		
	オブザーバ	高麗川地域包括支援センター1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題 ・ 地域の高齢化が著しい。地域で高齢者の意見に偏ってしまうことがある。		取組や解決法	
	【地域】			
	課題 ・ 地域や市に魅力が少ない。人を引き寄せるイベントや住みたいと思わせることがないと子どもは増えない。 ・ 昔からの住民と転居してきた住民に壁があり、コミュニケーションが取れていない。比較的新しい住民は、地域の集いに入り込めず、つながりを持っていない。全体的な地域内の関わりの薄さ。 ・ 役員の負担が理由で、自治会の未加入や退会が増えていて、役員の担い手が不足している。高齢世帯や要介護ありの人の班長問題もある。 ・ 地域で順々に1年交代で自治会の役員を担当しているが、継続できる人がおらず、リーダー的存在の成り手がいない。そのため、世代間の情報伝達もできなくなっている。 ・ 新型コロナウイルスの影響で自治会などの行事は減っているが、役員の仕事量の負担は変わっていない。		取組や解決法 ・ 小中一貫教育の導入により廃校になった校舎を食堂や地域のイベントなどで活用。 ・ 防災訓練など学校での行事と地域での行事を一体化させることで世代間の交流を図る。 ・ 子どもたちの顔を覚えてもらえるような地域イベントの実施。 ・ 自治会の意味・存在の共有。 ・ 横のつながりを持ち、同じ意識を持つように考える。 ・ 自治会に関して、協力者を募り、既存のものを変えていく時期ではないか。変えていくにも、任期の短さや働き盛りの世代には負担が大きいことから役員の仕事量をスリム化。誰でも区長ができるような仕組みづくり。	

<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代がない。市街化調整区域は家を建てることができず世帯が増えない。世帯数が少ないと役員が回ってくるのも早く、選任の難しさがある。 ・民生委員の成り手がいない。担い手不足。 	
【移動】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出。日常的に出歩くことに不便がある。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・循環バスではなく、デマンド型のワゴン車など小回りの利く方法の導入。
【環境】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの不法投棄。 ・空き家問題や雑草 	取組や解決法
【子ども、子育て】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行。子ども会の存続が危うくなり、親同士のコミュニケーションも不足しつつある。 ・地区内の子どもの多くが他の学校区の学校に通うことで、把握や連絡ができない。 	取組や解決法
【その他】	
課題	取組や解決法

○高萩北学校区

開催日		令和5年3月2日(木) 19時00分～21時00分	会場	高萩北公民館
出席者 ※順不同 敬称略	参加者	区長、民生委員・児童委員、一般 19名		
	オブザーバ	高萩地域包括支援センター 1名		
	事務局	市役所 3名 社会福祉協議会 4名		
意見の 要旨	【高齢者】			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の高齢者が多く、見守りが必要な人が増えている。 ・ゴミ出しが大変な高齢者がいる。 ・自治会に入っていない地域の人の把握ができない。 		取組や解決法
				<ul style="list-style-type: none"> ・ITを活用した見守り、連絡システムの構築を進める。 ・おたすけ隊を活用する。
	【地域】			
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会から抜きたいという人が増えている。未加入者が多い。 ・近所づきあいが希薄である。 ・役員、民生委員の成り手がいない。 ・自治会館の維持費は自治会員負担だが、使用している人は概ね限られている。 		取組や解決法
				<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に入るメリットを作る。 ・役員や班長については、定年制にする。 ・自治会役員業務、回覧等IT化を進める。
【移動】				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段が少ない。 ・スーパーや病院に行く手段が少ない。 ・タクシー券が活用できていない。 		取組や解決法	
			<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーや病院を巡回するコミュニティバスのようなものを作る。 ・住民のニーズをしっかりと把握したうえで、システムを構築する。 	
【環境】				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多い。 ・空き家の雑草や庭木の手入れができていない。 ・ゴミを道路に捨てる人がいる。 		取組や解決法	

【子ども、子育て】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊が高齢化している。 ・子どもの遊び場が少ない。 ・子ども会への加入者が減っている。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・役割を見直して負担を軽減する。
【その他】	
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流できる場が無い。 ・どこに相談していいか分からない。 ・コロナ禍で認知症が進んだ。 ・外国人が転入してくるが、コミュニケーションが難しい。 	取組や解決法 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家や自治会館を活用する。 ・CSWの周知を行う。

(3) 総括

○各地域に共通して抽出された主な課題

- ・ 区・自治会などのコミュニティ活動、民生委員・児童委員などの担い手が不足、役員等の後継者問題。
- ・ 前回と比較して、地域で区・自治会に加入しない選択をする人や、脱会する人が増加し、自治組織の維持が危惧される。
- ・ コロナ禍による地域でのコミュニケーション機会の減少が、地域コミュニティに大きな影響を与えている。
- ・ 地域おたすけ隊など、地域のボランティアについては、担い手の高齢化が顕著であり、活動の継続性の確保が課題。
- ・ 総じて世代間の結び付き、つながりが弱く、次世代へ継承がどの分野でも課題。
- ・ 地域の高齢化に伴い、移動手段が無く外出に不便をきたしている。タクシー券等の配布にとどまらず、新たな公共交通対策への期待。
- ・ 少子高齢化が顕著となり、地域における課題が発生することが予見されていたにもかかわらず、対策が打たれて来なかったことに無念さを感じる。

○各地域における主な課題

【武蔵台学校区】

- ・ 高齢化が顕著であり、独居の問題と併せて地域での見守りや安否確認のニーズが高まっている。
- ・ 空き家が増加して、防犯上、衛生上の心配がある。
- ・ 移動や買い物に不便さを感じている人が増えている。

【高麗川学校区】

- ・ 住民の行事への参加が少なくなってきた、地域の活力が減退傾向にある。
- ・ 新旧住民間のコミュニケーションの機会が乏しく、地域全体としてのまとまりに欠けている。
- ・ 地域コミュニティの維持に欠かせない「担い手」と「リーダー」の不足が顕著である。

【高麗学校区】

- ・ 地域の伝統と文化を守ってきた活動が、住民の高齢化により維持や継続が困難となっている。
- ・ 援助を必要とする人は少なからずいるが、他人のお世話になることに躊躇がある人も多い。
- ・ 世代間のギャップがあり、地域活動への参画につながらない。

【高根学校区】

- ・ 地域の住民や活動に関心が薄い人が多く、つながりが弱くなっている。
- ・ 民生委員の成り手が少なく、ニーズの把握や問題への対応力が低下している。
- ・ 共働き世帯が多く、働く世代の地域活動への参加が低調である。

【高萩学校区】

- ・ 支援を必要とする人への具体的なサービスが少ないことが課題である。
- ・ 区や自治会への参加協力が低調となってきた。
- ・ 若い世代の地域に対する関心が希薄となっている。

【高萩北学校区】

- ・ 移動手段が無く、あっても資源が少ない（「タクシーがつかまりにくい」など）ことが課題。
- ・ 地域全体で高齢化が顕著となり、地域コミュニティの維持が課題となっている。
- ・ 家族構成が変化しており、地域における福祉ニーズが多様化している。

○まとめ

地域懇談会で話し合われた課題や取組内容等を踏まえ、地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定するとともに地区社会福祉協議会の設置や地域資源の開発、地域活動など具体的な取組を進めていく際の参考とします。

とりわけ、世代間のつながりの継承を意識した情報共有や、地域における協働の仕組づくりへの取組が喫緊の課題となっています。

令和4年度
第4次日高市地域福祉計画策定に向けた
市民意識調査
市民ワークショップ
地域懇談会
報告書

発行年月：令和5年3月

発行：日高市
編集：福祉子ども部 生活福祉課 地域福祉担当
住所：〒350-1292 埼玉県日高市大字南平沢 1020 番地
電話：042-989-2111
FAX：042-985-4444